

## 6 第二次近衛内閣の成立から太平洋戦争開戦まで

323

昭和15年7月25日

在北京藤井大使館參事官より  
松岡(洋石)外務大臣宛(電報)

重慶政権内の親ソ勢力増大や汪兆銘政権の対  
重慶工作妨害など和平工作の問題点に関する  
何澄内話について

北京 7月25日前発

本省 7月25日前着

第五五八號(極秘、部外秘、外信、館長符號扱)

<sup>(1)</sup>上海ニ於テ特殊工作ニ從事シ居リタル何澄來燕中ノ處二十  
三日原田對スル内話要領左ノ通り御參考迄

一、曩ニ新疆、西藏ヲ巡視中自分ト面會ノ爲蔣介石ヨリ香港  
行ヲ命セラレタル吳忠信(蒙藏委員會委員長)ト六月中旬  
同地ニテ會見シタルカ其ノ際吳ハ和平ニ關スル日本側ノ  
條件ヲ探リタルニ付自分ハ率直ニ支那側ハ「人民ノ生活  
ノ安定」ヲ條件ニ日本ニ戰勝國トシテノ光榮(領土ノ割  
讓(滿洲國ノ承認ヲ意味ス)及賠償)ヲ與フルコトニ肚ヲ

定メタル上双方ヨリ正式代表ヲ派シ具體的交渉ニ入ルコ  
ト然ルヘキ旨語リタル處吳ハ之ヲ書付ニシ持チ歸リタル  
カ自分ノ得タル印象ニ依レハ重慶ニ於テハ親蘇派ノ勢力  
カ日増ニ増大シ此ノ儘押進ムニ於テハ蘇聯邦ト全面的ニ  
合作スルニ至ルニアラスヤトノ感ヲ抱カシムルモノアリ  
タリ尙二日ニ亘ル吳トノ會見ヲ終リタル上南京ニ赴キ板  
垣總參謀長ニ面會委細報告スルト共ニ此ノ際從來ノ日本  
側ノ多元的對重慶特殊工作ヲ一擲シ日本政府ヨリ一元的  
代表ヲ派シ之ニ當ラシムルコト然ルヘキ旨建言シ置キタ  
リ

<sup>(2)</sup>二、汪政権ハ一般ヨリ國民黨腐敗分子ノ寄集メト觀ラレ事實  
漸次馬脚ヲ現シ來リ日本側ニ對シテハ重慶側トノ橋渡シ  
ヲ努ムヘキ旨言ヒ振ラシ居ルモ其ノ實對重慶工作ニ種々  
ノ妨害ヲ加ヘツツアリ現ニ上海ニ於テ自分等カ秘密裡ニ  
會合シタル重慶側密使等ヲ逮捕監禁セル事實モアル處右  
ハ日本側ト重慶トノ間ニ和議成立スルニ於テハ彼等ハ臨

時維新兩政府ノ場合ト同様ノ憂キ目ニ會フヘキヲ惧レ居ル爲ニ外ナラス現ニ政府要人ニシテ之ヲ自分ニ洩セル者アリ自分ヨリ這般ノ事情ヲ板垣總參謀長ノ耳ニ入レタル處同參謀長モ困惑ノ色ヲ示シ居タリ

三、過般ノ華北政務委員會委員長ノ更迭ニ絡マル紛糾ハ當初ノ王克敏ノ策動ニ依リタルモノナルカ彼ノ程度迄紛糾ヲ續ケタルハ南京側一部策士ノ北支乗取ノ策動アリタルモノ一因ナリ過般ノ陳内政部長、傳鐵道部長ノ來燕ハ右ヲ裏書スルモノナルカ曲リナリニモ王揖唐ノ就任ヲ見タル今日ニ於テハ當分ハ策ヲ施スニ由無キ次第ニテ目下ハ重態ナル湯爾和ノ死ヲ豫想シ其ノ地位ヲ狙ヒツツアリ一般ニ於テハ南京側ノ卑劣サハ言語ニ絶シ心中日本モ無ク支那モ無ク唯自己ノ榮達ノミヲ計ルモノト看做サレ居リ上海南京方面ニ於テハ「南京虫」ト渾名セラレ毛嫌ヒセラレツツアル有様ナリ

右ハ何澄カ上海、南京ニ於テ見聞セル所ヲ率直ニ語りタルモノナルニ付テハ右御含ミノ上同人ノ立場ニ迷惑ヲ掛ケケル様取扱上充分御配意相煩度シ

南京、上海、漢口、廣東、天津、青島、濟南へ轉電セリ

324

昭和15年7月26日 閣議決定

「基本國策要綱」

昭和二五、七、二

閣議決定

世界ハ今や歴史的一大轉機ニ際會シ數個ノ國家群ノ生成發展ヲ基調トスル新ナル政治經濟文化ノ創成ヲ見ントシ、皇國亦有史以來ノ大試練ニ直面ス、コノ秋ニ當リ眞ニ肇國ノ大精神ニ基ク皇國ノ國是ヲ完遂セントセハ右世界史的發展ノ必然的動向ヲ把握シテ庶政百般ニ亘リ速ニ根本的刷新ヲ加ヘ萬難ヲ排シテ國防國家體制ノ完成ニ邁進スルコトヲ以テ刻下喫緊ノ要務トス、依ツテ基本國策ノ大綱ヲ策定スルコト左ノ如シ

基本國策要綱

一、根本方針

皇國ノ國是ハ八紘ヲ一宇トスル肇國ノ大精神ニ基キ世界平和ノ確立ヲ招來スルコトヲ以テ根本トシ先ツ皇國ヲ核心トシ日滿支ノ強固ナル結合ヲ根幹トスル大東亞ノ新秩序ヲ建設スルニ在リ

之カ爲皇國自ラ速ニ新事態ニ即應スル不拔ノ國家態勢ヲ  
確立シ國家ノ總力ヲ舉ケテ右國是ノ具現ニ邁進ス

## 二、國防及外交

皇國內外ノ新情勢ニ鑑ミ國家總力發揮ノ國防國家體制ヲ  
基底トシ國是遂行ニ遺憾ナキ軍備ヲ充實ス

皇國現下ノ外交ハ大東亞ノ新秩序建設ヲ根幹トシ先ツ其  
ノ重心ヲ支那事變ノ完遂ニ置キ國際の大變局ヲ達觀シ建  
設的ニシテ且ツ彈力性ニ富ム施策ヲ講シ以テ皇國國運ノ  
進展ヲ期ス

## 三、國內態勢ノ刷新

我國内政ノ急務ハ國體ノ本義ニ基キ庶政ヲ一新シ國防國  
家體制ノ基礎ヲ確立スルニ在リ之カ爲左記諸件ノ實現ヲ  
期ス

1、國體ノ本義ニ透徹スル教學ノ刷新ト相俟チ自我功利  
ノ思想ヲ排シ國家奉仕ノ觀念ヲ第一義トスル國民道德  
ヲ確立ス尙科學的精神ノ振興ヲ期ス

2、強力ナル新政治體制ヲ確立シ國政ノ綜合的統一ヲ圖  
ル

イ、官民協力一致各々其ノ職域ニ應シ國家ニ奉公スル

コトヲ基調トスル新國民組織ノ確立

ロ、新政治體制ニ即應シ得ヘキ議會制度ノ改革

ハ、行政ノ運用ニ根本的刷新ヲ加ヘ其ノ統一ト敏活ト

ヲ目標トスル官場新態勢ノ確立

3、皇國ヲ中心トスル日滿支三國經濟ノ自主的建設ヲ基

調トシ國防經濟ノ根基ヲ確立ス

イ、日滿支ヲ一環トシ大東亞ヲ包容スル皇國ノ自給自

足經濟政策ノ確立

ロ、官民協力ニヨル計畫經濟ノ遂行特ニ主要物資ノ生

産、配給、消費ヲ貫ク一元的統制機構ノ整備

ハ、綜合經濟力ノ發展ヲ目標トスル財政計畫ノ確立並

ニ金融統制ノ強化

二、世界新情勢ニ對應スル貿易政策ノ刷新

ホ、國民生活必需物資特ニ主要食糧ノ自給方策ノ確立

ヘ、重要産業特ニ重、化學工業及機械工業ノ劃期的發

展

ト、科學ノ劃期的振興並ニ生産ノ合理化

チ、内外ノ新情勢ニ對應スル交通運輸施設ノ整備擴充

リ、日滿支ヲ通スル綜合國力ノ發展ヲ目標トスル國土

開發計畫ノ確立

4、國是遂行ノ原動力タル國民ノ資質、體力ノ向上竝ニ人口増加ニ關スル恆久の方策特ニ農業及農家ノ安定發展ニ關スル根本方策ヲ樹立ス

5、國策ノ遂行ニ伴フ國民犠牲ノ不均衡ノ是正ヲ斷行シ厚生の諸施策ノ徹底ヲ期スルト共ニ國民生活ヲ刷新シ眞ニ忍苦十年時難克服ニ適應スル實質剛健ナル國民生活ノ水準ヲ確保ス

編注 本要綱は昭和十五年八月一日に内閣から発表された。

325

昭和15年7月26日

在上海三浦総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

重慶側が政権内での和平問題討議の風聞を全面否定し抗戦継続の決意を示したとのロイター電報告

上海 7月26日後發  
本省 7月26日後發

第一五七一號

二十五日重慶發「ルーター」電ニ依レハ七月二十二日開催

ノ國防委員會ニ於テ和戰問題討議ノ爲八月一日各軍事領袖會議決定説及民主國擁護ノ外交政策ヲ變更シ樞軸國家接近策採用説ニ關シ同地消息通ハ何レモ之ヲ否認シ前者ニ關シテハ七中全会中央執監委員會國防委員會席上國府紀念週及緬甸、滇越兩「ルート」遮斷後發表セル蔣介石ノ各宣言中ニ於テ國際情勢ノ發展如何ニ不拘支那ハ和平提議ヲ考慮セズ飽迄繼續抗戰ノ決意ヲ有スル旨明示セルコトヲ指摘シ且目下日本或ハ英國側ヨリ何等和平提議ニ接シ居ラサルノミナラス事變三年來南京陥落前「トラウトマン」獨大使力支那ニ探リヲ入レタル程度ノ和平提議アリタル以外時々責任ナキ方面ヨリ種々和平提議アリタルモ政府ハ之ヲ重視シタルコト無シト斷シ後者ニ關シテハ佛國ノ懊惱ト英國ノ緬甸公路封鎖後喧傳セラレタルモノニシテ最近支那側當局集會ノ際世界情勢ノ激變ニ對應シ獨伊蘇三國關係ノ緊密ヲ計リ其ノ外交政策ヲ調整スル必要アル旨主張セル若干ノ首腦部アリタルモ最高當局ハ既定外交政策ヲ維持繼續方堅持シ國際情勢ノ進展ニ依リ之ニ變更ヲ加フヘキニ非ストテ一面獨伊トノ關係ヲ保持スルト共ニ他面米蘇ノ抗戰援助ヲ促進セシムル政策ヲ固執シ居ルヲ以テ現在ノ處其ノ外交政策ニ何

等變更無シト爲シ居レル趣ナリ

北京、天津、南京、漢口ニ轉電シ

香港ニ暗送セリ



326 昭和15年7月27日 大本營政府連絡會議決定

「世界情勢ノ推移ニ伴フ時局處理要綱」

世界情勢ノ推移ニ伴フ時局處理要綱

昭和一五、七、二七

大本營政府連絡會議決定

方針

帝國ハ世界情勢ノ變局ニ對處シ内外ノ情勢ヲ改善シ速ニ支那事變ノ解決ヲ促進スルト共ニ好機ヲ捕捉シ對南方問題ヲ解決ス

支那事變ノ處理未タ終ラサル場合ニ於テ對南方施策ヲ重點トスル態勢轉換ニ關シテハ内外諸般ノ情勢ヲ考慮シ之ヲ定ム

右二項ニ對處スル各般ノ準備ハ極力之ヲ促進ス

要領

第一條 支那事變處理ニ關シテハ政戰兩略ノ綜合力ヲ之ニ

集中シ特ニ第三國ノ援蔣行爲ヲ絶滅スル等凡ユル手段ヲ

盡シテ速ニ重慶政權ノ屈伏ヲ策ス

對南方施策ニ關シテハ情勢ノ變轉ヲ利用シ好機ヲ捕捉シ

之ヲ推進ス

第二條 對外施策ニ關シテハ支那事變處理ヲ推進スルト共

ニ對南方問題ノ解決ヲ目途トシ概ネ左記ニ依ル

一、先ツ對獨伊蘇施策ヲ重點トシ特ニ速ニ獨伊トノ政治的結

束ヲ強化シ對蘇國交ノ飛躍的調整ヲ圖ル

二、米國ニ對シテハ公正ナル主張ト嚴然タル態度ヲ持シ帝國

ノ必要トスル施策遂行ニ伴フ已ムヲ得サル自然の惡化ハ

敢テ之ヲ辭セサルモ常ニ其動向ニ留意シ我ヨリ求メテ摩

擦ヲ多カラシムルハ之ヲ避クル如ク施策ス

三、佛印及香港等ニ對シテハ左記ニ依ル

(イ)佛印(廣州灣ヲ含ム)ニ對シテハ援蔣行爲遮斷ノ徹底ヲ

期スルト共ニ速ニ我軍ノ補給擔任、軍隊通過及飛行場

使用等ヲ容認セシメ且帝國ノ必要ナル資源ノ獲得ニ努

ム

情況ニヨリ武力ヲ行使スルコトアリ

- (ロ) 香港ニ對シテハ「ビルマ」ニ於ケル援蔣「ルート」ノ徹底的遮斷ト相俟チ先ツ速ニ敵性ヲ芟除スル如ク強力ニ諸工作ヲ推進ス
- (ハ) 租界ニ對シテハ先ツ敵性ノ芟除及交戰國軍隊ノ撤退ヲ圖ルト共ニ逐次支那側ヲシテ之ヲ回收セシムル如ク誘導ス
- (ニ) 前二項ノ施策ニ當リ武力ヲ行使スルハ第三條ニ據ル
- 四、蘭印ニ對シテハ暫ク外交的措置ニ依リ其重要資源確保ニ努ム
- 五、太平洋上ニ於ケル舊獨領及佛領島嶼ハ國防上ノ重大性ニ鑑ミ爲シ得レハ外交的措置ニ依リ我領有ニ歸スル如ク處理ス
- 六、南方ニ於ケル其他ノ諸邦ニ對シテハ努メテ友好的措置ニヨリ我工作ニ同調セシムル如ク施策ス
- 第三條 對南方武力行使ニ關シテハ左記ニ準據ス
  - 一、支那事變處理概ネ終了セル場合ニ於テハ對南方問題解決ノ爲内外諸般ノ情勢之ヲ許ス限り好機ヲ捕捉シ武力ヲ行使ス
  - 二、支那事變ノ處理未タ終ラサル場合ニ於テハ第三國ト開戦

- ニ至ラサル限度ニ於テ施策スルモ内外諸般ノ情勢特ニ有利ニ進展スルニ至ラハ對南方問題解決ノ爲武力ヲ行使スルコトアリ
- 三、前二項武力行使ノ時期、範圍、方法等ニ關シテハ情勢ニ應シ之ヲ決定ス
- 四、武力行使ニ當リテハ戰爭對手ヲ極力英國ノミニ局限スルニ努ム
- 但シ此ノ場合ニ於テモ對米開戦ハ之ヲ避ケ得サルコトアルヘキヲ以テ之カ準備ニ遺憾ナキヲ期ス
- 第四條 國內指導ニ關シテハ以上ノ諸施策ヲ實行スルニ必要ナル如ク諸般ノ態勢ヲ誘導整備シツツ新世界情勢ニ基ク國防國家ノ完成ヲ促進ス
- 之カ爲特ニ左ノ諸件ノ實現ヲ期ス
  - 一、強力政治ノ實行
  - 二、總動員法ノ廣汎ナル發動
  - 三、戰時經濟態勢ノ確立
  - 四、戰爭資材ノ集積及船腹ノ擴充
- (繰上輸入及特別輸入最大限度實施並ニ消費規正)
- 五、生産擴充及軍備充實ノ調整

327

昭和15年8月3日

在上海三浦總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

基本国策大綱に関する中国紙報道振り報告

上海 8月3日後発

本省 8月3日後着

第一六五六號

我基本国策ノ要項ハ二日當地各漢字紙共其ノ大要ヲ掲ケ之ヲ重視シ居レルカ三日ニ至ルヤ中美日報及神州日報ハ社説ヲ掲ケ右ハ日本ノ野心ト焦慮ヲ具體的ニ表現セル紙上一片ノ幻想ニ過キス特ニ日本力依然支那ヲ屬國化セントスル陳腐ナル主張ヲ改メス大陸政策ト南進政策ノ同時實現ヲ計ラントスルハ全然夢想ノ域ヲ脱セス實現ノ可能性ナシトテ例ノ如ク故意ニ之ヲ誹謗シ居レルカ中美日報ハ右ハ前内閣ニテ發展の傾向ニ在リタル諸政策ヲ繼承シ之ヲ純化シ其ノ全貌ヲ露出セントスル點ニ於テ特徴アリ斯クテハ近衛内閣ノ對外課題ハ確定セリト雖現下複雑怪奇ノ國際情勢下ニ於テハ之ヲ明朗ナル行動ニ移スニハ相當ノ距離アルヘシト論シ

居レリ

支、天津、北京、漢口ニ轉電シ香港ニ郵送セリ

328

昭和15年8月10日

事変解決への抱負に関する松岡外相談話

松岡外務大臣車中談(八月十日)

我國ノ外交基本方針ハ八月一日ニ發表セラレマシタ基本國策要綱及同日私カ致シマシタ談話ニ依ツテ略明瞭ニサレタト信シマスカ、凡ユル突發性ノ機會ヲ包藏シテ居ル現下ノ複雑ナル國際情勢ニ處スルニハ、内速ニ新體制ヲ整ヘ高度ニ國防ヲ鞏化シ國力ヲ培養シ、外皇道ノ精神ニ則リ先ツ東亞諸國、諸民族ヲシテ各々ソノ處ヲ得セシメ相與ニ大東亞共榮圈ノ確立ニ向ツテ邁進セネハナラヌト思フノテアリマス。而シテ大東亞共榮圈確立ニ當リマシテハ我方ト其ノ所信ヲ同シクスル國々ト提携シ否、左様ナル國ヲ一國テモ多ク作りツツ他方凡ユル障害ハ敢然之ヲ排除スル覺悟テアリマス。ソレニツケテモ出來ルコトナラ支那事變ヲ一日モ速ニ處理シナクテハナラヌト思ヒマスルカ、併シソレモ世界

全般ノ情勢カラ切放シテ出來ルモノテハナク又姑息ナル處理ノ斷シテ不可ナルコトハ申ス迄モアリマセヌ。ソノ處理ニ急ナル兎モスレハアセリ氣味ニナル危険ノアルコトハ朝野等シク戒メネハナリマセヌ。南京ニ於ケル阿部大使ト汪精衛氏トノ間ノ交渉ハ順調ニ進捗シ遠カラス結末ニ到達スルテアラウト存シマス。重慶政權ハ未ニ迷夢醒メス抗日ノ途ヲ辿ツテ居リマスカ皇軍陸海將士ノ勇猛果敢ナル徹底的武力討伐ニ依ツテ今ヤ彼等ハ最後ノ關頭ニ立至ツテ居リマス。私ハ蔣介石ヲハシメモシ眞ニ中國ヲ愛シ東亞諸民族ノ將來ヲ憂ヘンシテ歐米否世界空前ノ大動搖、大轉換ノ機ヲ察スルタケノ聰明サト眞劍味ヲ持ツナラハソノ内皇國ノ眞意ヲ悟ルノ日カ到來スルテアラウトヲ期待スルモノテアリマス。彼等カ今日迄餘喘ヲ保チ得タ主タル所以ハ佛領印度支那或ハ英領「ビルマ」等ヲ通スル諸外國ヨリスル物資供給ニアリマシタカ、佛領印度支那ニ關シマシテハ佛國側ハ近來漸次我方ノ公正ナル要求ニ應スル姿勢ヲ取ツテ來テルノテアリマス。目下現地ニ於キマシテハ我軍、外務官憲ハ佛印官憲ノ協力ヲモ得テ物資輸送路ノ監視ニ大努力ヲナシテ居リ又「ビルマ」ヲ通スル對重慶物資輸送ニ關シマシ

テモ已ニ世人周知ノ通りノカ禁壓實行ニ付キマシテマタ一時的テハアリマスカ兎モ角英國モ讓歩シ我方モ目下最善ヲ盡シテ居ル次第テアリマス。

尙歐米ニ於ケル情勢ハ日ニ緊迫複雑ノ度ヲ加ヘ來ツテ居ルノテアリマスルカ、ソノ推移ハ固ヨリ我カ國策遂行ニ重大ナル影響ヲ及ホスモノテアリマスノテ我方ト致シマシテハ斷エス歐米諸國ノ動向ヲ注視シ此ノ間ニ善處センコトヲ期シテ居ル次第テアリマス。

又通商貿易ノ部面ニ於キマシテモ此ノ如キ世界ノ情勢力之二及ホシツアル影響ハ眞ニ輕視スヘカラサルモノカアリマスカ今後ニ於ケル經濟情勢ニハ一大變革カ來ルモノト豫想セラレマスノテ之ニ即應シテ臨機應變ノ策ヲ講シテ居ルノテアリマス我方カ重點ヲ置イテ居リマス東亞經濟圈ノ建設ト云フコトモ亦右ニ述ヘマシタ世界經濟情勢ノ變革ニ對處スルモノニ外ナラナイノテアリマス。

私ハ東亞民族相提携シ先ツ以テ大東亞新秩序ノ建設ヲ完成シ延イテ公正ナル世界恆久平和ノ達成ニ寄與スルコトコソ大和民族否東亞諸民族全體ニ課セラレタ大使命ト確信スルモノテアリマシテ、素ヨリノ力達成ハ一日ニシテ成ルモノ



テハナク又其前途幾多ノ困難ヲ覺悟シナケレハナリマセン  
カ一億一心之ニ精進セハ必スヤ此大理想ヲ實行シ得ルコト  
ヲ信シテ疑ハサルモノテアリマス。

編注 本文書は、昭和十五年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第五號)から抜粋。

329 昭和15年9月5日

外務省東亞局第一課作成の「日支全面和平處  
理方策二關スル試案」

日支全面的和平處理方策二關スル試案

(昭和一五、九、五、亞一)

一、阿部大使ニ於テ南京政府ヲ相手トシ交渉中ナリシ條約問  
題ハ客月末ヲ以テ一段落シ右二關スル再交渉(必要アル  
場合)及日支兩國ノ國內手續(調印前ニ於ケル樞密院御諮  
詢ヲ含ム)カ順調ニ進行スルモノトセハ十月末若ハ十一  
月初旬ニ條約調印從テ南京政府ノ正式承認ノ運ヒトナル  
ヘキ順序ナル處右ハ必スシモ日支間ノ全面的和平ヲ即急

ニ招來スルコトトハナラス日支事變ハ寧ロ長期戰トナル  
可能性大ナルヲ以テ右條約調印ニ至ル期間内ニ於テ全面  
的和平ノ實現、換言セハ重慶政權ノ屈服ヲ招來スル爲ノ  
有ユル努力行ハルルヲ要スヘシ右努力ノ一トシテ目下總  
軍ニ於テ實行中ノ謀略工作ノ成果ヲ速カニ擧クル様カ之  
進行ヲ計ルコトモ一方法ナルヘキ處本件謀略ハ今日迄ノ  
經過ニ徴スルニ二百%成功スルカ百%失敗スルカノ性質ノ  
モノニシテ他ノ努力ノ爲右工作ノ進展ヲ妨害スルコトハ  
差控フルヲ要スルモ本件謀略ノミニ依頼シ其ノ他ノ方法  
ハ一切手ヲ出サスト言フカ如キハ此際執ルヘキ方策ニア  
ラサル情勢ナルヲ以テ右謀略ト別箇ニ政府ニ於テ廟議ヲ  
定メ全面的和平工作ヲ進行スルノ要アリ  
其ノ一ハ實質上重慶ヲ相手トスル和平交渉ニシテ他ノ一  
ハ第三國(獨逸)ヲ利用スル方法ナルヘシ  
二、重慶ヲ相手トスル交渉ハ「之ヲ相手トセス」トノ近衛聲  
明ノ建前上事實上ノ交渉トシテ之ヲ行フヲ要スル處(右  
ニテ充分ニシテ必スシモ近衛聲明ノヤリ直シヲ要スル要ナ  
シ)右交渉ニ關聯シ交渉ノ基礎案、右ニ對スル政府ノ讓  
步腹案、交渉ノ實行方法及順序等ノ問題發生スヘシ

- (イ) 交渉ノ基礎案トシテハ阿部汪兆銘間ニ一應妥結ヲ見タル條約案ノ内容ヲ以テ之ニ充ツルコトトスルノ外ナカルヘシ蓋シ右ト全然懸ケ離レタル案ヲ基礎案トシテ示スコトハ汪トノ關係牽イテハ支那民衆ニ對スル關係ニ於テ帝國政府ノ信義ヲ問ハルル結果トナルヘキヲ以テナリ尤モ當初ヨリ條約案其ノ儘ヲスヘテ重慶ニ提示スル要ハナカルヘク基礎案トシテハ條約案中ノ重要ナル問題ノミヲ抽出シテ先ツ提示スルコト然ルヘキモノト認ム即チ右基礎案ハ基本條約案ノ諸事項及撤兵事項、滿洲國承認問題竝ニ北支内蒙ノ特殊性ノ範圍ニ止メ差支ナク南京政府ヲ相手トスル場合ニ必要ナル過渡の便法例ヘハ特殊事態ノ存在ヲ諒承シ事變處理ニ協力セシムル件ノ如キハ當然ニ之ヲ提案スル必要ナク又北支蒙疆以外ノ支那内政ニ關スル事項、顧問協定、軍事ニ關スル協力事項ノ如キハ和平實現ニ際シ討議シ差支ナキ問題ト認メラル
- (ロ) 右基礎案ニ對シ重慶カ讓歩ヲ求メタル場合ニ於ケル政府ノ腹案ハ豫メ廟議ヲ決定シ置クヲ要スヘク右基礎案及ヒ讓歩ノ腹案ハ別項「(在野)日支全面的の和平實現ノ見地ヨ

- リ考察セル和平條件(條約)問題」中ニ一應明ニシ置キタリ
- (ハ) 交渉ノ實行方法トシテハ先ツ南京政府トノ間ニ帝國政府ニ於テ事實上重慶ヲ相手トシ全般的の和平ヲ招來スル爲必要ナル豫備交渉ヲ進ムヘキ趣旨ノ諒解ヲ遂ケタル上前記交渉ノ基礎案ニ基キ(一)南京政府側ヲシテ日本政府ハ右案ニ依リ眞面目ニ全面的の和平問題ヲ考慮シ居ルヲ以テ此際南京側ト共ニ和平實現ニ乘リ出スコト得策ナルヘキ旨ヲ説得セシムヘキ方法モアルヘク又(二)帝國政府自ラ特派スヘキ者ヲ用ヒ重慶要路ニ對シ直接同様に説得ヲ試ミル方法モアルヘク(政府要路ノ中心人物カ自ラ乗出ササル場合ハ不取敢政府代表ノ資格ヲ與ヘ民間人ヲ重慶ニ特派スルコト最モ有效ナリト考ヘラル例ヘハ頭山滿翁又ハ其ノ代表トシテノ子息秀三郎ノ如キ重慶部内ニ信用アル者ヲ起用スルコトモ眞面目ニ考慮スルヲ要スヘシ)或ハ上海、香港方面ニ在ル重慶政權關係者特ニ蔣介石ニ親シク接近シ得ル人物(周作民、錢永銘、張季鸞ノ如シ尙陳誠戴笠ノ代表者トノ連絡ノ筋モ確實ナルモノアリ)ヲ通シ同様ノ説得ヲナス方法

モアルヘシ唯茲ニ注意ヲ要スルハ右何レカノ方法ヲ併  
セ行フニ當リ重慶ニ傳達スヘキ條件ニ喰違ヲ生スルコ  
トヲ絶對避クルヲ要スル點ナリ

右政府ノ眞意傳達及説得ニ關聯シ且之ト併行シ第三國  
(獨逸)ヲ利用スルコトハ重慶ヲシテ帝國政府ノ意向ニ  
對スル信賴ヲ高メシメ又アル程度ノ安心ヲ持タシメ或  
ハ其ノ面子ヲ傷ケサラシムル爲當然考ヘラルル所ナリ  
但シ前述ノ如ク我カ政府ノ意向ヲ重慶ニ傳達シ置キ必  
要ニ應シ直接交渉ヲナシ得ル途ヲ開キ置クコトナクシ  
テ獨逸ノミヲ通シ和平ノ申入ヲナス方法ニ依ルトセハ  
重慶政府ニ於テ獨逸ヲ以テ調停者タラシメントスル策  
動行ハレ從テ獨逸力調停者トシテ日支間ノ和平條件ノ  
内容ヲ是非云々スル立場ニ立ツヘキ危險大ナルヲ以テ  
重慶ニ對シテハ獨逸利用ノミノ方法ニ依ラス獨逸利用  
ニ先チ或ハ遅クトモ之ト併行シテ前述ノ何レカノ方法  
ニ依リ重慶ニ對シ別箇ニ働キカクルコトトシ以テ前記  
ノ如キ危險ヲ防止スルコト必要ナリ

右帝國政府ノ意思表示乃至説得ニ對シ重慶ハ直接或ハ  
間接ノ方法ヲ以テ和平條件ノ緩和ヲ申出ツルコトヲ豫

想セラルル處右申出ニ對スル我カ腹案ハ別紙ノ通りニ  
シテ我カ最少限度ノ要求ヲ承認セシムルヲ要スル處右  
ニ關スル交渉ハ數多ノ「チャンネル」ヲ通スルコトナ  
ク一本ノ筋道ニテ行フヲ要スヘシ然ラサレハ重慶ノ乘  
スル所トナリ我方ノ豫想シ居ル限度以上ニ妥協ヲ必要  
トスル場合ヲモ生スヘシ而シテ右交渉ノ「チャンネ  
ル」ハ汪兆銘ヲ通シ汪ノ面子ニ免シ重慶ノ言分カ通り  
タル形式ヲトルコト今日迄ノ南京政府トノ關係上最モ  
妥當ナルヘキモ重慶トシテハ右方法ハ最モ嫌フ所ナル  
ヘキヲ以テ或ハ重慶ノ選フ方法ニ依リ日支代表者ノ間  
ニ於テ交渉取纏メルコトトナルヨリ外ナカルヘシ  
交渉ハ重慶トノ停戰、汪蔣合作、重慶ト南京トカ合流  
セル政府トノ條約締結ノ順序ニ依ルヘキコト別紙記載  
ノ通りニシテ停戰ハ重慶ヲ相手トセル調印ヲナスヘキ  
モ右以外ノ事項ハ重慶トノ間ニ豫備交渉トナル次第ナ  
ルヘシ

三、日支和平ニ第三國ヲ利用スル場合不取敢實現ノ可能性  
アルハ獨逸ナル處(本件ニ關シテハ評論ヲ避ク)獨逸利用ニ  
當リテハ日獨間ノ全般的政治新關係設定ノ一環トシテ之

ヲナス建前ヲ取り日本カ辭ヲ低クシテ獨逸ニ依頼シ特ニ事變ノ解決ヲ講スルカ如キ立場ヲ取ルコトハ絶對避ケルヲ要スルモ去リトテ一般政治協定ノ成立ヲ俟チ或ハ右成立ト同時ニ支那問題ヲ解決セントスルニ於テハ事變ノ處理甚タシク遅レ南京政府トノ間ニ於ケル條約ノ調印豫定日前ニ於テ少クトモ右方法ニ依ル事變處理ノ見透シヲツケントスル要望ニ副ハサルニ付日獨政治問題ノ討議行ハルル場合其ノ一項目トシテ取上ケ先ツ本問題ノミノ進展ヲ計ル如ク交渉ヲ誘導スルコトヲ妨ケサルモノトス

右獨逸利用ニ當リ重慶ハ前述ノ如ク獨逸ヲシテ調停者ノ立場ニ立タシメ和平條件ノ内容ノ緩和ニ獨逸ヲ利用セント試ムヘキハ勿論和平條件ノ保障者ノ地位ニ獨逸ヲ立タシメントスル策動モ行ハルヘキ處和平條件ノ妥結ハ日支間限りニ於テ之ヲナスコトヲ必要トシ且爲シ得ル見透シナキニアラサルヲ以テ獨逸カ事變處理ニ介入スル場合ニ於テモ我方トシテハ獨逸ニ對シテハ和平條件ノ基礎案ヲ示シ先ツ獨逸ヲシテ之ヲ納得セシムルヲ上乘トシ、(右和平條件ハ日本ノ要求スル最大限度ナルコトヲ強調セシメ之ヲ甘受シテ速カニ停戦ヲ實施スヘキ趣旨ニテ獨逸ヨ

リ重慶ヲ説得スル段取トナルヘシ)從テ獨逸ニ對シ讓歩ノ限度ヲ示スコトハ出來ル限り差控フルヲ要スヘシ又獨逸カ和平ノ保障者トナル點ニ付テハ日本政府ニ於テ之ヲ認ムルコトヲ得サルモ獨逸政府カ承認セル和平條件ヲ日本政府カ蹂躪スルコトハナカルヘキ趣旨ニテ獨逸ニ言質ヲ與ヘ獨逸政府ノ裁量ニ依リ獨支間限りノ問題トシテ獨逸カ適當ノ「フオームラ」ニ依リ和平ヲ保障スル立場ニ立ツコトハ敢テ拒否スヘキニ非スト認メラル

四、獨逸カ事變處理ニ介入スル代償トシテ各種ノ條件ヲ提出スヘキコトハ當然之ヲ豫想シ其ノ對策ヲ講シ置クヲ要スル處先ツ經濟部門ニ於テ其ノ一ハ支那ニ於ケル獨逸ノ經濟活動ノ限度ノ問題ナルヘク右ニ付テハ前掲「日支全面的和平實現ノ見地ヨリ考察セル和平條件(條約)問題」ノ末尾ニ一應之ヲ明ニシ置キタリ第二ノ問題ハ南洋ニ於ケル獨逸ノ資源獲得ノ點ナルヘク又第三ノ問題トシテ日、滿ト獨逸トノ貿易關係問題モ提起セラルヘキ處右第二、第三ニ付テハ通商局ニ於テ研究ノ案ニ依ルコトト致度

五、和平條件ノ基礎案ハ前述ノ如ク先ツ獨逸ヲシテ之ヲ呑込マシムルコト上乘ナル次第二ニテ獨逸トシテモ主義ノ間

題トシテハ之ヲ吞込ムモノト豫想シ得サルニアラス然ルニ右ノ中共同防共就中重慶ノ容共拋棄、反共或ハ討共ノ態度闡明ニ關シテハ實際政治ノ問題トシテ日本カ果シテ何ヲ期待シ居ルヤ日本ノ實政策如何ヲ獨逸ヨリ反問シ來ル場合ナキヲ保シ難カルヘシ而シテ我方トシテ主義上停戰又ハ和平ト同時ニ重慶カ反共態度ヲ明示シ右ニ副フ措置ヲトルコトヲ要求スヘキハ當然ノコトニシテ右ハ原則事項トシテ獨逸モ諒解スヘキモ實際ニ如何ナル限度ニ之ヲ實行セシムル方針ナリヤハ獨逸ノ質問ヲ俟ツ迄モナク日本政府ニ於テ肚ヲ決メ置クヘキ問題ナルヘシ共同防共ト云フモ外蒙及新疆ニ於ケル赤色勢力ノ驅逐ハ當分言フヘクシテ行ハレ得サルヘキ問題ナルヲ以テ日本ニ於テ之カ實行ヲ迫ル意向ナキハ當然ナルヘク從テ問題トナルハ西北地區(大体陝西、甘肅ノ兩省)其ノ他ニ於ケル中共ノ措置問題ナルカ和平克服後直ニ中共ヲ討伐スヘキ旨蔣介石カ誓約スルコトアリトスルモ右カ中共ニ洩レル場合ニハ(當然洩レル譯ナリ)中共ノ逆宣傳等ニ依リ蔣ノ實力的地位ハ覆サレ防共ヲ實行シ得ルモノナキニ至リ支那ハ愈々混亂狀態ニ陥リ殊ニ我方ノ重視スル北支方面即チ河

北、山西、山東省ニ於テ共產黨ノ使喚スル雜軍及民衆ニ依ル「ゲリラ」戰ハ止ムヘクモ非ス北支蒙疆ノ開發ノ如キ到底實行シ得サルニ至ルヘシ斯ク觀シ來レハ實際政治ノ問題トシテハ防共ハ看板ニ止メ置キ實際ニハ陝西、甘肅ニ於ケル中共ノ勢力ヲ暫定的ニ認メツツ中共側ヲシテ河北、山西、山東等右西北二省以外ノ地方ニ於ケル中共ノ活動ノ中止及之カ西北ヘノ撤退ヲ約束セシメ一時國共ノ妥協ヲ認メヤルコト已ムヲ得サルノミナラス寧ロ日支雙方ノ爲ニモ利益ナリトノ結論モ生スヘク從テ帝國政府ニ於テ右方針確立スルヲ得ハ獨逸ヨリ質問アリタル場合ニ之カ應酬モ容易ナルヘク又右ヲ極祕ノ含ミトシテ重慶ニ通シ和平ノ促進ヲ圖ル方法モ講シ得ヘク更ニ日蘇關係ノ調整ニモ裨益スル所大ナルモノアルヘシ右ハ相當重大ナル問題ナルカ斯ノ如キ妥協ハ必スシモ防共ノ趣旨ニ反スルモノニ非サルニ付實際政治ノ問題トシテ帝國政府ニ於テ早キニ及シテ決心ヲナスヘキ事項ナリト認メラル



330

昭和15年9月16日

外務省作成の「支那事變急速處理方針」

支那事變急速處理方針

(昭一五、九、一六)

- 一、現下ノ國際情勢及重慶政府ノ動向ニ鑑ミ此際帝國政府ニ於テ速ニ事實上重慶政府ヲ直接相手トスル全面的和平交渉ヲ行フ
- 二、世界ノ新秩序建設ヲ共同目的トスル日獨伊提携強化ヲ斷行シソ聯トノ國交調整ヲ計ルト共ニ獨逸國ヲ利用シ我カ對重慶政府直接交渉ヲ促進ス
- 三、和平條件ハ現在ノ條約案ヲ基礎トシ之ニ全面的和平ニ伴フ諸般ノ政治的考慮ヲ加ヘタルモノ(別紙甲號)トス
- 四、全面的の和平ハ停戰、重慶南京合流、和議ノ順序ヲ豫定ス
- 五、南京政府ニ對シテハ帝國政府ニ於テ事實上重慶ヲ相手トシ全面的の和平招來ノ爲必要ナル交渉ヲ進ムヘキコトニ付豫メ諒解ヲ遂ク
- 南京政府トノ條約交渉ハ差當リ既定方針ニ依リ其ノ手續ヲ進ムルモノトス

六、前記對重慶工作ノ奏效セサル場合ハ南京政府ノ速時承認、蔣政權ニ對スル交戰權發動及占領地行政ノ再編成ヲ急速實施ス

支那事變急速處理要領(案)

(甲)方針

- 帝國ヲ中心トスル大東亞共榮圈確立ノ爲ニハ支那事變ノ急速解決ヲ以テ最緊要事トス、依テ此際速ニ蔣政權ニ對シ直接交渉ヲ開始シ獨伊ノ斡旋ヲ利用シツツ概ネ今秋中ニ對支全面的の和平ノ實現ヲ期スルモノトス

(乙)實施要領

- 一、對重慶攻勢ノ強化
- (一)外交體制ノ強化

急速ニ獨伊ト同盟條約ヲ締結スルト共ニ對蘇關係ノ調整打開ノ實現ニ努ム

(二)對重慶軍事經濟體制ノ強化

- (イ)佛印ニ對スル派兵竝航空基地ノ前進、重慶爆撃ノ強化等ニ依リ軍事壓力ヲ極力大ナラシム
- 援蔣「ルート」ノ遮斷ニ一層努力ス

(ロ)新國民政府トノ國交調整概ネ整ヒタル狀況ヲ利用シ  
重慶政府ニ對シ一層ノ壓力ヲ加フ

(ハ)第三國ニ對シテハ我國カ米國竝南方諸地方ニ對シ直  
ニ實力行使ニ出ツルカ如キ印象ヲ與ヘサル様留意シ  
以テ重慶側カ第三國ノ合力ニ望ヲ囑スルカ如キコト  
無キ様善處ス

### 三、全面的和平交渉

前記對重慶攻勢ノ概ネ整ヒ且佛印ニ對スル平和的軍事行  
動ノ實現セル頃ヲ見計ヒ左記要領ニ依ル和平工作ヲ行フ  
モノトス

#### (一)對重慶直接交渉

(イ)政府ニ於テ直ニ我方重慶間直接和平交渉ニ必要ナル  
豫備的措置ヲ講ス

(ロ)近衛聲明ハ其ノ儘トシ先ツ事實ノ問題トシテ交渉ニ  
入ル

(ハ)我方交渉全權トシテ政府ハ特ニ總理大臣級ノ大物ヲ  
任命シ廣汎ナル裁量ノ權限ヲ與フ

從來ノ謀略機關ニ依ル交渉ハ一切之ヲ止ム

(ニ)交渉ノ基礎案別紙第二號ノ通

(ホ)和平ノ程序ハ先ツ停戰協定、重慶南京合流、和議ノ  
三段階ニ分ツ如ク施策ス

#### (二)獨逸ノ和平斡旋

(イ)日獨間ニ提携強化ニ關シ主義上ノ話合纏リタル頃ヲ  
見計ヒ獨逸側ニ對シ重慶政府トノ直接交渉ノ仲介ヲ  
申入ル

(ロ)和平斡旋ハ單純ナル仲介ニ止マラス狀況ニ應シ進ム  
テ重慶側ニ對シ充分壓力ヲ加ヘシム

(ハ)必要ニ應シテハ條約實施ノ保障蔣介石ノ地位保障等  
ニ付テモ獨支間ノ問題トシテ取扱ハシム

(ニ)前記和平基礎條件ヲ內示ス

(ホ)支那ニ於ケル獨逸側利益擁護ニ付テハ別紙第一號ノ  
「ライン」ニ依リ考慮ス

(ハ)獨逸ト共ニ伊太利ヲシテ和議仲介ニ當ラシムル場合  
アルヘシ

#### (三)對汪政權關係

(イ)對重慶和平交渉及對獨申入等ニ關シテハ適當ノ時期  
ヲ見計ヒ事前ニ汪政權側ヲシテ諒解セシム

(ロ)重慶政權ト汪政權トノ合流兩派要人ノ地位將來等ニ

付テハ出來得ル丈ケ支那側内部ノ話合ニ委ス  
(四) 和平交渉ト國交調整條約締結トノ關係

(イ) 國交調整條約ノ樞府御諮詢等國內手續ハ和平交渉ノ  
狀況ト睨ミ合セツツ概ネ既定方針ニ依リ進ムルモノ  
トス

(ロ) 國交調整條約ヲ有耶無耶ニ葬ルカ如キ印象ヲ外部ニ  
與ヘ我國ノ信ヲ内外ニ失スルカ如キコト無キ様最善  
ノ方途ヲ講ス

三、和平工作不成功ノ場合ノ措置

(一) 新國民政府ノ承認

(イ) 速時新國民政府トノ間ニ國交調整條約ヲ締結シ同政  
府ヲ承認ス

(ロ) 國民政府ノ民心把握ニ必要ナル施政ニ積極的ニ協力  
ス

(二) 對重慶政權措置

(イ) 交戰團體トシテ認メ帝國ハ交戰權ヲ發動ス

(ロ) 戰時封鎖ヲ實行シ且連續航海主義ヲ適用ス

(ハ) 租界問題列國軍隊問題等敵性除去ニ付強硬且徹底的  
措置ヲ講ス

(三) 占據地域體制一新

(イ) 戰線ノ整理ヲ斷行ス

(ロ) 占領地ニ於ケル政治財政經濟體制ヲ一新シ重點且統  
一的施策ヲ斷行シ我方負擔ノ輕減ヲ策定ス

別紙第一號

支那ニ於テ獨逸ニ對シ許容シ得ヘキ事項及限度

支那ニ於テ獨逸ニ與フヘキ事項ニ付テハ日獨間提携ノ根本  
的ノ了解成立ノ見込立ツコトヲ先決要件トスヘキモ獨逸側カ  
新東亞建設ヲ理解スルコトヲ條件トシテ經濟上ノ權益ニ付  
差當リ左記諸項ニ關シ了解ヲ遂クルコト差支無カルヘシ  
一、日滿二次キ第三國ニ優先スル事實上ノ地位ヲ認ム

二、獨逸ノ必要トスル特定資源ニ付一定量ノ供給ヲ約ス

三、通商貿易ニ關シテハ原則トシテ日本ト平等ノ待遇ヲ與フ  
但シ日支通貿ノ特種關係ヨリスル待遇ノ事實上ノ相違ハ

此ノ限ニ在ラス

別紙第二號(甲號)

日支和平基礎條件



東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序建設ノ共同理想實現ノ爲兩國ハ互恵ヲ基調トスル緊密ナル協力提携ヲ目標トシ左記諸項ヲ協議決定ス

一、滿洲國ノ承認竝日滿支三國相互間ノ領土及主權ノ尊重

二、一般親和並好誼ヲ破壞スルカ如キ措置及原因ノ撤廢禁絶

三、支那ノ内地開放及不平等條約ノ撤廢ニ關スル日本ノ協力

四、道義ニ基ク新東亞ノ秩序破壞ニ對スル共同防衛竝ニ支那

ノ特定地域ニ於ケル軍事上ノ協力

五、新東亞圈建設ヲ目標トスル兩國經濟提携ノ強化

六、北支及蒙疆ニ於ケル日支間ノ緊密ナル國防上及經濟上ノ

共存共榮具現機構設定

七、平和克服後直ニ撤兵開始及治安確立後六月以内ニ於ケル

之カ完了

○附 和平交渉開始ニ當リ豫メ諒解ヲ必要トスル事項

一、支那ハ媾和使節ヲ一定ノ日限内ニ日本ノ指定スル地點ニ

派遣スルコト

二、世界情勢ノ大變革ニ對應シ東亞ノ防衛及再建ノ爲日支ノ

和平ヲ必要トシ茲ニ兩國ハ速ニ善隣友好ノ關係ニ入ルハ

キ趣旨ノ大局の見地ニ立脚スル聲明ヲ行フコト

三、南京政府ト合流ヲ遂ケルコト但シ右合流ハ支那ノ内政問題トシテ處理セラルルモ差支ナキコト

四、第三國ノ利用ハ差支ナキコト但シ和平交渉ノ内容ハ日支

兩國ニ於テ之ヲ議スルコト



331 昭和十五年十月一日 外務、陸軍、海軍三省協議決定

### 〔對重慶和平交渉ノ件〕

付記一 昭和十五年十月二日、外務省作成

〔對重慶和平豫備交渉準備要項〕

二 昭和十五年十月二日

〔日支和平基礎條件提示項目〕

### 對重慶和平交渉ノ件

昭和十五年十月一日閣議後首相官邸

ニ於テ外、陸、海、三相協議決定

一、帝國政府ハ概シテ南京政府トノ間ニ成立ヲ見ントスル基

本條約(海南島ニ關スル附屬祕密協定ヲ含ム)ニ準據シ重

慶政權トノ間ニ和平交渉ヲ行フモノトス(別紙參照)

二、右和平交渉ハ汪蔣合作ヲ意圖シ先ツ日支ノ直接交渉ニヨ

リ之レヲ行フモノトス

本交渉ハ十月中ニ實效ヲ收ムルヲ期ス

註 十月中ニ目鼻ツカサレハ獨蘇兩國ニ對スル施策ニ

重點ヲ轉換スルノ意ナリ又汪政府ノ承認ハ本件ニ拘  
ラス豫定通り進捗セシムルヲ可トス

三、前第二項交渉ノ情況ニヨリ本和平交渉ヲ容易ナラシムル  
爲メ要スレハ獨逸ヲシテ之カ仲介タラシムルト共ニ對蘇  
國交調整ヲモ利用スルコトアルモノトス

(別紙)

第一項日本側要求條件試案(參照)

一、支那ハ滿洲國ヲ承認スルコト

註 本件ハ情況ニ依リ別途談合スルコトトシ差支ナカ  
ルヘシ

二、支那ハ抗日政策ヲ放棄シ日支善隣友好關係ヲ樹立シ世界  
ノ新情勢ニ對應スル爲日本ト共同シテ東亞ノ防衛ニ當ル  
コト

三、東亞共同防衛ノ見地ヨリ必要ト認ムル期間支那ハ日本ガ  
左記駐兵ヲ行フコトヲ認ムルコト

(一) 防共ノ爲蒙疆及北支三省ニ軍隊ヲ駐屯ス

(二) 支那海交通ノ安全ヲ確保スル爲海南島及南支沿岸特定  
地點ニ艦船部隊ヲ留駐ス

四、支那ハ日本ガ前項地域ニ於テ國防上必要ナル資源ヲ開發  
利用スルコトヲ認ムルコト

五、支那ハ日本ガ揚子江下流三角地帯ニ一定期間保證駐兵ヲ  
ナスコトヲ認ムルコト(情況ニ依リ機宜取捨ス)

(註)

右條件ノ外左記我方要求ハ實質的ニ之ヲ貫徹スルニ努  
ムルヲ要ス

記

一、蔣、汪兩政權ノ合作ハ日本ノ立場ヲ尊重シツツ國內問  
題トシテ處理スルコト

二、日支ノ緊密ナル經濟提携ヲ具現スルコト

經濟合作ノ方法ニ關シテハ從來ノ方法ヲ固執セス平等  
主義ニヨリ形式的ニハ努メテ支那側ノ面子ヲ尊重スル  
モノトス

三、經濟ニ關スル現狀ノ調整ハ日支双方ニ混亂ヲ生ゼシメ  
ザル様充分ナル考慮ヲ以テ處理スルコト

(付記一)

對重慶和平豫備交渉準備要項

(昭和十五、一〇、二、外務省)

- 一、從前行ハレ居リタル對重慶謀略工作ハ一切之ヲ禁絶シ爾後和平交渉ハ帝國政府ノ責任ヲ以テ一元のニ之ヲ行フモノトス
- 二、豫備交渉妥結ノ時期ニ至ル迄ハ事實上重慶ヲ相手トスルノ建前ニテ進ムモノトス
- 三、和平交渉ノ豫備打診ハ速時之ヲ開始スルコトトシ日支間直接交渉ノ經路ニ依リ打診ヲ行フ
- 右直接交渉ニ依ル打診ハ差當リ汪政權ヲ通スルノ方法ニ依ルモノトス
- 四、日支間直接豫備交渉開始ト同時ニ獨逸側ヲシテ仲介ノ目的ヲ以テ重慶側ニ接觸セシム
- 右接觸ハ伯林ニ於テ行ハシメ要スレハ最適ノ獨人大物ヲ重慶ニ派遣セシムル場合ヲモ考慮ス
- 五、速ニ「ソ」聯トノ國交調整交渉ヲ促進シ獨逸ノ重慶接觸ニ當リテハ出來得ヘケンハ「ソ」聯ノ或程度ノ了解アル

カ如キ立場ニ於テ交渉シ得ル様施策ス

- 六、和平條件ニ關スル商議ハ日支間ニ於テ直接之ヲ行フコトヲ本則トスルモ情況ニ依リ獨逸ノ壓力利用ノ途ヲ講シ置クモノトス
- 七、和平商議ニ當リテハ適當ナル方法ニ依リ汪政權代表者ヲ參加セシムル如ク措置ス情況已ムヲ得サル場合ニ於テモ交渉成立後汪ヲ含メル會議ニ於テ形式的ニ交渉内容ヲ決定スル如キ手續ヲ豫メ考慮シ置クモノトス
- 八、少クトモ本年十一月中旬頃迄ニハ停戰協定成立シ得ルコトヲ目途トシテ諸般ノ工作急速實施ニ當ルモノトス

(付記二)

日支和平基礎條件提示項目

(昭和一五、一〇、二)

- 一、東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設スヘキ共同理想ノ實現ヲ目標トシ兩國ハ大東亞共榮圈ノ建設及其ノ防衛ニ付緊密ニ協力提携スヘキコトヲ國交調整ノ基準タラシムヘキコト
- 二、支那ハ滿洲國ヲ承認シ日滿支三國ハ相互ニ其ノ領土及主

332

昭和15年10月1日

權ヲ尊重スルコト

三、支那ハ排日等好誼ヲ破壊スル如キ措置及原因ヲ撤廢禁絶シ兩國ハ政治上緊密ナル協力ヲ遂クルコトトシ特ニ日本ハ支那ノ不平等條約ノ撤廢ニ協力スルコト

四、新東亞ノ秩序破壊ニ對シ共同シテ防衛ニ當ル爲兩國ハ緊密ナル軍事協力ヲ行フコトトシ之方爲所用期間中支那ノ一定地域ニ於テ軍事協力ヲ行フコト

五、大東亞ノ經濟共榮圈建設ヲ目標トシ兩國ノ經濟提携ヲ強化シ之方爲資源ノ開發利用ニ付相互ニ特別ノ便宜ヲ供與シ物資ノ需給合理化、一般通商ノ振興其ノ他交通、通信ノ復興發達等ニ關シテモ密ニ相協力スルコト

六、内蒙古ノ自治ヲ認メ又北支ニ於テハ日滿支三國ノ共存共榮ヲ積極的ニ實現スルニ適當ナル行政組織ヲ存續スルコト

七、和議成立後撤兵ヲ開始シ速ニ完了スルコトトシ右二件ヒ支那ノ治安確立ヲ保障スルコト



南京政府と重慶政権の合流による日中和平実現をめざした錢永銘と西義頭との合意事項

付記 昭和十五年十月二日

右和平実現に向けた条件として錢側が松岡外相に提出した意見

南京重慶合体及和平問題

(昭二五、一〇、一 亞一)

一、〇<sup>(重慶)</sup>△トノ諒解ニ依レハ〇ハ南京ト重慶トヲ合流セシメ以テ新タナル國民政府ヲ樹立シ支那ノ統一及日支全面和平ヲ實現スル爲努力スルコトトナリ之方爲左ノ諸項ニ付兩人限りノ問題トシテ意見ノ合致ヲ見タリ

(イ)日本軍隊ハ事變開始前支那ニ在リタルモノヲ除キ事變開始後派遣セラレタルモノハ總テ撤退スルコト  
(ロ)互惠平等ノ原則ニ依リ日支經濟提携ヲ行フコト

(ハ)支那ハ新國民政府ニ依リ統一セラルヘキコト又支那人ノ財産ハ和議成立後返還セラルヘキコト

(ニ)停戦ハ日支雙方ノ軍事代表機關ニ依リ實施スルコト  
(ホ)停戦實施後速ニ日支兩國代表會商シ兩國ノ新關係ヲ議シ以テ東亞聯帯ノ實ヲ擧グルコト

二、尙前記諸事項ニ關シ

- (イ) 撤兵ニ付テハ七七以前ニ於テ日本ハ既ニ河北及内蒙ニ派兵シ居リタルヲ以テ右ハ撤兵ニ及ハス又其ノ數モ問題トスル意向ナキモノノ如ク尙進シテハ日支間ニ防守同盟ヲ締結シ右ニ基ク駐兵トシテ之ヲ撤兵ノ對象トセサルコトトシ差支ナキ意向アルカ如シ
- 尙南支方面ニ於テハ日本カ支那ノ海軍ニ協力スル建前ノ下ニ實質的ニ日本側ノ施設及艦船部隊ノ駐留ヲ認め差支ナキ意向ニシテ形式トシテ右ノ如キ日支ノ協力關係ヲ強調シ居ルモノノ如シ
- (ロ) 經濟合作ニ付テハ合辦組織ヲ止メ之ヲ借款ニ改メ度キ主張相當強キ處支那ニ於ケル合辦事業ハ禁止セラレ居ラサルヲ以テ右ハ一切ノ合辦ヲ排除スル意味ニ非サルヘク右主張ノ趣旨ハ國權回收ト關係深キ鐵道、航空通信ニ關スル合辦事業ニ付テハ調整ヲ必要トストノ意見ナルヘシ尤モ航空及無線通信ニ關シテハ既ニ合辦ノ先例アリ或ハ外國ニ其ノ事業ヲ委任シタル實例モアルヲ以テ之亦全面的ニ合辦組織ヲ拒否スルモノトハ考ヘラレサルモ鐵道ニ付テハ國權回收ノ對象トシテ支那カ努

力ヲ續ケタル經緯ニ鑑ミ北支鐵道經營ニ關スル現在ノ諒解ヲ改メ合辦會社ヲ止メ國有國營トシ日本側ノ出資モ借款ノ形式ニ改ムルコトヲ最モ強硬ニ主張スルモノト認メラル

- (ハ) 新國民政府カ支那ヲ統一スルコトニ付テハ必スシモ蒙疆ノ自治ヲ否定スル意向ナキカ如ク本件ハ未タ曾テ話題トナリタルコトナキ由又北支ニ於ケル現行組織ハ國民政府ニ依ル統一ノ建前ヲ貫ク爲地方的機關ヲ設クル場合ニハ之ヲ行政院ノ出張所トシ度キ意向ナルカ如シ
- (ニ) 停戰及和議ニ關シテハ特ニ説明スルコトナシ

支那側ニ於テ新國民政府ナル用語ヲ用ヒ重慶ト南京トノ合流ヲ當然ノ事トシ南京側モ右建前ノ下ニ〇ノ和平斡旋ヲ依頼シタル由ニシテ此ノ點ハ南京政府ニ對スル信義ヲ重ンスヘシト爲ス帝國政府ノ主張ト合致スルモノナルコトハ注意ヲ要ス

三、前記以外ノ和平條件ニ關シ

滿洲國承認問題ハ和平成立ト同時ニ正式手續ヲ執ルコトヲ困難トスルモ和議ノ際祕密文書ヲ以テ滿洲國ノ承認ヲ約束スルコトハ異議ナキモノノ如シ

編注 「〇」には「錢永銘」、「△」には「西」との書き込み

あり。

(付記)

南京、重慶合体問題

(昭和一五、一〇、二、亞、一)

一、南京、重慶合体及全面和平實現ニ關スル條件竝ニ實行段取ニ關シ〇ノ代表者カ外務大臣ニ提出セル意見左ノ通

(イ)第一段ニ於テ新國民政府ノ健全統一ヲ實現ス

右ハ南京、重慶兩政府カ合体シ新政府ヲ樹立シ排日等

ノコトナキ健全ナル統一ノ實現ヲ期スルモノナルカ實

際方法トシテ汪ハ主席代理ヲ罷メ重慶政府ノ行政院長

ハ林森ニ對シ辭表ヲ提出シ林ハ國民政府ノ改組ヲ命シ

兩政府ノ事實上ノ合体ヲナサントスル意味ナリ

(ロ)第二段トシテ停戦ヲ實施ス

停戦ノ具體的條件ハ兩國軍事代表者間ニ於テ協定ス

右ニ先チ兩國政府ハ左ノ趣旨ノ聲明ヲ發ス即チ

(1)日本政府ハ停戦實施後六ヶ月以内ニ若シ不可能ナラ

ハ更ニ六ヶ月ヲ延期シ右期間内ニ撤兵ヲ完了スヘキ

コト(日本ノ要望スル駐兵ニ付テハ別ニ防守協定ニ

依リ之ヲ定ムヘキ旨ノ祕密諒解ヲ同時ニ成立セシ

ム)

(2)新政府カ支那ノ最高唯一ノ統一政權ナルコトヲ承認

スルコト

(3)支那ノ官私有財産ヲ所有主ニ返還スヘキコト

支那側ハ右ト同時ニ聲明ヲ發ス其ノ内容ハ切實ニ日支

經濟提携ノ具現ヲ圖ルヘキ趣旨トシ滿洲國ノ承認ニ付

テハ七・七以前ノ既成事實ナルヲ以テ之ヲ承認スヘキ

旨祕密文書ヲ以テ諒解ヲ成立セシムルモ公表ハナササ

ルモノトス

(ハ)第三段トシテ日支兩國代表者間ニ東洋興隆會議ヲ開催

シ日支間ノ新關係及對外的協力關係ニ付詳細協定ス其

ノ項目左ノ通

(1)善隣友好

(2)經濟提携

(3)防守協定

以上

昭和15年10月2日

三国同盟成立が対重慶和平にもたらす影響や

日本の中国共産党対策など事変解決策をめぐる

汪兆銘の見解について

昭和十五年十月二日

日高參事官歸朝ノ挨拶ヲ兼テ汪精衛ヲ訪問會談シタル際汪ノ語レル所左ノ通

一、三国同盟締結ニ依リ重慶側ニ與ヘタル影響トシテ各方面ノ情報ヲ綜合スルニ重慶側ハ之ヲ機會ニ一層米國ノ援助ヲ要求セントスルモノノ如ク宋子文ノ如キモ目下躍起トナリテ運動中ナリトノコトナリ、恐ラク今後米國ハ財的ノ援助ヲ以テ重慶側ヲ支持シ極力對日抗戰ヲ續ケシムルノ舉ニ出ツルモノト察セラル、次ニ親獨派ト稱セラルル孔祥熙、朱家驊等ノ一派ハ是レ迄モ獨逸ヲ動カシテ對日和平ヲ講セント試ミツツアリタルモノナルカ今回ノ同盟締結ヲ機會ニ漸次活潑ニ右運動ヲ展開スルモノト豫想セラル、予ノ觀測ヲ以テスレハ若シ獨逸カ蘇聯ヲ動カシ蘇聯カ重慶ヲ動カシ特ニ中國共産黨ヲ抑ヘテ和平ニ反對セ

サル様何等カノ手段ヲ講スルナラハ之等和平派ノ發言權ハ増大スルコトトナルヘシ、但シ從來予カ漢口、重慶等ニ在リテ又其ノ後ニ於テ觀察スル所ニ依レハ獨逸ニハ二派アリ、一派ハ舊式外交官連ニシテ之等ハ重慶派ノ實力ヲ認メ支那ノ統一政權ハ依然重慶ナリトノ先入主的觀念ヲ有シ、他ノ一派ハ「ナチス」ノ黨員ニシテ之等ハ重慶ハ既ニ共産黨ノ勢力下ニアリト見做シ現在ノ南京國民政府ハ假令其ノ力微弱ナリト雖モ將來ノ支那ノ中央政權トナリ得ヘキモノナリトノ認識ヲ有シ同シク和平運動ヲ試ミル場合ニ於テモ其ノ派別ニ依リ其ノ内容ト方法トヲ異ニスルコトトナルヘシ、又獨蘇カ和平ノ調停ニ乗出シタル場合ハ英米カ調停スル場合ト其ノ行キ方ヲ異ニシ從ツテ實質的ニ和平ノ性格カ變更セラレルコトトナルヘシ、更ニ吾人ノ注意スヘキハ獨蘇兩國カ調停ニ立ツ場合獨逸カ指導權ヲ握リ蘇聯ヲ引廻スコトトナラハ結構ナルモ若シ獨逸カ蘇聯ニ利用セラレ蘇聯ノ思フ儘ニ引摺ラルル時ハ面白カラサル結果ヲ招來スヘキコトナリ聞ク所ニ依レハ獨逸人ノ一部ニハ湖南、廣西、雲南、貴州、四川ノ所謂西南地區ヲ蔣介石ノ地盤トシテ保有セシメ西北ヲ共產

黨ノ地盤ニ與フルヲ條件トシテ日支間ノ停戰ヲ謀ラント考ヘ居ル者アル由ナルカ之レ果シテ事變解決ノ爲メ有利ナルヤ否ヤ大イニ研究ノ要アリト信ス

二、事變解決ノ爲速カニ全面的和平ヲ實現セシムルコトハ吾人ノ日夜苦慮シツツアル所ナルカ現在ノ狀況ニテハ今回ノ國交調整條約調印セラレ之ヲ發表スルモ一般ニ大シタ影響ヲ與フヘシトハ斷言シ難ク又國民政府ハ其ノ力薄弱ナリトノ理由ニテ日本側ニテ喜ンテ政府ニ仕事ヲ任セヌト云フ目下ノ狀態續クトキハ全面和平實現ノ前途ハ尙遠ナリト云フノ外ナシ、殊ニ現在ノ支那ニ於ケル一大問題ハ共產黨ノ問題ナルカ共產黨ハ常ニ日本軍ハ點ト線トヲ占領シ居ルニ過キス、點ト線以外ノ面ハ吾人ノ手中ニアリト豪語シ此ノ面ノ共產化ニ狂奔シ居ル實情ナリ事實此ノ儘ニ放任セハ所謂面ノ方ハ共產黨ノ爲破壊セラルル惧レアリ、予カ重慶ヲ脱出シテ和平ヲ提唱セルハ全く此ノ面ヲ保持セムカ爲ナリシナリ、如何ニシテ此ノ面ヲ保存スヘキヤニ付テハ日本側ニ於テモ充分研究セラルル様希望ニ堪ヘス

現在日本ハ軍事力ヲ以テ此面ノ肅正ニ努力シツツアルモ

支那ノ俗語ニアル通り兵來レバ匪去リ兵去レハ匪來ル狀態ニシテ甚シキニ至リテハ討伐ヲ行フ毎ニ却ツテ地方ヲ匪化スル傾向スラアリ、予ハ日本ノ戰略ニ對シ兎角ノ批評ヲスル次第ニハ非サルモ今日ノ實情ヨリ見テ日本軍カ重慶ニ對スル攻撃ノ必要上點ト線トヲ握ルコトハ固ヨリ當然ニシテ共產黨カ之ヲ以テ日本軍ノ爲ス所恐ルルニ足ラスト云フハ全く見當違ヒナリ、要ハ點ト線以外ノ面ヲ如何ニシテ共產黨ヨリ奪回スルヤニアリ、即チ一度肅正シタル地方ハ再ヒ共產黨ノ手ニ移ラサル様確固タル政治ノ組織ヲ作ルコト必要ニシテ之カ爲ニハ此ノ面ノ保持ヲ國民政府ニ任セ日本ノ武力行動ト國民政府ノ政治的施策トヲ合セ用フレハ右目的達成ニ遺憾ナキヲ期シ得ルニ非スヤト思料セラル、顧ルニ共產軍ハ蘆溝橋事變前僅ニ四、五千挺ノ小銃ヲ有シタルニ過キサリシカ事變後ノ今日ハ四、五十萬ノ銃ヲ有スル狀況ニシテ當方面ニ於ケル新四軍モ近ク十五萬ニ擴張ノ計畫アリ、我方ニテハ之ニ對スルニ僅ニ五萬ノ綏靖部隊ヲ以テスルニ過キス、特ニ我方ニテハ武器ノ買入、軍ノ編成等極メテ不自由ナル立場ニアリ、今後如何ニシテ之等有力ナル共產軍ニ對抗スヘキ



ヤ一大問題ナリ、唯共產軍ハ目下彈藥ノ缺乏ニ苦ミ居リ其ノ兵員銃器ノ多數ナルニ拘ラス彼等カ思フ通り跳梁シ得サルハ勿怪ノ幸ナリト謂フヘシ、然レ共現ニ共產黨ノ地方ニ於テ執リツツアル政策ハ極メテ巧妙ニシテ以前ノ如ク民衆ヲ殺戮セス却テ民心ノ收攬ニ重點ヲ置キ此ノ點ニ於テハ寧口重慶政府ヨリ上手ナリトノ評スラアリ、結局共產黨ハ抗戰タルト和平タルトヲ問ハス如何ナル場合ニ於テモ巧ミニ自己ノ勢力ヲ扶植シ自己ノ政策ヲ實行セントスルモノニシテ此ノ點ハ少シモ油斷出來サル次第ナリ、思フニ今次ノ支那事變ヲ解決スルニ當リ對共產黨ノ關係ヨリ論スレハ日本トシテ

(一) 共產黨ト共ニ支那ヲ分割シテ支配スルカ  
 (二) 共產黨ト協調シテ支那問題ヲ解決スルカ  
 (三) 飽ク迄反共的立場ヲ以テ事變ヲ解決スルカ

ノ三者ヲ出テサルヘシ、而カモ此ノ際中國共產黨ノ問題ハ蘇聯ノ國交トハ別個ニシテ重大ナル支那ノ國內問題タル事ヲ考慮セサルヘカラス、支那ノ傳統ト共產主義トハ絶對ニ相容レス予ハ政治、經濟、文化、軍事各方面ヨリ徹底的ニ之カ壞滅ヲ圖ルコト支那ノ爲絶對ニ必要ナリト

ノ信念ヲ有スルモノナリ

三、貴官歸國ノ上ハ現地ノ實情及國民政府ノ狀況竝今日自分ノ語レル所ヲ充分近衛總理初メ其他關係各方面ニ御傳アラハ幸甚ナリ



334

昭和15年11月7日

松岡外務大臣より  
 在独国来栖大使宛(電報)

わが国の南京政府承認を前に對重慶和平の推進に向け独国政府の尽力方向同国大使に申入れについて

付記一

昭和十五年十月二十六日、外務省作成

「新國民政府ノ承認ト三國同盟條約締結ニ就テ」

二 昭和十五年十月九日起草、松岡外務大臣より

在独国来栖大使宛電報案

日ソ國交調整および對重慶和平に関する独国政府の意向探查方訓令

三 昭和十五年十一月九日起草、松岡外務大臣より

在独国来栖大使宛電報案

対重慶和平に関するわが方針追報

本省 11月7日發

第八〇二號(極秘、館長符號扱)

往電第七九三號ニ關シ

六日次官ヨリ在京獨逸大使ニ對シ冒頭往電一ノ點ヲ申入レタル處獨逸大使ハ「ルーズベルト」當選後ニ豫想セラルル米國ノ情勢ニモ鑑ミ獨逸トシテハ日支間ニ一日モ早ク全面的和平ノ到來センコトヲ希望シ居ル旨述フルト共ニ右目的達成ノ爲ニハ結局和平ノ條件カ問題トナルヘシトテ其ノ内容ヲ質ネタルヲ以テ次官ヨリ詳細ハ目下言明ノ限リニ非ルモ要ハ近衛聲明ノ具体化、換言スレハ帝國主義的征服及搾取ヲ排シ平等互惠ノ原則ノ下ニ支那ノ資源ヲ開發シ東亞ニ新秩序ヲ建設セントスルニ在リテ北支、蒙疆及海南島ヲ含ム全支那ノ主權ハ勿論之ヲ尊重セントスルモノナリトノ趣旨ヲ述ヘ置ケリ。尙其ノ際大使ヨリ本件ハ陳介ニノミ申入ルル次第ナリヤ又伊太利トノ關係ハ如何トノ質問アリタルヲ以テ次官ヨリ右申入ノ趣旨ハ獨逸ニ對シ仲介ヲ依頼セントスルモノニ非シテ日本政府ノ意トスル所カ獨逸政府ノ思付トシテ陳介其ノ他適當ノ筋ヲ通シ蔣介石ニ傳ハラシコトヲ

希望シ居ル旨竝ニ來栖大使宛電報ハ在伊大使ニモ轉電シ置キタルカ「リ」外相ニ於テ本件措置ハ伊太利政府ト共同ノ上之ヲ執ルコトヨリ有效ナリト思考セラルルニ於テハ右様取計ハルルコトニ何等異存ナキ旨答ヘ置ケル趣ナリ  
獨ヨリ蘇及伊ニ轉電アリ度シ

(付記一)

新國民政府ノ承認ト三國同盟條約締結ニ就テ

(昭一五、一〇、二六)

帝國ノ支那事變處理ニ關スル方針ハ

(イ) 汪精衛ヲ首班トスル新國民政府ヲ育成強化シ國交調整條

約ノ締結ニ依リ同政府ヲ承認ス

(ロ) 右ト併行シテ重慶政權トノ間ニ和平交渉ヲ行フ(先ツ日

支直接交渉、情勢ニ依リ對獨蘇施策ニ重點轉換)

コトニ依リ全面的和平促進ニ在リ而シテ(イ)ニ付テハ手續大ニ進捗シ遠カラス條約調印ノ運ニ至ルヘク(ロ)ニ付テハ豫備的施策進行中ナルモ此際三國同盟締結ニ依ル國際情勢ヲ活用シ帝國ノ汪政權承認ヲ取り上ケ重慶側ニ壓迫ヲ加フルコト得策ナルベク從テ獨、伊、蘇等ニ對シ次ノ如ク施策スル

コトトス

一、在獨大使ニ訓電ノ上「リッペントロップ」外相ヲシテ支那側ニ對シ左記趣旨ニ依リ接觸セシム

(イ)三國同盟ノ締結ニ依リテモ明ナル如ク獨伊兩國政府ハ飽迄汪政權ヲ支持強化シテ重慶政權ヲ切崩サントスル  
日本政府ノ對支方針ヲ支持スルモノナリ。日本政府ノ新國民政府承認ハ目捷ノ間ニ在リ日本政府ニ於テ汪政權ヲ承認ノ上ハ獨伊ハ勿論ノコト西班牙、羅馬尼、洪牙利竝ニ佛蘭西等モ之ヲ承認スルコトナルベク斯クテ新政府ノ基礎ハ益々鞏固ヲ加フルニ至ルヘシ。此ノ國際情勢ニ處シ重慶政府ニシテ無用ノ對日抗戰ヲ一日モ速ニ抛擲シ汪政權ト合作スルノ態度ニ出テサルニ於テハ世界新情勢ノ進展ニ取殘サルルヤ必セリ。

(ロ)右申入ノ際情勢ノ如何ニ依リテハ左記趣旨附言方「リ」外相ニ依頼スルコトモ一案ナリ。

「尤モ重慶側ニ於テ從來ノ建前上今日急ニ汪政權ト合流スルヲ至難トスル事情アルニ於テハ重慶側ノ誠意如何ニ依リテハ汪政權ヲ通セス日本ト直接折衝ノ道モアルヘク、重慶側ニ於テ希望スルニ於テハ橋渡しノ勞ヲ

取ルモ可ナリ」

二、蔣介石陣營内ニ於ケル和平論者ノ勢力擡頭ニ對シ最大ノ障害トナリ居ルモノハ中國共產黨ノ存在ナリ。右中共ヨリノ妨害排除ニ關シテハ先ニ研究セル所ニ基キ速ニ日蘇國交ノ調整ニ乘リ出スコト肝要ナリ之ガ爲速ニ獨逸ヲ通ズル工作ヲ開始スルコト

三、速ニ在佛大使ヲ任命派遣シ「ヴィシ」政府ヲシテ前記三國同盟締結後ニ於ケル帝國ノ對支方策ニ同調セシムル如ク工作セシムルノ要アリ

(付記二)

(極秘、館長符號抜)

一、日獨伊三國同盟ノ締結ハ右外交体制ヲ利用シ日支事變ヲ急速終結ニ導クト共ニ我南方施策ヲ容易ナラシメ大東亞共榮圈ノ確立ヲ促進セントスルニアルモノナル處就中右ニ依リ帝國當面ノ最大關心事タル日支事變ノ急速處理ニ必要ナル對重慶外交攻勢ヲ速時且適切ニ發動セシメンコトヲ期待シ居ルモノナリ

二、日支事變ヲ處理シ全面和平ヲ招來スル爲ニハ何等カノ形

ニ於テ重慶トノ間ニ妥結ヲ計ルノ必要アル處對重慶和平ノ促進上最モ障害ヲ爲スモノハ米蘇ノ重慶支援ト認メラレ殊ニ日蘇關係ノ調整ハ獨リ蘇聯ノ直接援助ヲ控制スルニ止マラス中國共產黨ノ抗日性ヲ抑制シ蔣ヲシテ和ヲ講シ得ル如キ情勢ヲ馴致スル上ヨリ最モ重視シ居ル案件ニシテ三國同盟締結ノ狙ヒモ亦茲ニ存ス從テ日蘇國交調整ハ差當リ日支事變處理ニ寄與セシムヘキ目標ト限度ニ於テ急速且短期間ニ之ヲ實現スルコトヲ要シ右觀點ヨリスル對蘇國交調整案ニ付テハ目下猶研究中ナルモ骨子ハ(イ)不侵略條約ノ締結ヲ第一ノ目標トシ右ニ關聯シ(ロ)日蘇兩國力從來支那ニ關シ獲得シ來レル地位ヲ相互ニ尊重スルコト(ハ)日本ノ南方發展ニ對應シ蘇聯ノ中央亞細亞方面ヘノ進出ヲ認ムルコト等ニ關シ了解ヲ遂クルト共ニ蘇聯ヲシテ援蔣態度及行爲ヲ拋棄セシメントスルニアリ所謂利權問題ニ付テハ出來得レハ之ヲ確保スルニ努ムルモ政治協定成立ノ爲已ムヲ得サル場合ニハ適當調整ヲ加フルコトヲモ考慮シ居レリ右ニ關シテハ先ツ日獨間ニ將來蘇聯ヲ如何ニ處置スヘキヤ又蘇聯ノ勢力竝ニ發展ヲ如何ナル限度ニ認ムヘキヤ等ニ關シ隔意ナキ話合ヲ遂ケ置クコト

絶對ニ必要ニシテ且目下ノ情勢上蘇聯ノ要求ヲ抑制シ速ニ國交調整ヲ實現センガ爲ニハ三國條約ノ經緯ニモ鑑ミ帝國トシテハ此ノ際獨ノ積極的斡旋努力ニ特ニ期待シ居ル次第ナリ

三、三國同盟ノ成立ハ英米ハ素ヨリ重慶ニ對シテモ相當ノ衝擊ヲ與ヘ居リ英米ハ其ノ協力關係ヲ一層緊密ナラシムルト共ニ蘇聯ノ抱込ミニ關シテハ獨蘇ノ關係一應不動ナル現況ニ於テ特ニ對日牽制ノ觀點ヨリ種々工作ヲ進メ重慶ヲモ抱込ミ進ンテ同盟關係ヲ結成セントスル如キ氣配モ多分ニ觀取セラルル處斯克ノ如キ情勢ハ帝國直接ノ利害ニ關スルハ素ヨリ三國同盟締約國全体ノ利益ノ爲ヨリモ速ニ之ヲ阻止スルノ要アリ然ルニ重慶ハ蘇聯ノ援助ニ期待シ居ル關係上獨ノ對蘇動向ニ關シテハ至大ノ關心ヲ有シ居ル如クナルヲ以テ此ノ際獨ニ於テ獨蘇ノ政治關係ヲモ適宜利用シ重慶ノ英米陣營ヘノ參加ヲ速ニ阻止シ大局的ニ日支間ノ和平急速實現ヲ考慮セシムル如ク施策シ重慶ヲシテ世界新秩序建設ノ方向ニ協力セシムル如ク誘導スルノ要アリト存ス

四、帝國政府ニ於テ汪政權ヲ樹立シ之カ育成ヲナシ來レル所

以ハ固々右ニ依リ重慶政權ノ内部ヲ切崩シ全面的和平ヲ速ニ招來セシメントノ意圖ニ出タルモノナルヲ以テ重慶側ニ於テ眞ニ和平ノ誠意アルコト判明スルニ於テハ汪側ノ諒解ヲモ得タル後重慶ヲ事實上ノ相手トシテ和平ノ話ヲ進ムルコト然ルヘク右話合ハ結局汪蔣ノ合作ヲ前提トスル處汪蔣ノ合作ハ支那ノ内政問題トシテ汪蔣相互ノ話合ニ委シテ可ナリト考ヘ居レリ。日支ノ全面的和平成立ノ見込立ツニ於テハ現ニ汪政權トノ間ニ一應折衝ヲ了シタル新條約案ノ如キモ和平ノ條件トシテ必シモ之ニ執着スルノ要ナシト思考シ居ル處何レニセヨ帝國政府トシテハ日支ノ和平ハ東亞共榮圈ノ確立ヲ共同ノ目標トシテ先ツ日支兩國間ノ直接折衝ニ依リ開始セラルヘキモノナリトノ建前ヲ堅持スルモノナリ(要之スルニ帝國トシテハ前記一乃至三ヲ以テ申進タルカ如ク對重慶施策上帝國ノ外交体制強化ニ關スル獨逸側ノ斡旋ヲ此ノ際最モ希望スルモ右日支間直接折衝ニ對シテハ差當リ獨逸側ノ仲介ヲ期待シ居ル次第非ス)

五、就テハ貴官ハ敍上ノ次第御含ノ上至急左記諸點ニ關シ獨逸政府(「リ」)外相ノ他「ゲーリング」「ヘス」等各方面

ト接觸セラレ度)ト隔意ナキ懇談ヲ遂ケラレ結果回電アリ度

(一)獨逸ハ將來蘇聯ヲ如何ニ處置スル意向ナリヤ又蘇聯ノ勢力範圍或ハ其ノ發展ヲ如何ナル限度ニ於テ認メントスル意向ナリヤ

(二)日蘇ノ國交調整ニ關シ獨逸側ハ如何ナル手段方法ヲ以テ其ノ間ノ斡旋ヲナス意向ナリヤ又爲シ得ヘキヤ

(三)獨逸政府ハ重慶政權ヲシテ英米陣營ニ趨ラシメサル様如何ナル措置ヲ採ルヘキヤ(狀勢ノ發展如何ニ依リテハ獨逸ヲシテ重慶トノ仲介ニ當ラシムル必要モ生スヘキ處貴大使ハ此ノ點ヲモ御含ノ上適當話合ヲ行ハレ度)

編注 本電報案は廢案となり、發電されなかつた。

(付記三)

往電第 號及貴電第一四二六號ニ關シ

和平問題及重慶内部ノ情勢ニ關シ左記追電ス貴官御含ミノ上「リ」外相トノ會見ニ際シ適當利用セラレ度

一、新國民政府トノ條約ハ現地交渉一應妥結シ引續キ既定ノ方針ニ從ヒ國內手續ヲ進メツツアルヲ以テ特別ノ事情無キ限リ概ネ月末ニハ所要手續完了ノ見込ナルカ帝國政府ニ於テハ當初汪政權ヲ樹立セル本旨ニモ鑑ミ又三國同盟締結後ノ我外交体制ヲ活用シツツ世界情勢ノ急轉ニモ對處セントスルノ趣旨ニ於テ此ノ際重慶ニシテ眞面目ニ全面和平ヲ取上ケントスルノ誠意アルニ於テハ重慶側ノ立場モ考慮シ條約調印前從テ新政府承認ノ時期ニ先立ち重慶ヲ事實上ノ相手トシテ全面和平招來スルノ途ヲ開クコト現段階ニ於ケル最終的試トシテ一應適當且必要ナル措置ナルヘシトノ結論ニ達シ帝國政府當面ノ方針トシテ決定ヲ見タル次第ナリ但シ右ハ情勢上荏苒時日ノ遷延ヲ許容シ得ルモノニ非ス概ネ今月末迄ニ依然何等和平ノ誠意ヲ認ムルコトヲ得ストノ結論ヲ得ルニ於テハ既定方針ニ從ヒ斷乎新政府ヲ承認シ事變ノ自主的處理ニ邁進スルノ方策ニ出スヘキコト勿論ナリ

二、萬一重慶ニシテ和平ノ誠意ヲ示シ來タレル場合和平交渉ハ原則トシテ日支間ノ直接交渉ヲ本旨トスルコト勿論ナリト雖モ要スレハ和平交渉ニ第三國ノ保障ヲ附加スルノ

意味合ニテ獨ヲ通シ和平條件ヲ提示スルコト必スシモ異存ナシ

三、帝國ノ對支方策ハ好ンテ支那ヲ分裂ニ導カントスルモノニ非ス從ツテ重慶政府カ抗日政策ヲ清算シ我和平條件ヲ受諾スルニ於テハ汪蔣兩政權合流ノ方式ニ關シテハ特ニ我方ヨリ干涉スルノ意嚮ナク汪蔣ノ話合ニ依リ內政問題トシテ處理セラルルコトニ異存ナク從テ右ノ結果ニ基キ蔣カ改メテ新政府ノ首班トナルコトニ付テハ我方トシテ別段異議ナキ次第ナリ

四、英米昨今ノ動キヲ見ルニ支那ヲシテ日本牽制ノ具ニ利用スルヲ有利トスル利害打算ヨリ對支援助ノ現況ヲ一歩進メ英米トノ間ニ同盟ノ關係ヲ設定セントスルカ如キ意圖十分ニ看取セラルル處斯ノ如キ事態ハ帝國ノ利害ニ關スルハ固ヨリ三國全般ノ利ヨリスルモ速ニ之ヲ阻止スルノ必要アリ爲シ得レハ支那カ英米ノ手先トナリ獨リ自國ノ消耗ヲ招クノ愚ヲ止メ日支間ノ急速和平ノ實現ニヨリ自國ノ再建ヲ計ルコト賢明ナル方策ニ出ツルノ利ヲ覺ラシメ進ンデ三國側ノ陣營ニ之ヲ引入ルル様努ムルコト當面ノ必要ナル施策ナリト認メラル

編注 本電報案は廢案となり、發電されなかつた。

335 昭和15年11月13日 御前會議決定

〔支那事變處理要綱〕

支那事變處理要綱

方針

支那事變ノ處理ハ昭和十五年七月決定「世界情勢ノ推移ニ伴フ時局處理要綱」ニ準據シ

一、武力戰ヲ續行スル外英米援蔣行爲ノ禁絶ヲ強化シ且日蘇國交ヲ調整スル等政戰兩略ノ凡ユル手段ヲ盡シテ極力重慶政權ノ抗戰意志ヲ衰滅セシメ速ニ之カ屈伏ヲ圖ル

二、適時内外ノ態勢ヲ積極的ニ改善シテ長期大持久戰ノ遂行ニ適應セシメ且大東亞新秩序建設ノ爲必要トスル帝國國防力ノ彈撥性ヲ恢復増強ス

三、以上ノ爲特ニ日獨伊三國同盟ヲ活用ス

要領

一、重慶政權ノ屈伏ヲ促進シ之ヲ相手トスル息戰和平ヲ圖ル

爲ノ諸工作次ノ如シ

本工作ハ新中央政府承認迄ニ其ノ實效ヲ收ムルコトヲ目途トシテ之ヲ行フ

(一) 和平工作ハ帝國政府ニ於テ之ヲ行ヒ關係各機關之ニ協力スルモノトス

(註)

從來軍民ニ依リテ行ハレタル和平ノ爲ノ諸工作ハ一切之ヲ中止ス

右工作ノ實施ニ方リテハ兩國交渉從來ノ經緯ニ鑑ミ特ニ帝國ノ眞意ヲ明カニシ信義ヲ恪守スル如ク善處スルモノトス

(二) 和平條件ハ新中央政府トノ間ニ成立ヲ見ントスル基本條約(之ト一體ヲナスヘキ艦船部隊ノ駐留及海南島ノ經濟開發ニ關スル祕密協約ヲ含ム)ニ準據スルモノトシ日本側要求基礎條件別紙ノ如シ

(三) 右和平交渉ハ汪蔣合作ヲ立前トシ日支間ノ直接交渉ニ依リ之ヲ行フヲ以テ本則トスルモ之ヲ容易ナラシムル爲獨逸ヲシテ仲介セシムルト共ニ對蘇國交調整ヲモ利用ス

支那側ノ實施スル南京及重慶ノ合作工作ハ之ヲ促進セシムルモノトシ帝國政府ハ之ニ對シ側面的援助ヲ爲ス  
(四)新中央政府ニ對スル條約締結ハ遅クモ昭和十五年十一月末迄ニ完了スルモノトス

三、昭和十五年十一月末ニ至ルモ重慶政權トノ間ニ和平成立セサルニ於テハ情勢ノ如何ニ拘ラス概ネ左記要領ニ依リ長期戦方略ヘノ轉移ヲ敢行シ飽ク迄モ重慶政權ノ屈服ヲ期ス

長期戦態勢轉移後重慶政權屈伏スル場合ニ於ケル條件ハ當時ノ情勢ニ依リ定ム

(一)一般情勢ヲ指導シツツ適時長期武力戦態勢ニ轉移ス

長期武力戦態勢ハ一般情勢大ナル變化ナキ限り蒙疆、北支ノ要域及漢口附近ヨリ下流揚子江流域ノ要域竝ニ廣東ノ一角及南支沿岸要點ヲ確保シ常ニ用兵の彈撥力ヲ保持スルト共ニ占領地域内ノ治安ヲ徹底のニ肅正スルト共ニ封鎖竝ニ航空作戰ヲ續行ス

(二)新中央政府ニ對シテハ一意帝國綜合戦力ノ強化ニ必要ナル諸施策ニ協力セシムルコトヲ主眼トシ主トシテ我占據地域内ヘノ政治力ノ浸透ニ努力セシムル如ク指導

ス

重慶側ハ究極ニ於テ新中央政府ニ合流セシムルモ新中央政府ヲシテ之カ急速ナル成功ニ焦慮スルカ如キ措置ハ採ラシメサルモノトス

(三)支那ニ於ケル經濟建設ハ日滿兩國ノ事情ト關聯シ國防資源ノ開發取得ニ徹底スルト共ニ占領地域ノ民心ノ安定ニ資スルヲ以テ根本方針トス

(四)長期大持久ノ新事態ニ即應スル爲速ニ國內體制ヲ積極的ニ改善ス在支帝國諸機關ノ改善改廢ヲ斷行シ施策ノ統制ヲ強化ス

## 別紙

日本側要求基礎條件

一、支那ハ滿洲國ヲ承認スルコト

(本項具現ノ方式竝ニ時期ニ付テハ別途考慮スルコトヲ得)

二、支那ハ抗日政策ヲ放棄シ日支善隣友好關係ヲ樹立シ世界ノ新情勢ニ對應スル爲メ日本ト共同シテ東亞ノ防衛ニ當ルコト



三、東亞共同防衛ノ見地ヨリ必要ト認ムル期間支那ハ日本カ左記駐兵ヲ行フコトヲ認ムルコト

(一) 蒙疆及北支三省ニ軍隊ヲ駐屯ス

(二) 海南島及南支沿岸特定地點ニ艦船部隊ヲ留駐ス

四、支那ハ日本カ前項地域ニ於テ國防上必要ナル資源ヲ開發利用スルコトヲ認ムルコト

五、支那ハ日本カ揚子江下流三角地帯ニ一定期間保障駐兵ヲナスコトヲ認ムルコト(情況ニ依リ機宜取捨ス)

(註)

右條件ノ外左記我方要求ハ實質的ニ之ヲ貫徹スルニ努ムルヲ要ス

左記

一、汪蔣兩政權ノ合作ハ日本ノ立場ヲ尊重シツツ國內問題トシテ處理スルコト

二、日支ノ緊密ナル經濟提携ヲ具現スルコト

經濟合作ノ方法ニ關シテハ從來ノ方法ヲ固執セス平等主義ニヨリ形式的ニハ努メテ支那側ノ面子ヲ尊重スルモノトス

三、經濟ニ關スル現狀ノ調整ハ日支双方ニ混亂ヲ生セシメサ

ル様充分ナル考慮ヲ以テ處理スルコト

336

昭和十五年十一月二十九日

在香港矢野(征記)総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

香港での対重慶和平交渉の結果判明までは日華基本条約調印を延期するよう汪兆銘説得方田尻参事官より影佐少将へ要請について

〔付記〕 昭和十五年十一月(日付不明)、在香港矢野総

領事より松岡外務大臣宛電報写

十一月十八日夜の西・田尻・錢会谈内容

二 昭和十五年十一月二十一日付

十一月二十日夜の西・田尻・錢会谈内容に関するメモ

香港 11月29日前発

本省 11月29日前着

第六七〇號(大至急、極秘、館長符號扱)

<sup>(1)</sup> 南京へ轉電アリタシ

第一四號

外信

影佐少將へ田尻ヨリ

一、二十二日ノ四相會議ハ十二月五日迄ニ停戦ノ實行方等ヲ條件トシ新政府承認ノ延期ヲ決議シ右ハ錢永銘ニ傳言セ

リ右ニ對シ蔣介石ハ兎ニ角代表ヲ派シ(彼ハ交通通信狀況ノ不備及當時英國側ノ妨害ノ爲日本ノ眞意ヲ充分ニ了

解スル材料ヲ有セスシテ右派遣ヲ決定シ之ヲ通告越セ

リ)和平ヲ開談スルノ誠意ヲ示シ本官等ハ目下其ノ來香

ヲ待チツツアリ然ルニ帝國政府ハ右代表ノ來香ヲ待タス

從テ交渉ノ結果ヲ見極ムルコトナクシテ三十日承認ニ決

定シ別電<sup>(電ヲス)</sup>ノ如キ通告ヲ蔣介石ニ對シ爲スヘキ旨ヲ本官ニ

訓令セリ

二、重慶ハ南京政府ノ承認延期及無條件全面撤兵ヲ先決條件

トシ和平交渉ニ應スヘキ提案ヲ爲シ我方ハ之ヲ承認ノ上

其ノ旨ヲ通告シ代表ノ派遣ヲ待チ協議ニ入ルヘキ段取ニ

シテ日本ハ右交渉力來月五日前ニ開談セラルル限り之カ

結果ヲ見極メタル上ニアラサレハ新政府承認ノ最終的宣

告ヲ爲シ得サル立場ニ在リ而モ之ヲ敢テ實行シ之カ説明

トシテ別電ノ通告ヲ爲スノ如キ汪精衛ニ對スル以上ニ帝

國ノ信義ヲ世界ノ市場ニ問ハルル問題ナリ

三、重慶カ政治軍事代表ヲ派シ和平ヲ求ムルハ必スシモ米蘇

關係ヲ天秤ニ掛ケタル策謀ニアラス其ノ誠意ハ充分ニ認

ムヘキモノト信ス

四、根本問題ハ斯カル法律論形式論ニ存セス我カ國策カ要求

スル急速和平實現カ果シテヨク重慶トノ直接交渉カ或ハ

新政府ノ承認カノ孰レニ依リ良ク達成セラルルヤニアル

ヘキ處虚心坦懷公平ナル判斷ニ依リ前者ニ依ルノ外無シ

トハ何人モ意見合致スル所ニシテ右ハ貴官ノ僞ラサル心

情ナルヘク阿部大使モ亦同意セラルル所ナルヲ信シテ疑

ハス

五、<sup>(2)</sup>要ハ重慶カ果シテ誠意アリヤ否ヤニ在リ之カ判斷ハ或ハ

日本人ヨリハ汪精衛ノ私心ナキ觀測ヲ俟ツヲ公正トスヘ

シ本官トシテハ汪氏カ重慶トノ今日迄ノ交渉ノ經緯ヲ知

ルニ於テハ敢テ二、三週間ノ時日ヲ爭ハス當地ニ於ケル

交渉ノ成果ヲ見究ムルノ雅量アルヲ信シテ疑ハス況ンヤ

中國人タル汪氏カ日本トノ信義或ハ大臣トノ友誼ヲ先ニ

シテ支那ノ將來乃至ハ日支關係、東亞和平ノ保全ヲ無視

スルカ如キ私心アリトハ斷シテ信スルヲ得サル所ナリ

六、本官汪氏ヲ知ルコト歳アリ松岡外相ノ誠意及之ニ呼應セ

ル蒋介石ノ心境ヲ知ラハ同氏ハ凡ユル個人ノ苦心ヲ忍ビテ日支双方及東亞全局ノ利益ノ爲自己ヲ犠牲トスル第一人者タルヲ疑ハス同氏カ蒋介石トノ交渉ノ前途ヲ見究ムル爲ニ承認ヲ多少延期スルノ用意アルコトヲ信シ貴官ニ於テ特ニ當地交渉ノ見透シ付ク迄汪氏カ自ラ承認ヲ辭退スル用意アル眞意ヲ突キ止メラレ右ニ事ヲ取り纏メラレ度シ本官ハ當地ニ於テ汪氏ノ衷情ニ甘ヘ彼ヲ欺クカ如キ不信行爲ハ爲ササルヘシ

七、東亞ノ將來、日本ノ前途カ如何ニナルヤノ重要ナル時期ナリ誠意ト信賴ヲ以テ敢テ廟議ニ捉ハレス 陛下ノ臣民タル徵表ヲ致サントス貴官ノ御協力ヲ得是非トモ三十日ノ承認ノ延期方望ムコト切ナリ時間切迫シ意盡サス御判斷ノ上刻下ノ大局ヲ誤ラレサルコトヲ祈ル

八、予ハ汪精衛ノ眞意ヲ信ス三十日ノ承認ハ同氏ノ發意ニ依リ是非トモ延期セラルヘキナリ

大臣へ轉電セリ

(付記一)

秋山ヨリ

左記池田<sup>西</sup>ノ發電トシテ安達<sup>外相</sup>ニ手交アリタシ

記

十八日夜池田<sup>西</sup>木下<sup>錢</sup>ニ會見シ左ノ重大通告ヲ接受セリ

一、志賀<sup>華</sup>ノ祕書長L、C、P(三二九二)ハ其ノ代理トシテ近ク

來香<sup>外相</sup>シ安達<sup>外相</sup>ノ承認セル結婚<sup>和</sup>法案ヲ原則的ニ承認シ本法案

ヲ基礎トシテ速ニ櫻<sup>日本</sup>ト結婚<sup>和</sup>ノ協議開始ノ意思アル旨安達

ノ代理トシテ來香セル秋山<sup>田尻</sup>ニ正式ニ通告スヘキコト

二、L、C、Pノ來香ハ二十日迄ト豫定サレ居タル處若干ノ

延期ヲ免レサル事情ニアリ但シ前項ノ趣旨ヲ以テ來香ス

ル事實ハ確定的ナルヲ以テ是ヲ速ニ櫻<sup>日本</sup>側ニ通告スルコト

事態ノ意義ノ重大ナルニ鑑ミ木下<sup>錢</sup>ノ確信ニ於テ豫告スル

モノナルコト

以上

木下<sup>錢</sup>等結婚<sup>和</sup>仲介者談及京城<sup>重</sup>側ノ事ヲ運フ態度カ慎重ヲ極メ

居タル爲交渉進捗程度ニ關スル具體的通報遲延勝チニテ本

通告カ既ニ二期ヲ失セル憾アルコトヲ憂ヘサルヲ得ス但シ

本通告ヲ發スルニ至ル迄ノ經過ヲ冷靜ニ判斷スルニ先方ノ

誠意ハ極メテ認ムヘキモノアリ而モ此ノ重大問題ヲ決定ス

ルニ此ノ如ク短時日ナルハ京城<sup>重</sup>側トシテハ未曾有ノコトナ

ルヘク其ノ内部事情ノ困難ナルニ鑑ミテ當局者ノ苦心ト英斷ヲ認メサル能ハス偶々櫻<sup>日本</sup>ノ横濱<sup>南京</sup>ニ對スル關係處理事情ノ接迫ノ爲時間的ニ我方ノ期待ヲ滿タシ得サル感アルハ公平ナル觀測者ノ焦慮ニ堪ヘサル所ナリニ  
 先方ハ櫻<sup>日本</sup>ノ機密保持機能ニ對シ極度ノ不信任感ヲ抱キ居ルヲ以テ本項ノ漏洩ハ特ニ御警戒相成度シ  
 十八日東京U、P電ニ依リ代表來香ノ延期ヲ惧ルルモノナリ

編注 本電報写には近衛総理の閣了サインがあり、「陸、海、兩相、一五、一一、一二、内閣濟」、「香港<sup>629</sup>」、「大至急」の書き込みあり。

(付記二)

十九日夜 陳(蔣ノ祕書長)極祕裡來香

蔣 錢ニ傳達 蔣ノ代理トシテ錢ニ委囑 日本ト交渉ヲ委

囑

二十日夜 錢ト西 田尻會見

先決條件

一、南京承認セバ和平絶望 強迫ト見ル 承認延期

二、撤兵 防守同盟ヲヤル 一應撤兵ノ立前<sup>。</sup>ヲトラシメル

實際ハ別 防守同盟ノ立前<sup>。</sup>デ再駐兵

右二點承認セハ蔣ハ誠意ヲ以テ日本ト交渉 彼自ラ日本ノ

代表者ト會同

下關係約後ノ李ヲ學バズ

右ニ對シ日本ノ提示案ヲ原則トシテ認メタル上ナリヤト問

フ

錢

蔣ハ法案以上ニツツ込ンダル提携 東亞百年ノ大計

八月ヨリ有利

南京ノ取扱 日本ノ立場ヲ尊重

尙南京ニハ當分祕密

和平絶望ノ聲ヲワザト出ス

一、近衛三原則

二、汪蔣合作

三、今回ノ戦争行爲ニ關スル限り主義上全面撤兵

四、防守同盟

北樺買収 一億四千萬圓

一、二條件 原則承認ス

二、マカオデ停戰商議 引續キ和平

三、交渉員誰ヲ出スカ

四、誠意ヲ示ス爲十二月五日前途ニマトメルコト

五、マトマラスバ南京政府承認

印象 田尻 樂觀 錢 重慶窮迫 ノドカラ手ガ出ル

編 注 本メモは近衛総理が書いたものと思われる。

337 昭和15年12月6日 阿部中国派遣大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 南京政府承認後の事変処理方策につき意見具申

南京 12月6日發  
本省 着

特第 (編注) 號(極秘)

一、國民政府承認後ノ事變處理方策遂行方ニ關シテハ既ニ中央ニ於テ周到ナル御用意アルモノト拜察セラルル處今後我方施策ノ一大重點カ支那民心ノ把握ニ基ク新政府ノ政治力ノ培養鞏化ニ存スヘキコト言フ俟タサル所ニシテ右ニ關スル我方施策ノ今後ノ實績コソ事變處理推進ノ原動力ヲ構成スル一大關鍵ナリト信ス而シテ之カ爲ニハ政治經濟文化等各般ニ亘リ施策ノ適正ヲ圖ルヘキモノ尠ナカラス所謂北支特殊性ノ意義及其ノ限度ノ區劃竝ニ軍管理工場ノ整理及合辦事業ニ關スル調整ノ如キモ右施策ノ一要目トシテ重視セラルヘキモノナルコト指摘スル迄モナキ所ナリ

右施策具現ノ爲ニハ直接實施ノ衝ニ當ル現地各機關ニ於テ相互ニ連絡ト理解ヲ密ニスヘキコト勿論ナルモ根本方針ノ歸一ニ於テ現地各機關一致ノ方途ニ出ツル様中央ニ於テ適切ナル指導ヲ與ヘラルルコト肝要ナルノミナラス我方施策ノ實行ニ當リテハ其ノ政治的效果ヲ最大限度迄發揮スル爲支那側ノ創意ト積極的活動ニ對シ充分ノ機會ヲ與フル様工夫スルコト絕對必要ナリト思考ス

三、占領地域ニ於ケル經濟施策ノ適否ハ作戰、治安維持、民

心把握其ノ他各般ノ見地ヨリシテ我カ事變處理方策ノ成否ヲ決スル重大問題ナルコト論ヲ俟タサル所ナルカ右問題ノ重要性ノ比重ハ今後益々大ヲ加フル次第ナリ占領地域ニ於ケル物資ノ流通、非占領地域及第三國ヨリノ物資ノ吸收、支那民族資本ノ利用及第三國資本ノ活用等ニ付テハ特ニ大局ヨリ適切ナル具體方策ヲ運用ヲ見ルコト最モ必要ト認メラル而シテ右ニ關シテハ直接軍事上ノ必要ニ基ク措置ト不可分ノ關係ニアルモノ尠ナカラサルヲ以テ中央ニ在リテモ政府ニ於テ軍トノ連絡協調ヲ特ニ密ニシ速ニ施策ノ適正ヲ圖ル基礎ヲ作ラルル様切望ニ堪ヘス

三、今後ノ重慶工作ニ關シテハ政府ニ於テ既ニ御腹案ヲ有セラルルコトト存スル所本使ノ見ル所ヲ以テスレハ今次新政府ノ承認ト重慶工作トハ本質上互ニ矛盾スルモノニ非スシテ却テ相輔翼スル關係ニ在ル處重慶ノ翻意合流ノ爲ニハ未タ客觀情勢ノ熟セサルモノアリ殊ニ帝國ト蘇聯及米國トノ關係カ現在ヨリモ或ル程度迄調整セララルコトハ重慶工作ノ奏功上必須ノ要件ナリト思料セラルル次第ニシテ蘇聯トノ「アンタント」ノ樹立及米國トノ「アピーズメント」ノ關係醸成ニ付テハ既ニ政府ニ於テ折角御

努力中ト存スルモ重慶工作ニ關シテモ右ノ角度ヨリ考量シ帝國ノ世界政策トノ關聯ニ於テ之ト啖合セツツ運用シ目下施策ノ焦點ヲ對蘇及對米關係ノ調整ト三國同盟ノ活用ノ點ニ置クコト適切ナリト信ス

編注一 本電報は電報番号および着電日不明。

二 本文書は、東京大学近代日本法政史料センター原資料部所蔵「阿部信行關係文書」より採録。

338 昭和16年1月21日

第七十六回帝國議會における松岡外相演説

付記 昭和十六年一月三十日

松岡外相議會答弁概要「重慶政權ノ合流ハ時期到來セズ」

第七十六議會松岡外相外交方針演説

(二月二十一日)

本日第七十六議會ノ初ニ當リマシテ、茲ニ我ガ外交ノ近況ニ就キ説明スル機會ヲ得マシタコトハ、私ノ最モ欣幸ト

スル所デアリマス。

皇國ノ外交ガ我が肇國ノ理想タル八紘一字ノ大精神ニ隨ヒ、萬邦ヲシテ各々ソノ所ヲ得シムルニ存スルコトハ申スマデモナイ所デアリマス。昨年九月二十七日締結サレマシタ、日獨伊三國同盟條約ノ目標トスル所モ、亦斯カル大理念ノ貫徹ニアルノデアリマシテ、同條約締結ニ當リ、畏クモ大詔ノ渙發ヲ拜シ、國民ノ向フベキ所ヲ御明示下サレマシタルコトハ、寔ニ、恐懼ニ堪ヘヌ所デアリマス。

三國同盟條約 本條約ニ於テ獨伊兩國ハ皇國ガ大東亞ニ新秩序ヲ建設シ、且ツソノ圈内ニ於テ指導力ヲ保有スルコトヲ承認シタノデアリマス。皇國ノ志ス所ハ大東亞圈内ニ於ケル各民族ヲシテソノ本然固有ノ姿ニ立返ラシメ、和衷協同、共存共榮、謂ハバ、國際的ニ隣保互助ノ實ヲ擧ゲ、以テ世界大同ノ範ヲ垂レンコトヲ期スルト云フ事ニ盡キルノデアリマス。又我が國ハ獨伊兩國ノ「ヨーロッパ」ニ於ケル同様ノ努力ニ關シソノ指導的地位ヲ認め、之ヲ支援シ、之ニ協力センコトヲ約シタノデアリマス。即チ、三國同盟條約ハ何國ヲモ敵視セズ、世界新秩序建設ヲ目的トスル強力ナル提携デアアルノデアリマス。既ニ本條約ニ基キ三國ノ

首都ニ混合委員會ノ設置ヲ見ル運ビトナリ、三國ノ親善關係ハ政治的ニモ軍事的ニモ經濟的ニモ將又文化的ニモ愈々緊密ノ度ヲ加ヘツツアリマス。又昨年十一月中本條約前文ノ趣旨ニ從ヒ「ハンガリー」、「ルーマニア」及ビ「スロヴァキア」ノ三國ガ本條約ニ參加致シマシタ。申ス迄モナク今後我が國ノ外交ハ八紘一字ノ大理念ヲ基調トシ、コノ三國條約ヲ樞軸トシテ運用セラルルモノデアリマス。

尙本條約ニ就イテ特ニ説明ヲ加ヘテ置キタイト思ヒマスコトハ、ソノ第三條デアリマス。即チ、同條ニ依レバ「三締約國中何レカノ一國ガ現ニ歐洲戰爭又ハ日支紛争ニ參入シ居ラザル一國ニ依テ攻撃セラレタルトキハ、三國ハ有ラユル政治的、經濟的及ビ軍事的方法ニ依リ相互ニ援助スベキ」義務ヲ負ウテキルコトハ明白デアリマシテ、苟モ斯カル攻撃ヲ受ケタル場合ニハコノ規定ニ依ル義務ハ當然發生スルノデアリマス。

序ヲ以テ一言致シマスレバ、伊太利ノ軍事行動ニ就キ種々ノ宣傳ガ行ハレテ居ル様デアリマスガ、遠カラズ我が盟邦伊太利ガソノ所期ノ目的ヲ達スルコトハ、私ノ疑ハザル所デアリマス。

英米恃ム重慶 大東亞ニ於ケル諸國ノ中我が國ト特殊ノ可分ノ關係ニ在リマスル滿洲國ハ、建國以來早クモ十年ノ歲月ヲ重ネ國礎漸ク固キヲ加ヘ、國際的地位モ日ヲ逐フテ向上シ、國運隆昌ニ赴キツツアルコトハ、御承知ノ通りデアリマス。而シテ、昨年皇紀二千六百年ニ當リ、我が皇室ニ御祝詞ヲ述ベサセラレル爲、同國皇帝陛下ノ御訪問ヲ見マシタルコトハ、愈々以テ兩國ガ、一億一心ノ關係ヲ具現シツツアルコトノ顯著ナル表徴トシテ、日滿兩國國民ノ、等シク慶賀措ク能ハザル所デアリマス。又過般ハ、日華基本條約締結ト同時ニ、日滿華共同宣言ニ依リ、中華民國ハ滿洲國ヲ承認シ、滿華兩國間ニ大使ノ交換ヲ見ルコトトナリマシタ。

出來得ルコトナラバ、一日モ速ニ、支那事變ヲ處理スルコトガ、大東亞共榮圈樹立ニ就テ望マシキコトデアリマスノデ、現内閣成立以來、蔣政權ノ反省ヲ促シ、汪精衛氏ヲ主班トセル南京政府ヘノ合流促進ヲ企圖シタノデアリマスガ、同政權ハ未タニ反省スル所ナク、抗戰ヲ續ケテ居リマス。然シ乍ラ、蔣政權内部ノ分裂軋轢漸ク激化シ來リ、同政權支配下ノ民衆ハ、物價騰貴、物資不足ソノ他アラユル

艱難窮乏ニ惱マサレテ居リ、又一面蔣政權ノ抗戦力モ低下シ、他面最近ハ共產軍ノ勢力頓ニ増大シ、次第二國民軍ノ地盤ヲ蠶食シツツアルヤウナ實情デアリマシテ、蔣介石モ共產軍ノ跋扈跳梁ニハ餘程苦シメラレテ居ル模様デアリマス。窮狀斯クノ如キニモ拘ラズ、今猶抗戰建國ヲ標榜スル主ナル原因ハ、英米殊ニ米國ノ援助ニ望ミヲ掛ケルト共ニ、過去ノ行懸リニ捉ハレテ居ル爲デアルト思ハレマス。英國ハ、昨年六月、一時香港及ビ緬甸援蔣「ルート」ヲ通スル物資ノ輸送ヲ止メタノデアリマスガ、三國同盟成立後十月十八日ニ至リ緬甸「ルート」ヲ再開シ爾來物資ノ輸送ニ努メテ居ル模様デアリマス。又最近蔣政權ニ對シ一千萬磅ノ借款ヲ與ヘマシタ。米國モ亦之ト前後シテ一億弗ノ借款ヲ約束シマシタガ、目下米國ハ國ヲ擧ゲテ英國ニ對シテ大規模ノ援助ヲ企テテ居ル際デモアリ、又忠勇果敢ナル我が航空部隊ノ適切ナル處置ニ依リ緬甸「ルート」ガ屢々大破損ヲ蒙リツツアル現状ニ於テ實際幾許ノ援助ヲナシ得ルカ甚ダ疑問デアリマス。

南京政府承認 右ノ如キ情勢ニ鑑ミ我が政府ハ既定方針ニ從ヒ、昨年十一月三十日南京ノ國民政府ヲ承認シ之ト基



本條約ヲ結ンダノデアリマス。コノ條約ハ善隣友好經濟提携及ビ共同防共ノ三原則ヲ具體化シタモノデアリマシテ、日華兩國ハ相互ニ其ノ主權ト領土トヲ尊重シツツ平等互惠ノ原則ニ依リ緊密ナル經濟提携ヲ行ヒ、又兩國ハ共同シテ共產主義ヲ防壓スル爲、蒙疆及ビ華北ノ一定地域ニ皇軍ノ駐屯スルコト等ヲ規定シテ居リマス。皇國ガ領土及ビ戰費ノ賠償ヲ求メズ、又進ンデ治外法權ヲ撤廢シ、租界ヲ返還スルノ方針ヲ約シタコトハ、東亞民族ノ道義ニ依ル結合ヲ衷心念願シテ居ル一ツノ確乎タル表現デアリ、證左デアリマス。已ニ基本條約ヲ締結シ、日滿華共同宣言モ發セラレタル以上、我々ハ一意専心、汪精衛氏ヲ主班トスル國民政府ヲ援助シ、名實共ニ之ヲ中華民國ノ中央政府タラシメネバナリマセヌ。斯クテ日滿華三國ヲ根幹トシ愈々大東亞共榮圈ノ樹立ニ向ツテ萬難ヲ排シ邁進セントスルノ態勢ヲ執リ來ツタノデアリマス。

蘭印トノ交渉 次ニ大東亞共榮圈内ノ蘭領印度、佛領印度支那及ビ泰國等ノ關係ヲ一瞥シマスルニ蘭印、佛印等ハ地理的情勢ソノ他ノ上ヨリモ、我が國ト緊密不可分ノ關係ニ在ルベキデ、從來之ヲ阻害シ來ツタ事態ハ、飽クマデ之

ヲ匡正シ、相互ノ繁榮ヲ促進スル爲、隣保互助ノ關係ノ設定ヲ期セネバナリマセン。政府ハコノ見地ヨリシテ、昨年九月初旬特ニ小林商工大臣ヲ蘭印ニ派遣致シマシタノデアリマスガ、石油購入ソノ他ニ關シ、重要ニシテ急ヲ要スル問題ノ交渉一段落ヲ告ゲタルヲ機會ニ、長ク現地ニ滞在スルルコトヲ許サナイ事情モアリマスノデ、同代表ノ歸朝ヲ見ルニ至リ、次デ政府ハ過般ソノ後任トシテ、芳澤元外務大臣ヲ派遣シ、已ニ交渉ヲ再開シテ居ルノデアリマス。

佛印ト泰國 佛印ハ支那事變ガ勃發致シマシテ以來、援蔣「ルート」ノ最モ重要ナルモノデアリマシタガ、昨年六月、「ヨーロッパ」ニ於ケル情勢ノ急變ト共ニ、日本ト佛印ノ關係モ亦變化ヲ來シ、佛印ノ支那國境閉鎖、皇軍進駐等ノ事實ガ相次イデ起ツタノデアリマス。尙昨年八月私ト駐日佛國大使トノ間ニ交換セラレマシタ文書ニ基キ、目下東京ニ於テ交渉ガ開カレテ居ル次第デアリマスガ、頗ル友好的の雰圍氣ノ裡ニ進捗シテ居リマス。右ハ佛蘭西ガ世界ノ新情勢ト東亞ノ新事態ニ基キ、日、佛提携ノ必要ヲ認識シタカラニ外ナラヌト思考致シマス。

佛印問題ニ關聯シテ申上ゲ度イノハ、我が國ト泰國トノ

關係デアリマス。昭和八年ノ滿洲事變ニ關スル國際聯盟總會ノ際、同國代表ガ議場ニ留マリ、獨リ敢然トシテ棄權ヲ聲明シマシタコトハ、今猶我ガ國民ノ記憶ニ新タナル所デアリマス。

昨年六月、彼我ノ間ニ、友好中立條約ガ調印セラレ、十二月二十三日盤谷ニ於テ批准交換ヲ了シ、兩國ノ親善關係ハ益々緊密ヲ加ヘツツアルノデアリマス。同國ニ於テハ、今次佛印ニ於ケル失地回復運動ガ澎湃トシテ起リ、目下同國ノ軍隊ハ佛印軍ト國境ニ於テ對峙シ、衝突頻發ノ模様デアリマスガ、斯カル紛争ハ東亞ノ指導者タル我ガ國ノ到底無關心タリ得ザル所デアリマシテ、我ガ國トシテハ、ソノ一日モ速ニ解決ヲ見ムコトヲ希望スル次第デアリマス。

其ノ他トノ關係 今回我ガ國ト濠洲トノ間ニ公使ヲ交換スルコトトナリマシタガ、傳統的友好關係ニ結バレタル兩國ハ、今後直接膝ヲ交ヘテ隔意ナキ話合ニ依リ、不必要ナル誤解ヲ一掃シ、兩國ノ親善促進ニ依ツテ、太平洋ノ平和増進ニ貢獻センコトヲ期シテ居リマス。

猶「イラン」國トノ間ノ修好條約ハ既ニ御批准ノ手續ヲ完了シ、我ガ國ト近東諸國トノ關係モ更近頓ニ親善ニ赴キ

ツツアリマス。

更ニ我ガ國ト亞爾然丁國トノ間ニモ、過般相互ニ公使館ヲ大使館ニ昇格スルコトニ致シマシタ。又「ブラジル」國トハ同ジク昨年九月文化協定ガ締結セラレ既ニ御批准ヲ見ルニ至リ、兩國關係ハ益々敦睦ヲ加ヘツツアリマス。之等諸國ト我ガ國トノ關係ガ、近年政治的二モ、經濟的二モ、文化的二モ、急速ニ密接トナリツツアルコトハ、眞ニ慶賀スベキコトデアルト思ヒマス。

斯クノ如キ外交關係ノ進展ヲ見マスル一方、歐洲戰爭ノ影響ニ依リ、在歐大公使館中ニハ引揚又ハ廢止ノ餘儀ナキニ至ツタモノモアリマス。併シナガラ、在外交機關ニ就テハ重點主義ニ依リ、着々ソノ充實ヲ圖ツテ居ルノデアリマシテ、就中大東亞共榮圈內ニ於テハ極力外交網ノ整備ニ努メテ居リマス。

日「ソ」委員會 大東亞共榮圈ヲ建設シ、東洋平和ヲ確保スル爲ニハ、コノ日「ソ」兩國ノ國交ヲ現在ノ儘ニ推移セシムルコトハ望マシクアリマセムノデ何トカシテ相互ノ誤解ヲ除キ、出來ルコトナラバ、進ンデ全面的ニ且根本的ニ國交ノ調整ヲ計リタイト云フ考ヘヲ以テ折角努力中デア

リマス。滿蒙國境問題、漁業問題、北樺太利權問題等ニ付キマシテモ銳意交渉ヲ續ケテ居リ、就中漁業問題ニ關シテハ漁業本條約改訂ノ爲ノ日蘇混合委員會設置並ビニ取敢ズ本年度漁業ニ關スル暫定取極ニ付既ニ合意ヲ見タ様ナ次第デアリマス。三國條約第五條ノ規定モ、コノ趣旨ヲ以テ本條約ガ「ソ」聯邦ニ對スルモノデナイコトヲ明カニシタモノデアリマスガ、獨伊兩國モ亦同感デアルノデアリマス。「ソ」聯邦ガ速ニ我が方ノ眞意ヲ諒解スルニ至リ、兩國ガ交讓妥協ノ精神ヲ以テ國交調整ニ成功セシムルコトヲ希望シテ居リマス。

日米關係 我ガ國ノ通商貿易ハ滿支兩國以外ニ於テハ、主トシテ英米兩國及ビソノ植民地屬領トノ間ニ行ハレテ居ルノデアリマスガ、米國ハ一昨年七月、日米通商條約廢棄ノ通告以來、逐次我ガ國ニ對シ、飛行機、武器彈藥、航空用「ガソリン」、工作機械、屑鐵、鐵製品、銅、「ニツケル」ソノ他ノ重要軍需資材ノ輸出ヲ禁止若クハ制限シ、又英國屬領各地ニ於テハ我ガ國ノ海運ニ對シ種々ノ妨害ヲ加ヘテ居リマス。之等ニ對シテハ、我方方ヨリソノ都度抗議ヲ提出シテ居ルノデアリマスガ、コノ傾向ハ最近益々甚ダ

シク、我ガ國トシテモ充分ナル用意ヲ以テ之ニ處スルコトガ必要デアリ、殊ニ我ガ國ハコノ壓迫ニ堪フル必要カラシテモ、大東亞共榮圈ニ於テ、自給自足ノ經濟生活ヲ確保シ、高度國防國家體制ノ建設ニ邁進セザルヲ得ナイノデアリマス。

コノ點ニ關聯シ、日米關係ニ言及致シマス。米國ハ日本ノ大東亞共榮圈建設ガ、我ガ國ノ死活ノ要求デアルコトニ對シ充分ナル理解ヲ示サヌノデアリマス。米國ガ一面、自ラ東ハ中部大西洋ヲ、西ハ獨リ東太平洋ノミナラズ、他面更ニ支那及ビ南洋ヲ以テ、ソノ國防ノ第一線デアルカノ如キ態度ヲ執リ、日本ノ西太平洋支配ヲスラ野心視シテ、之ヲ非難スル如キ口吻ヲ洩ラスニ至ツテハ、餘ニモ身勝手ナル言分デアリ、ソシテ、ソレハ決シテ世界平和ノ増進ノ寄與スル所以デハアリマセン。

卒直ニ申セバ、私ハ日米國交ノ爲ニ太平洋上ノ平和ノ爲ニ、將又世界全般ノ平和ノ爲ニ、斯カル米國ノ態度ヲ頗ル遺憾トスルモノデアリマス。大國民タル米國民ハ須ラク、ソノ世界平和ニ對シテ負フ所ノ責任ニ目覺メ、眞ニ神ヲ畏レル敬虔ノ念ヲ以テ、深く反省シ、行懸リノ如キハ大悟シ

テ之ヲ一掃シ、現代文明ノ危機ヲ打開スル爲、ソノ力ヲ用  
キンコトヲ希望シテ止マナイモノデアリマス。

現下世界政局ノ混亂ハ、猶當分鎮靜ノ模様ナキノミナラ  
ズ、次第二依ツテハ一層激化セントスル傾向ニアリマス。

今後、若シ、米國ガ不幸ニシテ歐洲戰爭ニ捲キ込マレ、我  
ガ國モ亦遂ニ參戰<sup>(戰カ)</sup>ノ餘儀ナキニ立至ルガ如キコトアラバ、  
名實共ニ、眞ニ戰慄スベキ第二ノ世界大戰トナリ、容易ニ  
收拾スベカラザル事態ニ立チ到ルデアリマセウ。殊ニ將來  
勢ノ激スルトコロ、今日迄用ヒラレタ以上ノ、強烈ナル新  
銳武器ヲ以テ戰フコトニモナレハ、誰ガ現代ノ没落戰タラ  
ザルヲ保證出來ルデアリマセウカ。故ニ、我々ハ大東亞共  
榮圈樹立ノ努力ヲ進ムルト共ニ、ソノ遂行途上ニ於テ世界  
ノ混亂ノ擴大ヲ防止セシムル爲、一ツニハ三國條約ヲ結ンダ  
ノデアリマス。今後我々ハ一日モ速カニ、現在ノ戰爭ヲ終  
熄セシメ、世界ノ混亂ヲ鎮靜セシムルト同時ニ、將來斯ク  
ノ如キ禍亂ヲ再發セシメザル方途ニ就キ、今日カラ考ヘテ  
置ク必要ガアルト思フノデアリマス。

惟フニ、我が國ハ上ニ萬世一系ノ天皇ヲ戴キ、團結鞏固  
ナルコト世界無比ナル家族國家デアリマシテ、國難ト共ニ

益々朝野ノ團結ヲ強メルノヲ特徴ト致シマス。更ニ我々ノ  
意ヲ強ウスルノハ、世界政局ヲ左右スルニ足ル皇國ノ絶好  
ナル地理的條件デアリマシテ、「光ハ東方ヨリ」ナル民族  
の信念ニ生キ八紘一字ノ大理念ニ燃エ、三國同盟條約ノ目  
標タル世界新秩序建設ノ大業ニ精進スベキデアリマス。私  
ハソノ成功ヲ疑ヒマセシ。而シテコノ間ニ處シ、我が國民  
ニシテ充分ナル覺悟ダニアラバ皇國ノ前途亦眞ニ洋洋タル  
モノノアルコトヲ確信致シマス。

終リニ、私ハ、謹ンデ聖戰ノ爲メニ斃レタル我忠勇ナル  
將士ノ英靈ニ對シ、衷心ヨリ其ノ冥福ヲ祈ルト共ニ皇軍全  
體ノ勞苦ニ對シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表シ、其武運長久ヲ祈  
ルモノデアリマス。

#### (付記)

重慶政權ノ合流ハ時期到來セズ

松岡外相ハ一月三十日ノ外務豫算分科會ニ於テ中山福藏  
氏ノ質問ニ答ヘ、重慶政權合流問題ニ關シ左ノ如ク所信ヲ  
明ニシタ。

答辯内容 近衛聲明ハ國民政府ヲ相手ニセズトイフコト

デアツテ、確カソノ年ノ十一月頃ダツタカト記憶シテキルガ、國民政府ト雖モ纒然改メテ、日本ノ方針ニ共鳴シ來ルナラ相手トスルトイフヤウニ變更サレテキル。ソノ變更サレタ方針ニヨツテ重慶政權トモ、イロイロ現内閣ガデキル前二オイテ既ニ民間ニオイテモソノ運動ガアツタ。現内閣ノ方針ハヤハリソノ變更サレタ方針ニ基イテ彼ノ反省ヲ求メテキタ。ソノ反省ノ眼目ハ主トシテ汪精衛氏ヲ首班トシテキル南京政府ニ合流センカ、サウシテ考ヲ變ヘテコノ合流サレタ基礎ノ上ニワガ政府ト全面和平ノ商議ハ遂ゲンカトイフヤウナ考デ試ミテキタノデアルガ、過日私ガ言明シタヤウニナカナカ反省シナイノデ、タウトウソノ反省ヲ待ツテキラレナイカラ、實ハ南京政府ヲ支那ノ中央政府トシテ基本條約ノ締結ヲ見タヤウナ次第デ、コレカラドウナルカト申スト、スデニ南京政府ヲ中央政府トシテ認メタ以上、モウ一層南京政府ニ合流シナイカトイフ反省ヲ促ス時期ガアツタナラバシテ見タイト、イマ折角考ヘテキル。今度ハ同ジ話合ワスルニシテモ南京政府ヲ認メテキナカツタ時代ノ話合トハソノ點ニオイテ重點ノ置キ所ガ非常ニ變ツテ來ルトイフコトヲ申上ゲタイ。イマハ時期ガ來ナイトイフコ

トデ、重ネテ反省ノ手段ハトツテキナイ。

續イテ井上良次氏ノ質疑ニ對シテハ、

合作サストイフノデハナク彼等ガ合作スルノハ支那國內ノ問題デ、タダ今日ワガ方モ一日モ速カニ支那事變ヲ終熄セシメタイノデアルカラ、モシワレワレガ助言ヲシテ重慶政權ノ人達ヲ反省セシメ、南京政府ニ合流サスコトガデキルナラバ、コレヲ努メタイト思ツテキルダケノコトデ、一應打切ツテ以來マダ何モコノ點ニツイテ日本政府トシテハシテキナイ。汪精衛氏云々トイハレルガ、汪精衛氏ハ日本國政府ニヨツテ承認サレル以前カラ、極力重慶政權ノ人タチヲ讒シテコレト合作シタイ。カウイフ希望ハヒトリ私ニ判ツテキルノミナラズ相當公ニモ知ツテキル。汪精衛氏ノ心事ハ南京政府承認前デモ重慶政權ト日本ト全面和平ガ成立スルナラ死ストモカナリトイフ通電ヲ出シテキル。モシ汪精衛氏ガ南京政府ノ首班デキルコトガ日支ノ全面和平ヲ妨ゲルノナラ自分ハ死ンデモヨイ。亡命シテモイイ。地位ヲ捨テル。カウイフ氣持ハ私ハ承知シテキル。ソレカラワガ政府ガ南京政府ヲ民國政府トシテ承認シタ後ニ、私ノ記憶デハ間モナク談話ノ形カ何カデ公表シテキルト思フガ、

郵第三號  
PP情報

コレハ決シテ重慶政權ト合流スルコトヲ妨ゲルモノデハナイ。イツデモ自分ハ重慶政權ガ反省サヘスルナラバ合流スルニ吝カデナイトイフ意思ヲ明ラカニシテキル。ソコデコノ點ニ關シテ私ノイツタコトモ、コツチガカウ説イテサトストイフ意味デハナカツタトイフコトヲ御承知願フト共ニ、コレハ主トシテ支那ノ國內問題デアルトイフコト、決シテ汪精衛氏始メ今日ノ民國政府ノ要路者達ノ意思ト反シタコトヲシタリ、又面目ヲ潰スヤウナコトハシナイトイフコトダケ御諒承願ヒタイ。ト帝國政府ノ對支外交方針ヲ明示シタ。

339

昭和16年2月25日

在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

新四軍問題を契機に国民党と共産党の間に内  
争発生の情報について

上海 2月25日発  
本省 3月27日着

一、國共間ノ内争ハ新四軍問題ヲ契機トシテ遂ニ表面化シ收拾困難ノ事態ヲ出現セリ國民黨ハ新四軍事件ヲ以テ表面軍規肅正ノ局部問題ト爲シ之ヲ簡單ニ解決セント爲シ居ル處内實ハ決シテ單ナル軍規問題ニアラス國民黨側カ周到ニ計畫セル共産黨勢力消滅策ニ外ナラサル處共産黨又國民黨側ノ企圖ヲ充分察知シ居ル次第ニシテ從テ該事件發生後共、國間ニ幾多ノ折衝行ハレ又斡旋ニ努力者アリタルカ相互ニ満足スルヲ得ス既ニ談判ニ依リテ解決セラレヘキ時機ハ經過シ相互ニ積極的實際行動ノ準備ヲ進メツツアル情勢ナリ即チ重慶側ハ大軍ヲ以テ河北ニ於ケル第八路軍包圍監視態勢ヲ取り一方河北ニ於ケル第八路軍枝隊ヲ即時武力ヲ以テ殲滅スルノ決意ヲ爲シ湯恩伯ヲ討伐軍總司令ニ任命四個軍十二師ノ兵ヲ集結セシメ其ノ先頭部隊李先舟、王仲簾ノ指揮スル二軍ハ一度安徽省南部阜陽ニ到着セルカ時偶々京漢線西部ニ於ケル日本軍ノ進攻アリ危険トナリタルヲ以テ右二軍ハ急遽該方面ニ移動セシメラレタリ若シ其ノ事ナカリセハ數日前蘇北及揚子江南方面ニ於ケル共産黨討伐戦カ活潑ニ展開セラレタルモノト認メラル然レトモ重慶側共産黨討伐決意ハ之カ爲

ニ毫モ變ラズ最近更ニ第六三師及第四〇師ヲ討伐軍ニ參加セシメタル外山東江蘇及揚子江以南ノ各遊擊司令ニ對シ八路軍新四軍江南抗日軍挺身隊等モ共產軍ノ小部隊及工作員ハ容赦ナク捕捉殲滅スヘキ旨ノ命令ヲ發シ居ル由ナリ

二、又共產黨側ノ動靜トシテ國民黨側ノ入手セル所ニ依レハ延安ニハ近日共產黨側ノ要人多數集マリ近ク「討逆人民政府」ヲ成立セシメ國民黨側ニ投降方協議中ニシテ二月一日ニハ蘇聯邦側派遣ノ軍事代表モ參加シ討伐人民政府組織籌備會ヲ開催國民黨ノ罪惡ヲ痛激シ對日徹底抗戰ヲ宣言シ同時ニ林彪、チユウハクセイ、徐向前ヲ蘇聯邦ニ派シ機械化部隊ノ指揮方法ヲ習得セシメ且國民黨ト分離後ニ於ケル蘇聯邦側ノ中共援助問題ヲ協議セシムルコトトセリ

三、重慶側ニ於テハ新四軍問題カ斯克モ困難ナル事態ヲ招來スヘシトハ事前ニ全然考慮シ居ラス即チ重慶側ノ見解トシテハ蘇聯邦ハ目下支那ノ對日抗戰繼續ヲ必要トシ居ルヲ以テ重慶側カ新四軍ヲ武力解決スルモ蘇聯邦政府ニ對シ共產黨側ヲ押へ問題ヲ紛糾セシメサル様要求スルコト

可能ナリト考へ居レリ故ニ重慶側カ事件發生後直チニ在重慶蘇聯邦大使ニ對シ蘇聯邦政府ヨリ中國共產黨ニ對シ重慶側ノ新四軍解決措置ニ服従スヘキ旨命令方依頼セルカ右ニ對シ大使ハ該事件ハ事前ニ何等ノ了解ヲ求メス今ニ至リテ責任ノミヲ執ラシメントスルモ絕對ニ爲ス能ハストシテ之ヲ拒絕シ一方蘇聯邦ヨリ延安ニハ多數ノ軍事專家ヲ飛來セシメ共產黨軍側ノ軍事對策ニ協力セシムル外重慶側ニ對スル武器及物資ノ輸送ヲ中止シ又若シ重慶側カ日本ニ對シテ妥協スルカ如キコトアラハ直チニ武力ヲ以テ共產軍ヲ援助スヘキ旨嚴重ナル威嚇警告ヲ發スル所アリタリ斯ノ如ク重慶側ハ目下頗ル苦境ニ立チ居リ來遊中ノ「カリ」モ一方經濟方面ノ調査ニ從事シ居ル外主トシテ米大使「ジョンソン」及英大使「カー」等ト共ニ重慶側ノ苦境打開ニ協力奔走シ居レリ

南京大使、北京大使、香港へ轉電セリ



340

昭和16年3月24日

在中国本多(熊太郎)大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

国共内争問題に関する汪兆銘との意見交換に

〇二二

第一七七號(極秘)

南京 3月24日後發  
本省 3月24日夜着

<sup>(1)</sup>二十三日汪主席ハ非公式ニ本使ヲ晚餐ニ招待シ周佛海、梅思平、林柏生、徐良等ノミ同席セルカ食後ノ會談ノ内容ノ重要ナル點左ノ通り

一、汪ハ最近ノ國共衝突問題ヲ繞ル重慶側ノ動向ニ關シ蔣ハ最近部下ノ者等ノ共產黨ノ横暴ニ對スル憤慨甚シク此ノ儘放任シ置クトキハ部下ニ對スル統制ヲ失フニ至ルヘキヲ惧レ先手ヲ打チテ三月初メ頃ニハ共產黨彈壓ヲ決行スル心算ナリシカ偶三月八日「ジヨンソン」米國大使蔣ニ面會國民黨カ共產黨ト合作スルヤ將又相抗爭スルヤノ問題ハ我々ノ興味ヲ有セサル所ナルモ過去ノ歴史ニ徴スルニ國共合作ノ際ニハ國民黨ハ分裂シ國共抗爭ノ時ニハ國民黨ノ内訌治マルヲ常トス此ノ際ノ共產黨彈壓ハ廳テ南京トノ合流惹ヒテ日本トノ和平ニ導カルニ至ルヘシ米國ハ終始抗日政權ヲ援助スルモノナリト告ケタル爲蔣ハ共產黨ト手切レノ結果ハ蘇聯ヨリ見放サルノミナラス米

國ヨリノ援助モ斷ハラルルコトニナリテハ一大事ナリトテ折角ノ共產黨肅正工作ヲ中止シ再ヒ妥協ヲ計ルコトトナリタル趣ナリ

<sup>(2)</sup>右ハ香港ニ於ケル重慶側ノ或人物ヨリノ内報ニシテ十二分ニ確實性ヲ有スカル米國側ノ策動ハ憎ミテモ餘リ有ルカ重慶側内部ニ於テ一度起レル反共ノ風潮ハ容易ニ消滅セサルヘク蔣ト雖此ノ後永ク之ヲ統制スルニハ相當ノ困難ニ逢着スヘク此ノ際吾々トシテハ益々反共ヲ標榜シ重慶側ノ反共分子ヲ我方ニ引付クル様努力スル積リナリ

二、國民政府トシテ考慮スヘキハ日蘇ノ關係カ調整セラレ不可侵條約ニテモ締結セラレタル場合從來通りノ反共ノ「スローガン」ヲ持續スルコトハ對蘇關係其ノ他ヨリ觀テ差支無キヤ否ヤニアリ此ノ點ニ付貴大使ノ教ヘヨ仰度シ

三、右ニ對シ本使ハ善ク考ヘテ見ルヘキカ御承知ノ如ク日本ニテハ防共協定締結當時ヨリ蘇聯ト第三「インターナショナル」トハ別個ノ存在ナリト看做シ所謂防共トハ第三「インター」ノ破壊的工作ニ對處スルノ意味ナリトノ建前ヲ執リ居ル次第ナリ日蘇間ニ國交調整セラレタル場合



ニ於テモ國民政府側ニ於テ第三「インタール」ヲ對象トシテノ「反共」標榜ハ差支無カルヘキヤニ思考スト説キタルニ汪モ同感ノ意ヲ表シ支那ニ於テモ從來反共ノ目標ハ第三「インタール」ニシテ蘇聯ヲ目標トシタルコト無シト答ヘタリ

四、最後ニ本使ヨリ國共妥協ノ條件ヲ尋ネタルニ汪ハ抗日戰線ノ強化ニ依ルノ外無カルヘシト答ヘタル後最近三年間ノ戰爭ニ於テ注目スヘキ現象ハ共產軍カ日本軍ニ對シテ戰ハサル方針ヲ持ツテ居リ(曾テ初期ノ頃山西省ニ於テ一度衝突セルコトアリシノミ)專ラ中央軍ノ地盤ヲ食ヒ且民衆ノ間ニ勢力ヲ擴張スルニ努メツツアルコトナリ蓋シ<sup>(3)</sup> 彼等ハ國民黨ト拮抗スルニ足ル勢力ヲ充實シ出來レハ輕擧ヲ避ケ戰爭ヲ繼續セシメテ漁夫ノ利ヲ占メントスルモノナルヘシ一方蔣ハ自分ノ治下一寸ノ土地テモ殘ル限リハ之ヲ守リテ將來ヲ俟ツト云フ主義ニテ先年「トラウトマン」大使ノ調停ノ時和平問題ニ付議論セル時モ蔣ハ「君等ノ和平ハ一步ヲ誤レハ國土全部ヲ失フニ至ルヘシ吾人ノ抗戰モ其ノ前途極メテ容易ナラサルヘキモ苟クモ一寸ノ土地ニテモ殘ル限リ其ノ地域丈ケニハ絶對ニ吾

人ノ自由アリ」ト語レルコトアリ彼ハ暫ク現在ノ地域丈ニテモ握リ居レハ其ノ中ニ世界ノ情勢モ變ルヘク何トカ轉換ノ途有ルヘシトノ賭博心理ニ驅ラレ居ルモノニシテ結局共產黨カ四川、雲南、貴州等ノ蔣ノ地盤ニ手ヲ着ケサル限リ構ハヌト云フ主義ナリ斯ル事情ヨリ國共妥協ノ餘地有ル次第ナルカ其ノ結果ハ聽テ部下ノ共產黨ニ對スル憤慨トナリテ再ヒ分裂ヲ來シ一部ハ和平陣營ニ投シ來リ茲ニ全面和平運動ノ進展ヲ見ルニ至ルヘシト思考スト述ヘタリ

北大、上海、廣東へ轉電セリ

341 昭和16年3月28日

在中国本多大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

### 外政機構整備統合問題に関し意見具申

第一九四號

南京 3月28日後發  
本省 3月29日前着

<sup>(1)</sup> 外政機構整備ノ件ニ關シテハ中央ニ於テ折角具體案審議中ノコトト存セララルル處事態ノ性質ト其ノ帝國外交ノ上ニ及

ホスヘキ影響ノ重大ナルニ鑑ミ僭越ヲ顧ミス敬ンテ左ニ卑見ノ概要ヲ稟申ス

一、本件機構問題ハ帝國ノ對支國策乃至事變處理ノ根本方針ト本質上不可分ノ關係ニ在リ右方針ヲ離レテ機構問題ヲ論スルヲ得ス若シ夫レ支那ヲ我カ内政ノ延長タル特種行政ノ對象トシテ或ハ又軍政ノ對象トシテ取扱フコトヲ以テ帝國ノ對支國策乃至事變處理ノ根本方針ト合致スルモノナリトセハ本件機構モ宜シク右ニ相應シ内政機關又ハ軍政機關タル性格ヲ有セシムル如ク決定スルヲ要スヘク而モ右ノ場合ニハ斯ル機關ヲ外務大臣ノ管理ノ下ニ置クハ明カニ矛盾ナリト言ハサルヘカラス然ルニ帝國既定ノ對支國策乃至事變處理ノ根本方針竝ニ日華基本條約等ノ指示スル所カ支那ノ獨立性及統一性ヲ尊重スルノ原則ヲ要素トスルモノナルコト照々トシテ明カナル以上殊ニ況ンヤ國民政府承認ノ今日ニ於テハ本件機構問題ノ取扱振ハ右原則ヲ破壊シ又ハ之ヲ晦冥ナラシムルカ如キモノタルヲ許サス

此ノ際中央機構及現地機構ノ全體ニ亘リ筋道ノ透徹ヲ期スル我カ國家意思ノ統一ヲ保持シ大義名分ヲ貫ク上ヨリ

シテ極メテ肝要ナリト存ス

二、本件機構問題ヲ取扱フニ當リ基礎原則ノ一トスヘキハ統帥ト一般國務ノ系統ヲ明徴ニシ統帥機關ト行政機關トノ責任分野ヲ明確ニスルニアリ蓋シ右ハ至尊ニ對スル輔弼責任ノ所在ヲ確定シ健全ナル國家機能ノ發揮ヲ期スル上ヨリシテ絶對ノ條件ナレハナリ今日重大ノ時局ニ於テ最モ切實ニ要請セラルル統帥機關ト行政機關トノ圓滿ナル強調ノ如キモ此ノ兩者ノ間ニ相互ニ其ノ責任分野ヲ明カニシ互ニ之ヲ尊重スルノ精神アリテ甫メテ全キヲ得ルモノト言ハサルヘカラス

統帥及國務ノ兩系統ヲ明徴ニシ兩系統機關ノ責任分野ヲ明確ニスルノ要請ヲ具現スルニ當リテハ單ナル表現的形式ノ偽裝ヲ許スヘカラス指揮命令ノ系統及人的構成等各般ニ亘リ總テ實質上ニ於テ右要請ノ精神ヲ適合スルモノナラサルヘカラス而シテ右ハ中央及現地ノ全機構ヲ通シ遵守セラルヘキ要綱ナリト思考ス

三、<sup>(3)</sup>本件機構問題ハ帝國外交ノ全體ノ上ニ於テ支那ノ占ムル地位及之ト全體トノ關係ヲ餘所ニシテ之ヲ考フルヲ得ス支那ニ對シ又ハ支那ニ關スル外交ノ機關カ帝國外交ノ他

ノ分野ノ機關ヨリ實質上分離シテ存スルニ至ルカ如キコトアラハ右ハ單ニ對支外交ノミナラス帝國外交全體ノ破壞ヲ意味スルモノト思ハサルヘカラス從テ本件機構具體案作成ニ當リテハ形式的統合ニ急ニシテ外交機構ノ實質の分裂ヲ來シ帝國外交ヲ破壞ニ導クカ如キ重大ナル過誤ヲ犯ササル様慎重工夫スルノ要アリト信ス

四、本件機構問題ハ單ナル内國官廳ノ場合ト異リ其ノ決定振リ如何ハ直ニ對外的外交のニ重大ナル影響ヲ齎スモノナリ第三國ニ對スル影響ノ問題ハ暫ク別トスルモ儻シ本件機構カ實質上支那ノ獨立性又ハ統一性ヲ無視スルカ如キ性格ヲ有スルモノトナル場合ニ於テハ國民政府及重慶側ニ對シ如何ニ深刻ナル政治的惡影響ヲ及ホスヤハ火ヲ見ルヨリモ明カニシテ帝國政府ノ庶幾スル全面和平招來ノ一大障礙トナルニ至ルコト必然ナリ從テ本件機構具體案決定ニ當リテハスル政治的影響ノ觀點ヨリモ深甚ノ省察ヲ加フルノ要アリト思料ス

五、<sup>(4)</sup>如上諸點ノ要請ハ事變進行中ナルノ故ヲ以テ阻却セラルヘキ性質ノモノニアラスシテ却テ事變中ナルカ故ニ之ヲ強調スルノ要益々緊切ナルモノアリト信ス蓋シ夫レ中央

機構ニ於テ名ハ外交機構ノ統合ト言フモ實質上興亞省ノ如キモノヲ設ケ其ノ長官カ事實上在支外交機關ヲ全面的ニ指揮スルノ權ヲ掌握スルカ如キ又現地機構ニ於テ其ノ業務指揮分野ヲ限定シテ條約ノ外ニ數多ノ地域ニ實質上謂ハハ割據的ノ代表機關ヲ設クルカ如キコトアラハ前述本使ノ所信ト全面的ニ衝突スルモノニシテ前記理由ニ基キ斷シテ國家ノ爲ニ採ラサル案ナリト思考ス

六、尙本使ノ所見ヲ忌憚ナク申進スルヲ許サルレハ現下重大ノ時局ニ於テ眞ニ國家總力ヲ最大限度迄發揮スルヲ要スルノ秋統帥府及政府ノ間ニ最高國防會議トモ言フヘキ最高機關ヲ設ケ政戰兩略ノ運行ヲ根源ニ於テ完璧ナラシメラルル様中央ニ於テ御工夫アランコトヲ希望スルモノナリ

342

昭和16年4月5日

在中國本多大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

事變解決への樂觀的期待など日本内地の認識  
には中国の現地実情と相当の乖離があるとの

楮民誼内話について

第二〇六號(極秘、部外秘)

南京 4月5日後發  
本省 4月5日夜着

褚大使ハ四月二日影佐少將ニ面會ノ際長時間ニ亘リ種々感想ヲ述ヘタル趣ナルカ其ノ内御參考ト成ルヘキ點左ノ通り  
一、日本ニ於テ意外ニ感シタル事ハ内地ノ日本人カ(一)對重慶工作力簡單ニ出來得ルカ如ク考ヘ居ル事(二)國共ノ分裂カ相當速ニ實現スルモノト見込ミ之トノ關聯ニ於テ事變解決ノ期待ヲ懸ケ居ル事(三)國民政府側カ對重慶工作ニ熱意無シト見居ル事ナリ右ハ現地ノ實狀ト認識トハ相當ノ隔リ有ルモノナリ  
二、東京ニ於テハ伊太利大使トモ面會シタルカ(獨逸大使トハ未タ面會セス)其ノ口吻ヨリ察スルニ獨伊側ニ於テハ暫ク國民政府ノ承認ヲ見送り重慶トノ合流等ノ機會ニ一役買ツテ出テ將來ノ發言權ヲ留保セントスル肚ナルヤニ見受ケラレタリ  
三、赴任後約二箇月ヲ經テ歸國シテ受ケタル第一ノ印象ハ政府部内ノ者モ一般民衆モ憂鬱トナリ居ル狀態ナリ右ハ一面政府ノ希望スル調整力遅々トシテ進マス例ヘハ南京ニ

於ケル政府ノ役人ノ家屋ノ如キモ今尙敵産ノ名目下ニ日本側ニ管理セラレ居ルカ如キ心理的ニ相當ノ失望ヲ與ヘ居ル事實有ルコト一原因ナルヘキカ他面法幣ノ暴落ト食糧ヲ始メ物價ノ昂騰トニ依リ一般ニ生活難ニ陥リ居ルコトモ主要ナル原因ナルヘシ  
尙褚大使トハ先方ノ希望ニ依リ來ル七日會食ノコトニナリ居レリ何レ今少シク踏込シタル内輪話有ルコトト思ハル上海、北大ヘ轉電セリ

343 昭和16年4月8日

在中国本多大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

重慶政治情勢に関する汪兆銘の観測について

南京 4月8日後發  
本省 4月8日夜着

第二一二號  
七日汪主席ノ日高二對スル内話要點左ノ通り  
一、八全會ニ關スル各方面ノ情報ヲ綜合スルニ重慶側ノ態度ハ左シタル變化ヲ見ス蔣介石ハ抗戰ト經濟建設トヲ口號シ歐洲戰爭ノ結果ニ依ル時局ノ好轉ヲ待ツ氣持看取セラ

ル

最近ノ人事移動モ大シタ政治的意義ナシ再開國防會議ノ如キハ蔣介石ノ訓辭ヲ聞ク程度ノ權威ナキモノナリ

二、最近當地ニ開催セル軍事委員會會議ニテ重慶側ト對峙接觸シ居レル第一線將領ノ報告ヲ聞キテ得タル結論ハ(イ)重慶側ノ戰鬥力著シク低下セルコト(ロ)彼等カ日本軍トノ戰鬥ヲ回避スルコトノ二點ニシテ蔣ハ米國ノ援助ヲ賴リ空軍ノ再建ニ努メ歐洲戰爭ノ狀況ニ依リ空軍ニ依ル反撃ニ出テント考ヘ居ルモノノ如シ

尙同日周佛海ハ日高二對シ重慶側ハ松岡大臣ノ渡歐ヲ氣ニ病ミ居リ駐蘇大使邵力子ハ着任以來未タ一回モ「スターリン」ト面會出來サル爲此ノ際居タタマレス辭意ヲ洩シ蔣介石ニ慰撫セラレタル由ノ情報アリ又王寵惠ノ外交部長辭任ハ本人ノ意思ニ出テ張群ノ最高國防委員會秘書長辭任ハ四川省主席ニ專念スル爲ト觀測セラルトテ汪ト同趣旨ヲ述ヘタル趣ナリ

北大、上海へ轉電セリ

344

昭和16年4月12日

在北京土田(豊)大使館參事官より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

### 閻錫山が帰順の条件を提示したとの情報報告

北京 4月12日夜発  
本省 4月12日夜着

第二五一號(館長符號扱、部外極秘)  
往電第一九五號二關シ

林ハ三月三十日北京發太原ニ赴キ閻錫山代表趙承綬ト會見  
四月十日歸燕セルカ其ノ報告左ノ通り

一、林ハ趙承綬ノ親友梁上椿ト共ニ三月三十一日太原着第一軍參謀部ト打合セタル結果趙ノ求ニ依リ第一軍宮内參謀及梁ト共ニ臨汾西北四五支里ノ白頭關(閻側地盤)ニ赴キ(臨汾白頭關ハ興亞軍ノ護衛ヲ受ク)四月七日趙ト會見セリ

二、趙ハ閻ノ正式代表トシテ先ツ根本問題トシテ(イ)防共ニ付テハ日本ト同意見ナルカ中共ノ討伐ハ閻軍ヲシテ行ハシムルコト(ロ)重慶側ノ英米蘇依存ハ東洋平和ト相容レサルコトヲ自覺シ日本ト合作シテ支那更生ヲ圖リタク其ノ第一歩トシテ從來ノ關係モアリ閻ノ手ニテ山西省ノ治安ヲ

回復セシムルコトノ二條件ニ付日本側ノ了解ヲ得タク右二條件ヲ日本側ニ於テ許容セラルルナラハ次ニ具體問題トシテハ山西軍ノ現有兵力ハ十七萬(日軍約一萬)ニシテ蔣介石ヨリ軍費トシテ月額五百萬元ヲ受領シ居ル處右軍費ハ九箇軍分ニシテ他ハ八箇軍分ハ閣自身ニ於テ調辦シ居リ閣トシテハ日本側ト了解成立ノ上ハ右軍隊ヲ三十萬ニ増強シ現在山西軍ヲ圍繞スル中央軍カスナン(中條山脈一帯)部下三十萬及第八路軍十五萬ニ對スルコトトシタキ意嚮ナルニ付右山西軍ノ増強竝ニ裝備ニ關シ日本側ノ援助ヲ得タキコトノ三條件ヲ申出ツルト共ニ物資ノ缺乏(特ニ鹽)ヲ訴ヘ居タリ

三、宮内參謀ヨリ閣ノ早急赴<sup>〇</sup>燕方申出テタルニ對シ趙ハ山西軍アリテノ閣ニシテ山西軍ヲ捨テ置キ單獨中央ニ乗出スモ何等役ニ立タサルコトヲ良ク了解シ居ルヲ以テ山西軍處理解決セサル以上中央又ハ華北政權ノ求ニ應シ出慮スルコトナカルヘシ(現ニ北京及南京ヨリ出慮方内密ニ勸誘シ來リタルモ之ヲ拒否セル經緯アリ)ト答ヘタリ

四、右會見ハ林、宮内、梁及趙ノ四名ニテ餘人ヲ加ヘス行ハ

レタルカ趙ハ事變以來今日ノ如ク氣持良ク話シタルコトナシトテ大ニ感激シ居タリ

五、林ハ本月末田中兵務局長ノ來燕ヲ俟チ同局長トモ協議ノ上梁ト共ニシツ縣(霍縣西方)ニ於テ閣ト會見スルコトニ趙ト打合セタリ尙林ハ今次會見ノ次第ヲ今明日中畑司令官ニモ説明スル積リナル旨附言セリ

上海、南京へ轉電セリ  
香港へ轉電アリタシ

345

昭和16年4月14日

在上海堀内総領事より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

汪兆銘下野を条件とする山崎靖純の和平工作  
は重慶政權に日本の弱腰を示す結果となつて  
いるとの情報について

上海 4月14日後発  
本省 4月14日夜着

第五八九號(極秘、館長符號扱、部外極秘、外信)  
十三日張群ト反對側ニ立ツ重慶側大立物(特ニ名ヲ祕ス)ノ駐滬代表ヨリ岩井ニ對シ日本側ハ引續キ山崎<sup>(病カ)</sup>正純ヲ通シ錢

永銘、張群ノ筋ヲ通シ蔣介石トノ全面和平交渉ヲ進メ(一)蒙  
疆、青島ニ少數ノ駐兵及海南島ノ利用ヲ支那側ニ於テ許容  
スルコト(二)滿洲國承認問題ニ觸レサルコト(三)汪精衛ノ下野  
外遊等ノ條件ヲ提議シ居ル處(一)ノ點ハ問題ナキモ(三)ノ點ハ  
日本側ノ弱腰ヲ見透カサルル外何等好結果ヲ得ラルルモノ  
ニ非ス現ニ蔣ハ右條件ヲ見テ米國ヲ交渉ニ參加セシメラル  
ルナラハ和平交渉ニ應スルモ差支ナキ旨日本ノ到底許容シ  
難キ條件ヲ提出セル等ノ經緯有ルカ日本側カ餘リニ焦テ斯  
カル條件ヲ提出スルハ徒ニ蔣介石ノ態度ヲ硬化セシムルノ  
ミニテ全面和平ヲ促進スル上ニ百害有ツテ一利ナキ次第ニ  
テ寧口武力南進位ノ氣勢ヲ示シ強キニ出ツルコト必要ナリ  
ト内報シ居ル趣ナリ  
右ハ何ノ程度真相ニ觸レ居ルヤ不明ナルモ御參考迄  
南總、香港へ轉電セリ

346

昭和16年4月14日

在中國本多大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

日ソ中立条約に対する南京政府要路の評価に

つき報告

第二三三號

南京 4月14日後発  
本省 4月14日夜着

日蘇中立條約締結ニ關スル記事ハ何レモ「トツプニユー  
ス」トシテ十四日及十五日ノ各漢字紙ニ掲載セラレ居ル處  
右ニ關シ十五日南京新報ハ本條約カ三國同盟ヲ強化シ日蘇  
關係ノ改善ニ寄與シ重慶側ノ友タリシ蘇聯邦カ其ノ態度ヲ  
豹變シテ中共從來ノ詭辯カ暴露サレ和平ノ力カ益々強クナ  
リタル旨ヲ説ケルカ徐外交部長ハ往訪ノ記者ニ對シ「日本  
ハ今後全力ヲ舉ケテ東亞新秩序ノ建設ニ邁進スルヲ得ヘク  
重慶ハ中共ノ援助ヲ失ヒ益々苦境ニ陥リ全面和平ハ一段ト  
輝キ來タレリ」トノ趣旨ヲ語リタル由十五日ノ新聞ニ掲載  
セラレ林宣傳部長モ記者團トノ會見ニ於テ同様意見ヲ述ヘ  
タル趣ナリ尙右ニ關シ汪主席ハ本朝他用ニテ往訪セル王揖  
唐ニ對シ劈頭本件ノ話題ニ入り之ニテ重慶モ蘇聯邦ト支援  
ヲ失ヒタル次第ニテ其ノ影響スル所大ナルヘシトテ頗ル悅  
ヒ合ヒタルカ王揖唐自身モ係官ニ對シ特ニ華北ニハ好影響  
アルヘク米國モ極東ニハ輕々ニハ手ヲ出スコトナカルヘシ  
ト述ヘ心カラ悅ヒ居タル趣ナリ

徐外交部長モ日高二對シ前顯新聞記者談ヲ汪主席ニ報告セ  
ル處主席ハ右ニテ結構ニテ重慶ノ當カ外レ好影響アルヘシ  
トテ略王揖唐ニ對スルト同様ノ見解ヲ洩ラセル趣語タレル  
由ナリ不取敢  
興亞院へ轉報アリタシ  
在支各總領事、滿へ轉電セリ

347

昭和16年4月15日

在北京土田大使館參事官より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

日中立條約に関する華北方面の反響につき報告

北京 4月15日後発

本省 4月15日夜着

第二五七號

日蘇中立條約成立ニ依リ支那側民衆ニ對シ對共產黨態度ニ  
何等カノ變化アルヤノ印象ヲ與フル惧アリタルヲ以テ當地  
軍、興亞院、當館係官協議ノ結果不取敢華北政務委員會ヲ  
シテ「蘇聯ト中共トハ別個ノ存在ニシテ對中共政策ニハ從  
來ト何等變化無キ」旨ノ情報局長談ヲ發表セシメタルカ  
(既ニ御氣付ノコトト存スルモ日本側トシテモ此ノ點ヲ明

カニシ置クコト對支那關係其ノ他ニ鑑ミ必要ト認メラル)  
本條約成立ニ關スル當方面支那側有識者ノ意見大要左ノ通  
リ御參考迄

一、本條約成立ニ依リ日本ハ滿蘇國境其ノ他北方ヨリスル蘇  
聯ノ脅威ヨリ解放セラレ後顧ノ憂ヲ斷チテ南進政策ニ專  
心シ得ルコトトナルヘシ

二、蘇聯ノ中共援助ニ依ル重慶側抗戰力保持ニハ急激ノ變化  
アリトハ思ハレサルモ少クトモ重慶ノ宣傳シ來レル日蘇  
開戰說ハ其ノ根據ヲ失ヒ抗戰陣營ニ一大打撃ヲ與ヘ全面  
和平ニ數歩ヲ進メタルモノト云フヘク日本ハ事變處理上  
有利ノ地位ニ立ツコトトナレリ

三、日米關係ニ付テハ(イ)米ノ對日態度ハ本條約ニ依リ一大變  
化ヲ餘儀ナクセラルヘク日米開戰ノ可能性稀薄トナルト  
見ル者ト(ロ)蘇聯ハ本條約ニ依リ日本ヲ焚付ケ日米戰爭ヲ  
促進スル魂膽ナリト見居ル者トアリ

四、現在蘇聯ハ日本ト斯ル條約ヲ締結スル積極的必要無キニ  
拘ラス本條約ノ成立ヲ見タルハ蘇聯ニ何等カ魂膽アリト  
見ルヲ妥當トスヘク日本ハ國際無信義ニ定評アル蘇聯ニ  
頼リ過キテ背負投ケヲ喰ハサル様注意ノ要アリ



南大、上海、天津、漢口、廣東、青島、濟南、滿大へ轉電セリ

348 昭和16年4月16日 在中國本多大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

日ソ中立條約に関する宣伝要項の作成について

別電 昭和十六年四月十六日發在中國本多大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛第二三五號  
右宣伝要項

南京 4月16日後發  
本省 4月16日夜着

第二三四號

本使發北京、上海宛電報

合第九二號

日蘇中立條約締結ニ關スル宣傳ニ關シ總軍側トモ協議ノ上  
別電合第九三號ノ要項ヲ作成シ支那側ニモ内示セル處全然  
之ニ同意シ十五日右ノ趣旨ヲ各新聞社幹部ニ手交セル趣ニ  
付右御含ノ上輿論指導方御取計相成度シ

別電ト共ニ大臣ヨリ興亞院政務部長へ轉報アリタシ

本電宛先 在支各總領事、大臣、滿大へ轉電セリ

(別電)

南京 4月16日後發  
本省 4月16日夜着

第二三五號

<sup>(1)</sup>本使發北京、上海宛電報  
合第九三號

日蘇中立條約宣傳要項

一、方針

日蘇中立條約ハ世界的戰亂ノ擴大ヲ防止シ大東亞全局ノ平  
和ヲ確保建設セントスル崇高ナル目的ノ爲締結セラレタル  
モノニシテ本條約ノ締結ハ樞軸外交ノ強化擴大ヲ意味スル  
モノナル點ヲ指摘シ延イテ重慶側及第三國側ノ輿論ヲ善導  
シ全面和平ノ招來ヲ促進セシムルコトニ主眼點ヲ置キ反復  
之ヲ宣傳啓發ニ利用スルモノトス

<sup>(2)</sup>要領

右方針ノ下ニ概ネ次ノ諸點ヲ強調スルモノトス

(イ)日蘇間ノ諸懸案(漁業、北樺太ノ重要資源一般通商等)漸

次調整セラレ紛争ノ種ヲ根絶スルニ到ルヘシ

(ロ)重慶ニ對スル日本ノ壓力カ益々増大スヘシ

(ハ)日蘇間、獨蘇間ノ離間ヲ圖レル英米側ノ策動ハ完全ニ失

敗シ蘇聯邦ハ樞軸國側ノ外廓的存在トナリ其ノ陣營ニ參

加セリ

(ニ)從テ日獨伊蘇四國ノ關係ハ今後益々親密トナルヘク獨伊

ノ對英戰ヲ一層有利ナラシムルノ外米國ノ極東政策ヲ再

考ノ餘儀ナキニ到ラシムヘシ

(ホ)蘇聯邦ヲ利用シテ對日牽制ヲ策セル重慶側ノ企圖ハ完全

ニ失敗シ其ノ英米蘇重慶ノ連繫ノ企圖モ晝餅ニ歸シタリ

(ヘ)重慶ハ今後ハ蘇聯邦ヨリスル物心兩面ノ援助ハ絶無トナ

リ全然困窮ニ陥ルヘシ

(ト)重慶側ノ連蘇派タル孫科、宋慶齡等ノ面目ハ丸潰レトナ

リ重慶ニ於テ彼等ノ意見ハ今後益々價值ナキモノトナル

ヘシ

(チ)重慶側ニ於ケル國共ノ關係ハ今後益々氣拙クナルノ外重

慶ノ抗日陣營ハ四分五裂スルニ到ル傾向ヲ助長スヘシ

349

昭和16年4月16日

在中国本多大使より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

日ソ中立條約はソ連と重慶政權の關係を薄弱

化しないとの汪兆銘觀測について

南京 4月16日後發

本省 4月16日夜着

第二四二號(館長符號扱)

日蘇中立條約ニ關シ汪主席ハ影佐少將ニ對シ素人タル個人ノ見解ナルカト前提シ左ノ通り語りタリ

條約成立ノ此ノ際ニ於テ日本ハ米國ニ働キ懸クルコト緊要

ニシテ米國大統領モ聰明ナレハ嘗テ蘇聯邦カ獨逸ヲ利用シ

テ英ニ對シ戰爭ヲ喚カケタルト同様今回ハ日本ヲ驅テ米國

ニ開戰セシメントスル底意アルコトハ良ク承知シ居ルヘシ

自分トシテハ宣傳上中立條約ニ多少ニテモ罅ヲ入ラシムル

コトナキ様全力ヲ注クコトハ當然ナルモ本條約ノ成立ニ依

テ直ニ日本ハ滿洲ヨリ撤兵シ得ルモノトハ思考スルヲ得ス

換言スレハ本條約ニ依存シテ滿洲ニアル軍隊ヲ他ニ轉用シ

得ルニ至ルヘシト信スル者ナシト確信ス又重慶ト蘇聯邦ト

ノ關係カ薄弱化スルナラント判斷スルコトハ至當ナラサル

ヘシ要之本條約ノ成立ニ依テ實際上ノ情勢力變化ヲ來タス  
ヘシトハ思考セラレサルモ樞軸國側カ勢得タル精神的效果  
ハ偉大ナルモノアリ此ノ機會ヲ利用シ米國ニ工作シ彼等ヲ  
シテ日本ニ對シ讓步セシムル様仕向クニ於テハ其ノ結果更  
ニ效果的ニアラサルカト思考ス  
北京、上海、漢口、廣東ニ轉電セリ

350 昭和16年4月16日 在北京土田大使館參事官より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

閻錫山歸順工作の進捗状況に関する蘇體仁の  
内話情報報告

北京 4月16日後発  
本省 4月16日夜着

第二五九號(極秘、館長符號扱)  
往電第二五一號ニ關シ  
閻工作ニ關スル林ノ報告ト四月九日附外機密第四〇七號拙  
信申進ノ鷲澤前代議士ノ原田ニ對スル内話トノ間ニ多少喰  
違アリタルヲ以テ十五日原田ハ目下來燕中ノ山西省長蘇體  
仁ヲ往訪シ夫レトナク確メタルニ蘇ハ一時停頓中ナリシ閻

工作モ過般ノ田中局長ノ來原。ニ依リ促進セラレ成功ノ望ア  
リ閻トシテハ山西軍自身ノ手ニ依リ先ツ山西ノ治安回復ヲ  
圖リ次テ地方ニ及ヒタキ希望ニテ右希望ニ對シ精神的了解  
ヲ與ヘ適當ノ名義。ノ下ニ閻ノ面子ヲ保持スル様措置シクレ  
ルナラハ夫レニテ充分ニテ最初ヨリ華北綏靖總司令等ノ如  
キ實力ヲ背景ニ持タサル空位地位ヲ求メ居ル譯ニアラス  
(トテ往電第二五一號ノ三ノ趣旨ヲ述ヘ)田中局長ハ趙承綬  
トノ談合ニ依リ右閻ノ希望ヲ充分承知ノ上歸國シ中央ト協  
議ノ結果ヲ齎シ本月末ニハ再ヒ來原ノ豫定ニテ一方趙承綬  
ハ閻ノ正式代表トシテ二十日頃來原ノ旨通知アリタルニ付  
自分ハ一兩日中ニ多田軍司令官ニ會見シ從來ノ經過ヲ報告  
ノ上十九日太原ニ歸ル積リナリト述ヘ且今次日蘇條約ノ成  
立ハ抗日陣營ニ大打撃ヲ與ヘタルハ必定ナルヲ以テ閻工作  
モ大ニ遣リ良クナリタル譯ナリト附言シタル趣ナリ  
尙十六日林來翰報告ニ依レハ閻工作ハ今後北支軍指導ノ下  
ニ第一軍田中局長ト協力シ之ニ當ルコトトナル趣ナリ  
南京、上海へ轉電セリ  
香港へ轉電アリタシ

351

昭和16年4月24日

在中国本多大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

山崎靖純の活動など無統制な対重慶工作が各

方面に及ぼす悪影響につき考慮方具申

南京 4月24日後発

本省 4月24日後着

第二六一號(極秘、館長符號扱)

貴電第一二三號ニ關聯シ信憑スヘキ聞込ニ依ルニ山崎ハ重

慶側ニ對シ貴電ニ所謂「先方ノ空氣打診」ヲ行フニ當リ日

本政府ノ意嚮トシテ

(一)汪兆銘ハ下野外遊スルコト

(二)全面撤兵ヲ行フコト

(三)滿洲國承認ヲ求ムルコトノ

三項ヲ提示シタルモノノ如ク在上海重慶側某有力者ノ如キ

其ノ遣口ノ抵劣サヲ冷笑シ居レリト言フ一方青島ヘモ最近

日本ヨリ某氏來着王克敏邊ヲ動カシテ工作ヲ試ミントシツ

ツアルヤノ説アリ上海ニモ例ノ「ブローカー」的重慶工作

業者ノ蠢動今猶絶ヘサル模様ナルカ一々事實トシテ取り擧

ケル次第ニハアラサルモ此ノ種素人筋浪人連ニ依ル無統制

ノ行動ノ各方面ニ及ホスヘキ悪影響ハ特ニ指摘スル迄モナ  
キ儀ニ之有リ何トカ御考慮相成様致度シ爲念申上ケ置ク



352

昭和16年4月27日

在中国本多大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

対重慶工作実施に当たつては南京政府に了解を

求めるべきとの周仏海質疑につき応答振り請訓

別電 昭和十六年四月二十七日発在中国本多大使よ

り松岡外務大臣宛第二六四号

周仏海の談話内容

南京 4月27日前発

本省 4月27日夜着

第二六三號(極秘、館長符號扱)

別電第二六四號ノ通り影佐少將ヨリ内報告アリ周佛海來訪

ノ節ノ應答方ニ付折返シ御回訓アリタシ

(別電)

南京 4月27日後発

本省 4月27日夜着

第二六四號(極祕、館長符號扱)

重慶工作ニ付周佛海ノ質疑提出ニ關スル件

一、四月二十三日周佛海ハ影佐少將ニ對シ左ノ如ク質問シ日

本側眞意ヲ質セリ

三、十月中旬松岡外務大臣ハ影佐少將ヲ通シ汪主席ニ對シ

「錢永銘工作ハ汪精衛、周佛海モ同意ナリトノ前提ノ

モトニ實施シアルモノニシテ國民政府ノ了解ナキコト

ヲ實施セントスルノ意思ヲ有セス」ト傳言セラレタリ

該工作ハ國民政府承認ト共ニ中止セラレタルモノト思

料スル處爾今重慶工作ハ國民政府ト完全ナル了解協力

ノ下ニ實施セラルルモノト考ヘ居レリ

二、然ルニ最近日本政府ハ國民政府ト何等關係ナク重慶工

作ヲ實施セラレアル情報鮮シトセス此ノ例左記列擧ノ

如シスノ如キハ松岡外務大臣ノ傳言ノ趣旨ト背馳スル

所ニシテ日本側ノ國民政府育成ノ熱意冷却セリトノ情

報ト對照シ眞ニ不愉快ニ存スル處ナリ

三、盛浦東ハ松岡外務大臣ノ委任ヲ受ケタル西義顯ノ代理

ナリト稱シ上海ヨリ香港ニ至リ當時重慶ニ在ル錢永銘

ニ對シ錢ヲ追ヒ重慶ニ赴キタシトノ電報ヲ發セシモ錢

ハ之ヲ拒絶シタル趣ニシテ錢ハ香港ニ歸來後リ(李北

トウヲ周佛海ニ派シテ右事情ヲ述ヘ右ハ國民政府ノ了

解セル所ナルヤ竝ニ西義顯來香ノ際之ト會見スヘキヤ

否ヤヲ問合セ來レリ

周佛海ハ右ニ付日本側ヨリ何等聞キタルコトナク國民

政府トシテ關係ナシト回答セリ

四、香港ヨリノ情報ニ依レハ山崎靖純松岡外務大臣ノ意圖

ヲ受ケ赴香シ重慶直接交渉ヲ工作中ニシテ國民政府ヲ

無視スルカ如キ條件ヲ提出セリト

五、日本政府ノ意思ニ依リ某中將過般青島(一說ニハ上海)

ニテ蔣介石直系某ト會見シ條件等モ大體纏リタルモノ

ノ如ク王克敏モ之ニ關係アリトノ情報ヲ得アルモ右重

慶側ノ當事者ノ誰ナルヤハ詳カナラス

六、右ニ對シ影佐少將ハ昨年十月ノ松岡外務大臣ノ傳言ヲ再

確認スルト共ニ國民政府ト無關係ナル重慶工作ハ松岡外

務大臣ノ意思ナラサルモノト思料スルモ右諸情報ノ眞僞

ハ余ノ闡知セサル所ニシテ直接本多大使ニ質問セラルル

ヲ本筋トスヘシト應酬セリ



353

昭和16年4月28日

在香港矢野総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

日中立条約成立をめぐる重慶政権動向に關する情報報告

香港 4月28日後発

本省 4月28日夜着

第二一號

<sup>(1)</sup>日蘇協定ニ關スルC F情報左ノ通り

一、本協定成立前蔣ハ孫科ノ赴蘇要求ヲ一蹴シタルノミナラス陳銘樞、李宗仁等ヨリ滿蒙ヲ犠牲ニ對蘇關係ノ積極的打開方獻策アリシニ對シテモ右地方カ日本支配下ニ在ル限リ新疆ノ前例ニモ鑑ミ蘇ヲ納得セシメ難ク且ハ民主軸心兩國家ニ對スル有利ナル立場ノ放棄トモ見ルヘキ蘇ノ對日屈服ハ斷シテ考ヘラレストノ朱家驊、孔祥熙、何應欽等ノ反對意見ヲ支持シ之ヲ拒否シハ諸方面ノ確報ヲ綜合スルモ蘇ノ援支政策ニ變化ナキヲ以テ松岡大臣ノ努力モ效果ヲ齎スコトナカルヘシト多寡ヲ括リ唯李濟深ノミハ松岡大臣ノ往路露都立寄り當時蘇聯ヨリ種々暗示ヲ與ヘ率直ニ表示アリシニ拘ラス斯カル好機ヲ捉ヘ得サリ

シハ當局餘リニモ無能ナリト慨シ居タリ

二、重慶ハ右協定成立ノ六時間前ニ邵大使ヨリ何等ノ聞込ナク松岡頗ル失意ナリト電報越セルハ矢先米ヨリ協定成立ノ「ニュース」ニ接シ直ニ重要會議ヲ開催不取敢邵大使ヲ叱責シ再調査ヲ電命セル一方王部長ヲシテ共同聲明ニ反對ヲ表示セシムルト共ニ蘇聯ノ態度靜觀ノ方針ヲ決定セルカ其ノ後邵大使ヨリハ蘇當局ハ發表以外ニ何物モナシト稱シ且本協定ハ自衛ヲ目的トシ重慶ノ抗戰ヲ妨害セス蘇支物資交換協定モ繼續セラルヘキ旨間接ニ表示アリ一般ハ日英米ノ衝突促進力目的ナリト評シ居ル旨入電アリシ趣ナリ

<sup>(2)</sup>三、外交部ニテハ今後日本ハ大規模ノ軍事行動ト共ニ外交上ノ包圍攻勢ニ出テ英米ノ極東政策ニ對スル破壊工作ヲ強化スヘシトノ見透シナルカ駐米胡大使ヨリハ米ノ態度ハ歐洲情勢ノ變化ニ依リ再ヒ對日緩撫ニ立戻ルル惧無シトセス且援助強化ノ交渉モ涉々シカラスト電報越シ又日本カ南進中止ヲ條件ニ米ニ働キ掛ケ居ル旨別途確報モアリシ趣ノ處一方重慶一般要人ノ意見モ米ノ援助強化サレシハ抗戰ノ可能性無ク對策考慮ノ要アリト爲シ此ノ間和平

論ノ擡頭アルコト等ニ鑑ミ郭泰祺ニ對シ米ノ明確ナル意嚮ヲ確メ且米支ニ不利ナル對日和平ヲ迫ラサル様申入方電命又胡、宋ニ對シテハ此ノ際切メテ基金協定丈ケテモ成立ヲ計リ其ノ他ノ件ハ後廻シトセヨト訓電シタル趣ナルカ二十五日ノ英米金融協定成立ニ漸ク一息入レタル模様ナリ

四、中共ハ本協定ヲ以テ何等中國ヲ害ネサルモノト聲明依然團結抗戰ヲ標榜シ居ルコト上海電報ノ通りニシテ國民黨ハ和戰兩様ノ備ヘヲ爲シ最近迄何應欽ヲ西安ニ派シ對共軍事ノ布置ヲ爲サシメ中共ノ西北發展ト蘇聯邦ヨリノ軍需供給ヲ監視中ナルカ蘇聯邦ヨリハ中共ノ發展ヲ妨害セサルヲ條件ニ重慶ノ抗戰ニ援助方仄メカシ居ル趣ニテ對共武力發動カ蘇聯邦ノ動向ニ重大ナル關係アリ旁此ノ所軍事行動ヲ差控ヘ輿論ノ制裁ト分化ノ施策ヲ事トシ居ル趣ナリ

五、<sup>(3)</sup>對日和平ノ空氣擡頭ハ前述ノ如クナルカ曩ニ何應欽ハ米ヲ評シ專ラ物資援助ニ依ツテ自國ノ參戰ヲ避ケントシ乍ラ對支援助ニ付テハ重慶ノ要望タル第一期二百臺ノ戰鬪機配給スラ實現シ得サル現狀ナレハ今後何程期待シ得ヘ

キヤ疑問ナリ結局自力ニ頼ル以外ニ途無ク要ハ機ヲ見テ日本ト政治的解決ヲ計ルニアリト述ヘタルコトアリ張群等ト共ニ滇緬香港ノ防備力ニ對シテモ到底日本ノ攻撃ヲ支ヘ得スト觀測ス目下在緬中ノ商震モ英ノ統治的地位安定ヲ缺キ土民ノ反英恐日心理高シト評シ心アル要人ハ英米支ノ軍事合作ノ成否如何ニ拘ハラズ密ニ西南「ルート」ノ前途ニ危懼ヲ抱キ居ルモノノ如シ尤モ對日和平ニ付テハ既ニ顧大使カ蘇聯邦ノ調停アルモ反對ナリト聲明ヲ發セル通り重慶内部ニ於テモ米蘇獨何レカヨリ調停ノ申出アルヤモ知レサルカ右ハ内外ノ形勢特ニ米ノ態度ト日本ノ條件ナリト説ク者アル趣ナリ尙本件協定成立後重慶外交部ハ田尻參事官來香ノ情報入レリトテ密ニ實否確メ方當地ニ電報越シタル事實モアリ旁和平擡頭モ一概ニ否定シ得サルモノト思考セラル

南大、上海、北大、廣東、滿大へ轉電アリ度シ



354

昭和16年5月1日

在中國本多大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

對重慶工作に関する周仏海質疑につき応答振

り報告

第二七九號(極秘、館長符號扱)

往電第二六三號二關シ

五月一日午前周佛海來訪往電第二六四號影佐少將ニ對スル  
ト大要同シ意味ヲ述ヘ(但シ一層嚴肅且詳細ニ)汪主席ノ名  
ニ於テ質問セルニ付本使ハ「大使トシテハ何等承知スル所  
ナシ御希望トアラハ政府ニ問合セテ可ナリ」ト答ヘタルニ  
「左様取計ヒクレタシ」トテ引取りタリ右會談要領ニ日發  
特使ヲ以テ空送ス御覽ノ上何分ノ御回電ヲ請フ

355 昭和16年5月5日

「支那事變處理要綱」の實施振りに鑑み外務  
省が作成した「對支緊急施策要綱(案)」を  
める關係省間の協議概要

對支緊急施策要綱(案)ノ決定ニ關スル件

(昭和一六、五、五 亞一)

一、序言

汪主席ノ渡日希望ニ關聯シ先般來興亞院側ヨリ汪主席渡  
日ノ際ノ具體的遣方及應對要領等ニ關シ關係省間ニ於テ  
打合ヲナシ度旨申出アリタルニ對シ當方ニ於テハ「支那  
事變處理要綱」ノ實施振ニモ鑑ミ此際先ツ對支政策ノ重  
點ヲ何處ニ置クヘキヤノ根本方針ヲ決定スルコト肝要ニ  
シテ個々ノ具體的應對要領等ハ右ニシテ決定セハ直ニ書  
上ケ得ルノミナラス徳王來朝ノ際ノ先例ニ徴スルモ詳細  
ナルコトヲ書物ニスルコトハ上局ニ依ル政治的話合ノ實  
情ニ適セス、先ツ政策ノ根本ヲ決定シ其レ以後ノコトハ  
外務大臣ニ一任シ事務當局ニ於テ兎ヤ角文句ヲ附ケサル  
コトカ日蘇中立條約成立ノ經過ニ鑑ミルモ賢明ナリトノ  
趣旨ヲ以テ對應シ、以テ汪主席ノ渡日ニ引掛ケ何トカシ  
テ對支政策ノ轉換ヲハツキリ決定シ得ル様氣運ノ醸成ニ  
努メ來レリ

二、五月三日興亞院幹事會ノ情況

本多大使ヨリノ來電及來信等ニ依リ汪渡日ノ問題ハ愈々  
逼迫シ來レルヲ以テ興亞院側ノ希望ヲ容レ五月三日ノ幹  
事會ニ於テ太田ヨリ汪主席ヲ渡日セシムルヤ否ヤハ世界



政策トモ關聯シ一ニ外務大臣ノ判定如何ニ懸ルモノニシテ事務當局ニ於テ云々スヘキ性質ノモノニ非スト思考スルモ各方面ニ於テ興味ヲ有セラルル模様ニ就キ實情ヲ御説明スヘシトテ(一)渡日ニ關シ汪精衛及本多大使ハ如何ニ考ヘ居ルヤ(二)日支條約締結後ニ於ケル國民政府ノ現狀(三)支那事變處理要綱ノ實施振(四)日蘇中立條約成立後ニ於ケル國際情勢及重慶ノ態度等ヲ説明スルト共ニ事變處理要綱起案者ノ意圖ニ徴スルモ將又其後ノ實施情況ヲ見ルモ支那事變處理要綱ハ作文トシテハ「占領地域内ノ治安ノ肅正」「占據地域内ヘノ政治力ノ浸透」「占領地域内ノ民心ノ安定」等ヲ記述シ居ルモ施策ノ重點ハ國民政府ヲシテ帝國綜合戦力ノ強化ニ必要ナル諸施策ニ協力セシムルコトノミニ注カレ居リ換言スレハ日支附屬議定書第一條第一項「戰爭行為遂行ニ伴フ特殊事態ノ存在」ノミニ重點ヲ置キ第二項「特殊事態ノ調整」ヲ疎ニシ居ルハ遺憾千萬ニテ此ノ四箇月間ニ於ケル支那事變處理要綱ノ實績ヨリ見ルモ寧ろ國民政府ノ政治力ノ浸透即チ我方占據地域内ニ於ケル民心ノ把握ニ依ル新政府ノ育成強化ヲ圖ルコトニ重點ヲ置クコトカ却ツテ我方ノ目的タル帝國綜合

戦力ノ強化ニ支那側ヲ協力セシムル所以ナルヘク今後ノ遣方トシテハ先ツ國民政府ノ育成ヲ圖リ其ノ自然的結果トシテ我方ニ對スル協力ノ效果増大ヲ狙フ方カ賢明ナリ本日御相談ヲ願フ爲ニ持參セル「對支緊急施策要綱」(案)ハ右趣旨ニテ起案セルモノニシテ是ハ別ニ支那事變處理要綱ニ反對セントスルモノニ非ス又新ナル方針ヲ決定セントスルモノニモ非ス要ハ支那事變處理要綱ノ讀ミ方及取扱方ヲ國民政府育成強化ニ重點ヲ置イテ實行セントスルモノナリ、尤モ自分トシテハ現地出先官憲ニ對シ本案ヲ重カラシムル爲閣議決定更ニ進ンテハ大本營連絡會議決定ト致度積リニテ尙又右緊急施策要綱サヘ決定スレハ之ニ依リ自ラ汪精衛ニ對スル應對要領モ決定スルノミナラス右要綱ノ要領ニ規定シアルコトハ大体渡日ノ際汪精衛ヨリ申出アルヘキ事項ヲ網羅シ居ルモノト考ヘ居レリト別紙「對支緊急對策要綱」ヲ讀上ケ之カ字句ニ付詳細一時間ニ亘リ説明ヲ加ヘタリ

### 三、陸軍側ノ意見

陸軍省主務者ハ別紙「對支緊急施策要綱」(案)ニ對シ左ノ意見ヲ述ヘタリ

緊急施策要綱中ニ記載セラレ居ル方針ニ關シテハ勿論異存ナシ但外務省案中ニハ帝國綜合國力ノ彈撥性ノ強化ヲ圖ル爲云々ト注意シアルモ末尾ニハ育成強化ニ向ツテ集中ストアリ如何ニモ此ノ點ノミニ重點ヲ置カレ居ル様ニモ受取ラルルヲ以テ育成強化以外ニ帝國綜合力ノ強化ヲ圖ル意味ヲモ謳ハルレハ更ニ好都合ナリ。

次ニ要領ニ關シテモ軍ニ於テハ現ニ右ノ如キ考方ヲ以テ實行ニ當リ居リ唯事變繼續中ノ特殊事態ノ爲不充<sub>テ</sub>分目的ヲ達シ得サル次第ナルモ趣旨ニ於テハ異存ナシ、尤モ要領

(一)「支那側ノ自主的處理ノ範圍ヲ廣ク認メ」ヨトノコトナルカ此ノ點モ結構ナルカ如何ナル部門ニ於テ如何ナル程度ニ於テ之ヲ認メントスルモノナリヤ充分支那側ノ意向ヲ聽取致度ク出來得ルモノハ成ルヘク支那側ノ要望ニ應シ差支ナシ

(二)ノ第二項「物資流通ニ對スル現行制限ノ緩和」ニ關シテハ軍トシテハ重慶政權ニ對シ武力及經濟凡ユル方面ヨリ壓迫ヲ加フルコトヲ必要ト考ヘ居リ從ツテ重慶側ニ物資ノ流入スルコトハ依然希望セサルモ占領地域内

ニ於テハ民心把握ノ爲出來得ル限り制限ヲ合理化セントスル意向ニテ善處シ居レリ尤モ出先軍ノ末梢部分ニハ中央ノ意圖充分徹底セス支那側ニ種々不便ヲ與ヘ居ル點モアル可キヲ以テ最近總軍第四課ニ於テハ課長ヲ始メ參謀ヲ各地ニ派遣シ實狀調査中ニシテ近ク開催セラル可キ參謀長會議ニ於テ右調査ノ結果モ判明ス可キカ末梢部分ニ於テハ詰マランコトニテ支那側ニ不便ヲ與ヘ居ルカ如キ點モ多々有ル模様ニ付右様ノ點ニ付テハ調査ノ結果判明次第之ヲ是正スルニ咨カナラス。

(三)ノ軍票價值維持ノ點モ素ヨリ軍ノ希望スル所ニシテ從來ヨリ軍票金庫等ニ關シ種々意見出テタルカ軍トシテハ單ニ政府ニ於テ積極的措置ヲ執ルト云フノミニテハ不満足ニシテ軍票ノ値下リ等ニ依リ軍力損失ヲ蒙リタル場合ニハ政府ニ於テ責任ヲ以テ補償シテ呉レルトノ見透カハツキ<sub>、</sub>付カサル限り政府ニ任セ切レサル譯ナリ。軍トシテハ一日モ此ノ問題ヲ早く政府ニ移シテ安ンシテ一任シ得ルカ如キ機構ノ出來ンコトヲ希望シ居ル次第ナリ

(四)ノ國民政府ノ保持ス可キ兵力ニ關シテハ軍ニ於テハ別

ニ妨害ヲ爲シ居ル次第ニ非ス尤モ空軍ニ關シテハ從來  
重慶側ヨリ飛行機ニテ逃ケ來レル者ハ大体旅費稼キヲ  
目的トシ再ヒ逃ケテ歸ルト云フ實狀ナルヲ以テ空軍ノ  
充實ニハ警戒ヲ加ヘ居レリ

(五)ノ軍管理工場等ノ返還ニ關シテハ總軍ニ於テハ漸進主義ニ依リ話合着キタルモノヨリ一ツ一ツ返還スルノ方針ニテ、又北支ニ於テハ宣傳上ノ效果ヲモ狙ヒ近ク一括シテ大規模ニ返還スルコトトナリ居リ軍トシテハ出來得ル限り特殊事態ノ調整整備ヲ促進實行スル考ナリ之ヲ要スルニ外務省案ニ記載セラレ居ル所ハ何レモ支那事變處理要綱ノ考方ト其ノ軌ヲ一ニシ居リ軍中央部ニ於テハ出來得ル限り右ノ「ライン」ニテ實行方苦慮シ居ル次第ナルヲ以テ方針要領共別ニ異存ナシ。但之ヲ更メテ正式ノ閣議決定又ハ大本營聯絡會議決定トナスハ實施期間僅ニ四箇月ノ支那事變處理要綱カ如何ニモ最初ノ企圖ノ如ク實行セラレ居ラストノ印象ヲ外部ニ與フルコトトモナリ又新決定ヲ爲スコト自体カ却ツテ出先軍側ヲ刺戟シ面白カラスト考フ。仍ツテ對支政策ノ變更ト解セラルルカ如キ新決定トナスコトニハ反

對ナリ。尙太田課長ハ大本營決定トスルニ非サレハ現  
地軍ニ於テ言フコトヲ聞カストノ意味ヲ言ハレタルカ  
右ハ心外ニシテ陸軍大臣ノ了承セルコトニ關シテハ陸  
軍省ハ責任ヲ以テ現地軍ヲ抑ヘル心算ナリ。陸軍側ノ  
考方ハ敍上ノ通ニテ卒直ニ申上クレハ外務案ニ記載サ  
レアルカ如キ事柄ハ何レモ本多大使ニ於テ總軍ト十分  
懇談サルレハ出先限りニテ相當程度解決ノ出來ルコト  
ニシテ態々大使及主席ノ上京ヲ煩ハス程ノコトニ非ス  
ト思考ス。何レニセヨ陸軍トシテハ汪精衛ノ渡日ヲ阻  
止スルコトハ今日ノ情勢ヨリ見テ出來サルヘク汪渡日  
ノ上ハ儀禮ノ點ハ拔キニシ先ツ汪ト關係大臣トカ膝ヲ  
交ヘテ懇談シ先方ノ言フコトヲ充分聽取シテヤルコト  
カ必要ニテ其ノ際本外務省案ノ方針及要領ノ趣旨ニテ  
各大臣カ應酬セラルルコトニ關シテハ何等異存ナシ

#### 四、興亞院側ノ意向

興亞院側ノ意向ハ大要左ノ通り  
外務案ノ趣旨ハ結構ナルモ但之ヲ實行ニ移ス場合ニハ今  
少シク詳細ナルコトヲ決定シ置クノ要アルヘク又本多大  
使來信ハ汪精衛ノ言フコトノミヲ採上ケ居ル處日本側ト

シテモ種々汪ニ對シ言ヒ度キコトアリ此點ニ關スル本多大使ノ應酬振判明セス。外務案ノ趣旨ニ依ツテ應酬スル場合假令汪精衛ハ日本側ノ立場ヲ善ク諒解スルトシテモ汪精衛歸國後部下ニ對シ汪精衛ノ申入レタルコトニ關シ日本側ハ何テモ彼テモ諒承セリトノ誤解ヲ與フルカ如キコトアリテハ今後ノ對支施策上面白カラサルニ付例ヘハ(1)如何ナル部面ニ付テ如何ナル程度ノ自主的處理ノ權能ヲ欲スルヤ(2)物資流入ニ對スル現行制限ハ如何ナル點ニ於テ特ニ支那側ニ苦痛ヲ與ヘ居ルヤ(3)軍票ノ價值維持ニ付キ政府ニ於テ如何ナル積極的措置ヲ具體的ニ執ルヘキヤ(4)特殊事態ノ調整整備ト云フモ支那側ハ特ニ如何ナル事項ノ調整整備ヲ希望シ居ルヤ等詳細汪精衛ノ意向ヲ承知致シ度シ。本多大使來信ニ依レハ「楮テ汪精衛氏渡日ノ上下ナ問題ヲ持出スカニ付テハ本使ニ於テ大体見當カ付キ居レリ」トアル處右具體的内容ヲ承知致シ度シ(海軍側ハ外務案ニ對シ異存ナシ)

五、事務當局ニ於ケル本案ノ取扱振

最後ニ太田ヨリ只今陸軍省主任者ノ御話ニ依レハ支那事變處理要綱ノ讀ミ方ハ外務省起草ノ本案ノ趣旨ト全然同

一ニシテ軍ニ於テモ其通り實行シ居リ又今後モ其通り實行スル考ナリトノコトヲ聽キ極メテ心強ク感セリ。本案ヲ新ナル決定ト爲スコトニ付テハ異存アルカ如キヲ以テ本外務案ハ差當リ「汪精衛渡日決定ノ場合、汪ヨリ國民政府育成ニ關スル帝國政府ノ根本方針ニ關シ質問アリタル場合總理及外務大臣等ニ於テ帝國政府ノ意圖ハ此通りナリト應酬スル爲ノ粹トシテ取扱フコトトシテハ如何」ト諮レルニ關係省トモ異存ナカリキ。仍ツテ次回(五月七日)會議ニ於テハ右趣旨ニテ本案ヲ取扱ヒ若シ字句ノ修正等ヲ要スル點アラハ互ニ研究ノ結果ヲ持寄ルコトニ打合セタリ。尙ホ興亞院側ノ希望タル詳細ナル應待要領ヲ決定スルコトニ關シテハ右國民政府ノ育成強化ニ關スル根本方針サヘ決定スレハ後ハ上司ニ於テ可然ク取計ハルヘク、詳細ノコトヲ上司ニ連絡シ置クモ實際應對ニ當ルヘキ汪精衛及總理大臣等ハ具體的ノコトハ承知セサルヘク又論議モセサルヘキヲ以テ其ノ必要ナカルヘシト存スルモ支那側ニ對スル今後ノ誤解ヲ防止スル意味合ニテ別ニ右根本方針ノ枠内ニ於テ詳細具體的ノ應對要領ヲ書面ニ認メ置クコトハ異存ナシト述ヘ置ケリ

六、本案今後ノ取扱方ニ關スル事務當局ノ希望

本案審議ノ情況ハ敍上ノ通ニシテ事務當局トシテハ汪精衛來朝ヲ機トシ此ノ際日蘇中立條約成立後ニ於ケル國際情勢ヲモ考慮ニ容レ、支那事變處理促進ノ見地ヨリ何トカシテ明確ニ對支政策ノ轉換ヲ決定シ置カント努力シ居ルモ本問題ハ結局客年十一月十三日支那事變處理要綱決定ノ際詳細上司ニ御報告申上ケ置キタル通り處理要綱ノ作文ノ點カ問題トナルニ非シテ起草者ノ意圖シ居ル氣持及要綱實施者ノ氣分ノ持方カ最モ問題トナル次第ニシテ客年十一月十三日御前會議ノ際モ外務大臣ヨリ汪政權ヲ傀儡政權トセサル様十分念ヲ押シ置カレタル經緯ハアルモ前記三ノ如ク軍ヨリ「處理要綱ノ精神ハ外務案ト同シモノナリ」ト云ハルレハ夫迄ノコトナリ從ツテ今日ノ處對支緊急處理要綱(案)ヲ其ノ儘正式ノ閣議決定又ハ大本營連絡會議決定トナスコトハ遺憾乍ラ機未タ熟セサル感アルモ本案討議ノ經緯ハ敍上ノ通りナルヲ以テ事務當局ニ依ル本案ノ折衝ト併行シテ、外務大臣ヨリ本案ノ趣旨(体裁及字句ハ情勢ニ依リ適宜修正セラレ度)ヲ總理及陸海、大藏大臣等ニ説明セラレ右ヲ五相會議諒解トセラル

ルト共ニ更ニ進ンテハ政府大本營連絡會議ノ席上參謀總長及軍令部長ニモ説明セラレ政府及統帥部連絡會議諒承ノ意味合ニテ關係者ノ花押ヲ得ラルル様御盡力相成度サスレハ尠クトモ軍ヨリ對支政策ノ根本方針ニ關スル解釋ニ關シ一本取付ケ置ク意味ニ於テ今後事務當局ノ施策上極メテ好都合ナリト存ス

(別紙)

對支緊急施策要綱(案)

昭和十六、四、二八、亞一

第一方 針

日支新條約締結後ニ於ケル國民政府ノ狀況竝ニ最近國際情勢下ニ於ケル重慶政權ノ動向ニ鑑ミ究極ニ於ケル日支全面和平ノ招來ヲ企圖シ且世界情勢ノ逼迫急轉ニ對處スル帝國綜合國力ノ彈撥性ノ鞏化ヲ圖ル爲昭和十五年十一月十三日決定「支那事變處理要綱」ニ準據シ支那ニ對スル當面緊急ノ政治的施策ノ重點ヲ主トシテ局部和平ノ完成即チ占領地域內民心把握ニ依ル新政權ノ育成強化ニ向ツテ集中ス

第三、要領

- (一) 南京政府及華北政務委員會等支那側ノ自主的活動ノ範圍ヲ廣ク認メ其ノ傘下ニ民衆ニ對シ指導性アル有爲ノ人材ヲ結集シテ其ノ政治力ヲ高メシメ之ヲシテ治下民心ノ把握ニ專念セシムルコト
- (二) 右政治目標ハ主トシテ新政府側ニ對シ治下民生ノ安定ニ關スル經濟施策ニ付廣汎ナル自主的處理ノ權能ヲ認ムルコトニ依リ達成セシムルコト
- 占領地内ニ於ケル物資流通ニ對スル現行制限(但シ武器、彈藥、ガソリン等特殊品ニ關スルモノヲ除ク)ヲ緩和スルト共ニ非占領地域ヨリノ物資吸引ヲ可能ナラシムル如ク所要ノ措置ヲ執ルコト
- 我力軍需及物動物資ノ調辨ニ付テハ出來得ル限り支那側諸機關ヲ利用スルコト
- (三) 軍票ノ價值維持ニ付テハ政府ニ於テ積極的措置ヲ執ルコト
- (四) 新中央政府ニ於テ國土守護ニ必要ナル十分ノ兵力ヲ維持シ得ル様我方ヨリ積極的ノ支援ヲ與フルコト
- (五) 軍管理工場ノ返還、合辦會社ノ調整、南京其ノ他ニ於

ケル占據家屋ノ明渡等特殊事態ノ調整整理ヲ積極的ニ促進實行スルコト

(六) 支那側諸機關ニ對スル我方ノ指導振ヲ根本的ニ改善スルコト

356

昭和16年5月9日

在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

對重慶工作のよ<sup>う</sup>な南京政府育成上有害な行動は慎むよう井上興亜院連絡部次長に本多大使から注意喚起について

上海 5月9日後発

本省 5月9日後着

第七六九號(機密、館長符號扱、外信)

本多大使ヨリ

往電第七六八號<sup>編註</sup>末段井上聯絡部次長(現在長官代理)招致ノ機會ニ於テ左ノ通り同官ニ申聞ケ置キタリ右ハ南京出發前畑司令官ニモ豫メ内話濟ナリ御含迄

聯絡部首腦者トシテ政治外交上ニ關聯スル何等カノ施策考案ヲ思ヒ付カルコトアル場合ニハ總テ大使ト相談セラル

ル様希望ス又大使館員トシテノ貴官ニ對シテハ例ヘハ所謂重慶工作ノ如キ行動ハ他ノ館員ニ對スルト同様一切之ヲ禁止スルモノト心得ラレ度支那派遣軍總司令部ハ所謂重慶工作ノ如キ國民政府育成上竝ニ治安維持上有害ノ行動ハ軍ノ占據地域ニ於テ治安維持ノ立場ヨリ要スレハ之ヲ彈壓スル方針ニテ其ノ旨中央ニ電報シタルコトハ既ニ御承知ト存ス冒頭往電ト共ニ北京南總(外信)ニ轉電セリ

編注 本書第597文書。

357 昭和16年5月19日 在中國日高臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

對重慶工作に關する日本政府の対応方針を注  
兆銘に説明について

南京 5月19日後発  
本省 5月19日夜着

第三二二號(極秘、館長符號扱)  
貴電第一六五號ニ關シ(重慶工作ニ關スル件)  
日高ヨリ

十八日午後二時半本官汪主席ヲ往訪シ御訓令ノ次第ヲ申入レタル處主席ハ大イニ安堵ノ色ヲ示シ將來共對重慶工作ニ付テハ双方腹藏ナク打開ケテ協力致スヘク閣下竝ニ本多大使ニ感謝ノ意ヲ傳ヘラレタキ旨述ヘタリ

358 昭和16年5月23日

南京政府の育成強化に關する外務省方針案

國民政府強化ニ關スル緊急施策ノ件

(昭一六、五、二三 亞一)

一、國民政府ノ育成強化案ヲ繞ル興亞院其ノ他關係方面ノ空氣ニ關シテハ「對支緊急施策要綱」ノ決定ニ關スル件(昭一六、五、五、亞一)ヲ以テ詳細御報告申上置キタル處此ノ際中央ニ於テ事務的ニ育成強化ノ具体案ヲ論議スル時ハ各種ノ派生問題ニ付意外ノ紛糾ヲ來タス惧アリ問題ノ急速解決ヲ計ル所以ニ非スト認メラルルニ就テハ下記二ノ趣旨ニ依リ先ツ一般方針ヲ定メ置キ之カ具体化ハ現地機關ニ一任スルノ方針ニテ進ムコトト致度シ

三、就テハ最近ノ政府及統帥部連絡會議ニ於テ大臣ヨリ「國

民政府ヲ育成強化シテ名實共ニ支那ノ中央政府タラシムルコトコソ事變處理ノ要諦ナルコトハ客年十一月十三日御前會議ノ際ニモ本大臣ヨリ申述ハ置キタル所ニシテ支那事變處理要綱ノ精神モ亦茲ニ存スル次第ナリ今般本多大使歸朝セラレ國民政府強化ニ關スル一般方針ヲ關係ノ向ニ説明セラレタルニ何レモ御賛成ナリシ由承知シ居ル處別紙「國民政府強化ニ關スル緊急施策ノ件」ハ右一般方針及支那側ノ希望竝ニ現地關係機關ノ意向等ヲ斟酌シ既定ノ方針ノ範圍内ニ於テ此ノ際速ニ實行ニ移シ差支ナシト認メラルルモノヲ記載シタルモノニシテ從來ノ方針ト何等異ナル所ナク又之ニ依リ形式張りタル新決定ヲナサントスルモノニモ非ス只現地ニ於ケル事務ノ處理上豫メ各位ノ御諒承ヲ得置クコト好都合ト存シ書面ニ認メ來レル次第ナリ」トノ趣旨ヲ可然ク御説明願ヒ連絡會議ノ諒承ヲ經タル意味合ニテ別紙ニ總理、陸、海相及參謀總長、軍令部總長(特ニ統帥部ノ諒承ヲ希望シ居レリ)等ノ花押ヲ取付ケテ頂クニ於テハ今後ノ處理上極メテ好都合ナリト存ス

三、尙其ノ際大臣ヨリ口頭ヲ以テ「別紙ハ主トシテ現地機關

ニ於テ取扱フヘキ問題ヲ記載シタルモノナルカ國民政府強化ノ爲ニハ中央トシテモ(1)軍票價值維持工作ノ大任ヲ總軍經理部ニノミ任セ置カス政府ノ責任ニ於テ積極的措置ヲ講スルコト肝要ニテ又(2)國民政府ノ財政強化ニ資シ治安ノ確立ヲ計ル爲ニハ支那側ノ希望ニ應ジ軍器借款等ノコトヲ考慮シ遣ルコト必要ト認ムル處右(2)ノ點ニ關シテハ何レ汪主席ヨリ何等申出アルヘシト存セラルルニ就テハ(1)ノ點ト共ニ政府トシテ出來得ル限り之ニ好意的考慮ヲ加フル様致度」旨ヲ附言シ置カレ度シ

(別紙)

國民政府強化ニ關スル緊急施策ノ件

一、日支新條約締結後ニ於ケル國民政府ノ狀況竝ニ最近國際情勢下ニ於ケル重慶政權ノ動向ニ鑑ミ究極ニ於ケル日支全面和平ノ招來ヲ企圖シ且世界情勢ノ逼迫急轉ニ對處スル帝國綜合國力ノ彈撥性ノ鞏化ヲ圖ル爲昭和十五年十一月十三日決定「支那事變處理要綱」ニ準據シ支那ニ對スル當面緊急ノ政治的施策ノ重點ヲ主トシテ局部和平ノ完成即チ占領地域内民心把握ニ依ル國民政府ノ育成強化ニ



向ツテ集中ス

二、右目的達成ノ爲日支協力ノ下ニ差當リ左記各項ノ急速具現ヲ計ルコトトシ之カ具体的方法ハ現ニ進捗シツツアル方向ニ於テ我方出先機關ノ施策ニ一任ス

(一) 占領地内ニ於ケル物資流通ニ對スル現行制限ヲ緩和スルト共ニ物資ノ敵地流出ニ對シテハ日支協力シテ合理的管理ヲ實行スルコト

(二) 各級地方政府ノ人事異動等ニ關スル國民政府ノ自主的權能ヲ出來得ル限り廣ク認メ以テ國民政府ノ各級地方政府ニ對スル統馭力ヲ強化セシムルコト

(三) 日支間既存ノ約定ニ基キ武漢及華北方面等ニ對スル國民政府ノ權威ヲ強化セシムルコト

(四) 軍管理工場ノ返還、合辦會社ノ調整、占據家屋ノ明渡等特殊事態ノ調整整理ヲ積極的ニ促進實行スルコト

(五) 日支兩國間ノ協力關係ヲ促進シ國民政府ノ財政強化ニ資スル爲支那側ノ課稅ニシテ合理的ナルモノニ對シテハ出來得ル限り之ヲ承認乃至默認スルコト

359

昭和16年5月24日

在中国日高臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

スチュワートを通じて米国の和平斡旋説に關する独国側との意見交換について

南京 5月24日後發

本省 5月24日夜着

第三三七號

二十三日獨逸總領事中村參事官ヲ來訪シ日本カ重慶トノ間ノ和平ニ付「スチュワード」ヲ介シテ米國ノ斡旋ヲ求メツツアリトノ說傳ヘラレ居ル處其ノ眞否ヲ質シ且本多大使カ歸朝ニ際シテモ新聞記者ニ對シテ種々國民政府ノ育成強化ニ關シテ忌憚ナキ意見ヲ發表セラレ居ル處右ハ中央ト出先トノ間ニ意見ノ<sup>行</sup>枘格テモアル様ニ思ハレルカ如何ト質問シタルニ付中村ヨリ米國ノ斡旋ヲ求メタル事實ナク大使ハ「スチュワード」ニ面會シタルコトモナク又「スチュワード」ニ何等ノ興味スラ持チ居ラス種々新聞記者ニ語ラレタルハ御説ノ如キ流言モ耳ニ入り居ルニ付新聞記者ノ求メニ應ジテ帝國ノ既定ノ根本方針ヲ開陳セラレタルモノニテ何等新方針ヲ發表セラレタル次第ニ非ス從テ政策ノ轉換ト言

フコトハ當ラサルハ勿論意見ノ<sup>(桿)</sup>枘格等ノコト絶對ニナシト然ルヘク説明シ置キタリ

尙獨逸ノ承認問題ニ關シテハ彼ノ方ヨリ過般松岡外相訪獨ノ際ニモ承認問題ハ大臣ヨリ進ンテ討議スルヲ好マレサリシ如ク仄聞スルカ如何ナル話アリタルヤ承知致度ク元來承認問題ハ寧ロ日本側ノ意嚮ニテ獨逸ハ動クモノト自分ハ了解シ居ル次第ナリ重慶ハ親英ノ郭泰祺ヲ外相ニ据エ歸國ノ途次華府ヲ訪問シ米國トノ關係ヲモ益々緊密化ヲ計リ英米依存ノ風潮ハ今後トモ増大スルニ反シテ南京政府ニ於テハ日獨伊ノ樞軸ニ對シテ充分理解ヲ有シ居ルモノト思ハルルニ付國民政府ヲ承認スル政治上ノ條件ハ備ハツテ居ル様ニ思考ス唯獨逸ハ承認ニ對シテハ國民政府力支那ニ於テ獨逸人ヲ日本人ト同様ノ取扱ヲ爲スコトヲ期待スルモノニシテ實ハ重慶政府ノ時代ニ治外法權ヲ拋棄シ居ル爲ニ種々不當ナル待遇ヲ受ケ苦杯ヲ舐メタル經驗アリ又目下通商上ニ於テモ相當制限ヲ受ケテ居ルヲ以テ之等ノ點ニ付國民政府ノ態度ヲ承知シ度ク又既ニ消滅シタルモノト思考シ居ル「ポーランド」其ノ他ノ獨逸ノ併合セラレタル諸國トノ外交關係ヲ設定セサルコトノ二點ヲ重要視シ居ルモノナリト述ヘ

タリ

尙總領事ノ往訪ハ政府ノ訓令ニ基クモノノ如ク觀取セラレタリ

上海、北大へ轉電セリ

360 昭和16年6月2日

在広東高津(富雄)総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

余漢謀および李品仙への懐柔工作につき報告

広 東 6月2日後発  
本 省 6月2日夜着

第一九一號(館長符號扱)

往電第一四六號ニ關シ

澳門ニ於テ中山縣縣長趙鼎華ヲ通シテ余漢謀及李品仙懐柔工作ニ當リ居ル山縣ハ昨一日次ノ如ク本官ニ語レリ(同人二日當地發上京)

一、余漢謀工作ハ余カ態々韶關ヨリ派遣セル機要秘書張家順及余ノ兄弟分ト稱スル在香港呂次眉(趙縣長トモ昵懇)トノ間ニ折衝中ナルカ余ヨリ日本側代表テ韶關迄派遣方竝ニ部下懐柔費トシテ差當リ大洋十萬元提供方要求シ來リ

在上海

總領事 堀内 干城

外務大臣 松岡 洋右殿

「ステイール」ノ重慶方面事情ニ關スル歸來談

報告ノ件

過般四ヶ月ニ亘リ新嘉坡、蘭印、「バンコック」、蘭貢、昆明、重慶方面ヲ視察此程歸來セル市俄古「デーリー」、ニュース」當地特派員「A. T. Steele」ノ當館情報部員ニ内話セル要旨左ノ通り

一、國內問題

余ハ蔣政權カ重慶ニ移リテヨリ半年毎ニ重慶ヲ訪問セルカ蔣介石其他要人ハ今日モ依然抗戰意識ニ燃エ居ル反面最近ノ國際情勢ノ激變ニ依ル或程度ノ不安氣分カ觀取セラレタルカ最近國內問題ニテ相當頭ヲ悩マシ居ルトコロ軍事政治問題ハ三割位ニテ最モ深刻ナルハ財政、經濟問題ナルカ如シ奧地ニ於ケル昨年度農產物收穫ハ例年ノ六割半ニシテ食料不足モ訴ヘ居レルカ本年度ノ農產收穫ハ大體良好ト豫想セラレ居レリ

一、蔣介石ノ信望

三、敍上余漢謀及李品仙工作共未タ兩人ノ眞意明確ナラス折衝意ノ如クナラサルモ無理押シ趙ヲ中山縣長ニ据エタル手前モアリ銳意工作中ナリ

南大、上海、香港へ轉電セリ

361 昭和16年6月2日 在上海堀内總領事より  
松岡外務大臣宛

重慶方面などを視察した米国人記者ステイールの内話情報報告

機密第一四七一號

(接受日不明)

昭和十六年六月二日

蔣介石ノ信望ハ絶対的ナルモノアリ言ハハ蔣ハ一身ニ全國民ノ視注ヲ集メ居ルカ如キ状態ニシテ若シ其ノ生命ニ異常アレハ蔣政權ハ直チニ潰滅スト稱スモ誇張ナラス宋美齡ノ地位及勢力等ニ付テハ新聞ハ大袈裟ニ報道シ居レルモ其ノ政治、軍事的勢力ハ全然無シ

#### 一、外人顧問

曾テノ蔣介石顧問タリシ濠洲人「ドナルド」ハ約半ヶ年前ヨリ敬遠セラレ現在ハ「サモア」島ニ在リト云ハル蘇聯軍事顧問ハ相當數アリ獨逸人技術員數名ハ反「ナチ」黨員ト目サレ居ルニ拘ラス今尙獨本國ト連絡ヲ保チツツアル模様ナリ米國人顧問ハ主トシテ技術員殊ニ道路建設關係者多ク最近飛行機賣込ト共ニ右技術員ノ數漸次増加シツツアリ又演繹道路建設監督局ノ總監督ハ在支永年ニ亘ル支那事情精通者タル JOHN EARL BAKER ナルカ同道路建設及輸送事業ニ關聯シ支那ニ於テ不可避的存在ノ不正「スクイズ」ニハ惱マサレ居ル模様ニテ東京朝日ノ言フカ如ク重慶政府カ眞ノ米國ノ傀儡ナルニ於テハ「不正取引」ノ禍根ハ除去シ得ヘキ筈ナリ在重慶外交團中蔣ノ最大ノ相談役ハ米國大使ニシテ之ニ次キ人氣アル

ハ蘇聯及英大使ナランモ兩者ニ對シテハ重慶側ト警戒ヲ怠ラサルノミナラス英大使ニハ大シテ信ヲ措キ居ラス

#### 一、借款問題

從來英米ノ對支借款ノ使途ニ付テハ兎角ノ噂アリタル所ナルカ「カリー」特使ノ使命ノ一ハ之カ探查ニアリタルモノノ如ク「ゴース」新大使モ此點ニ付キ如才ナク監督ヲ怠ラサルヘシト觀ラル從テ前大使程ノ「ポプユラリテイ」ハ無シ大使更迭ノ事情ノ一端モ此ノ邊ニ在ルニ非スヤト思考セラル

#### 一、日本軍ノ今次作戦ニ對スル支那側觀測

支那側ニテハ日本軍ノ今次春季攻勢ハ西北諸省ノ支那軍要衝迄進出スルモノト不安ヲ以テ觀測セラレ居タルカ當地ニ歸來シテ作戰終了ノ旨ノ日本軍「スポークスマン」ノ發表ニ依リ重慶側ハ安堵シ居ルヘシ

#### 一、防空施設

重慶ノ防空設備ハ最近全ク完備シ優ニ三十萬名ノ收容能力アリ主要官廳ノ通路ハ地下道ニテ又目下自動車用「トンネル」ヲ造ルヘク計畫中ナリト云ハル日本軍ノ空爆ハ要人市民ニ大ナル恐怖ヲ與ヘ居ルハ事實ナルモ今日ノ如

ク完全ナル防空設備アルニ於テハ陸軍ニ依リ當地ヲ占領スル以外ニハ重慶政府ヲ潰滅スルハ至難ニシテ又斯ル場合ニモ政府ハ更ニ奧地ニ遷都シテ抗戰ヲ繼續スヘシ

一、兵器製造問題

輕兵器、彈藥ノ製造工廠ハ重慶ヲ中心ニ二十數ヶ所アリ其ノ貯藏武器ハ十分ニシテ設備、技術、製造能力共優秀ナルモ唯問題ハ原料ヲ如何ニシテ補給スルヤニアリ

一、援蔣「ルート」問題

滇緬道路ノ「メコン」「サルウイン」河ノ補助橋ハ既ニ第四番目ノモノカ建造中ナルカ更ニ五十「ガロン」入空罐ヲ竝ヘ浮橋ヲ造リ上ケ其ノ輸送能力ハ大シテ變化ナカルヘシ尙日本軍ノ爆撃ニ對スル修繕器材人夫ハ至ル處待機シ居レリ

一、和平問題

最近和平カ宣傳セラレタルカ蔣其他要人ニシテ和平ヲ口ニスルモノナク和平氣分ハ全然見ラレス特ニ日本ノ汪政權承認後日支和平ハ絶望視サレ居レリ

右報告申進ス

本信寫送付先 在北京參事官 天津 漢口

在支大使 在滿大使 香港

362 昭和16年6月16日 在中国日高臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

汪兆銘を通じて日本軍が李済深に示した帰順条件について

南京 6月16日後発  
本省 6月16日夜着

第三九九號(極秘、館長符號扱)

東亞局長へ中村參事官ヨリ

過般御内報シ置キタル李済深ノ使者來訪ノ件ハ其ノ後進捗シ李乃超(假名ナルカ如シ)ヨリ汪主席出發前ニ總司令官又ハ總參謀長ヨリ李ニ對シ書面ヲ與ヘラレタキ旨希望シタルモ我方ヨリ直接一札ヲ與フル筋ニモアラサルニ付結局總參謀長ヨリ汪主席ニ對シ  
一、責任アル代表ヲ派遣スルコト  
二、停戰成立後ハ日本軍ハ廣西軍ノ許諾無クシテ其ノ駐屯區域ニ進入セサルコト  
三、停戰成立ノ上ハ廣西軍ヲ友軍ト看做スヘシ

トノ三項ヲ認メタル書面ヲ與ヘ汪ヨリ之ヲ李濟深ノ使者ニ傳フルコトトナリタル趣ナリ

尙汪ハ以上ノ經緯ヲ上海ニ於テ島田長官ニ内話セリ前信補足ノ爲電報ス



363

昭和16年6月23日

在中國中村臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ開戦により重慶政権は援助国の一つを  
失つたとの見解を南京政府へ披瀝について

南京 6月23日後発

本省 6月23日夜着

第四一五號(至急)

二十三日國民政府宣傳部長代理ヨリ獨蘇開戦ニ關シ新聞竝ニ輿論指導方針ヲ問合セ來タレルニ付此ノ際慎重ニ取扱フ要アルモ不取敢本戦争ニ依リ重慶ハ完全ニ援蔣國ノ一ヲ失ヒタル次第ナレハ日本及國民政府側ニ於テハ既定ノ方針ニ依リ斷然重慶ニ重壓ヲ加ヘ事變處理ニ邁進スヘク結局獨蘇開戦ハ全面和平ノ實現ニハ都合好クナレル次第ヲ指導ノ目標トスヘキ旨指示シ置キタリ

就テハ本件ニ關スル支那新聞指導方針至急御垂示相煩度シ在支各總領事ニ轉電セリ

廣東ヨリ香港ヘ轉報アリタシ



364

昭和16年6月24日

在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

重慶政権が緊急會議を開催し独ソ開戦への対  
応を協議したとの諜報報告

上海 6月24日後発

本省 6月24日夜着

第一〇七六號

HQニ據レハ二十二日夜重慶最高國防委員會ハ緊急會議ヲ招集シ獨蘇開戦ト對重慶關係ニ關シ種々意見ヲ交換セルカ一部ニハ國際情勢ノ激變ニ失望シ日支和平ノ再檢討ヲ主張スルモノアリ議論百出一時騷然タルモノアリシカ結局獨蘇戦今後ノ發展ト英米側ノ態度ヲ見極メタル上善處スルコトニ大體意見一致シタルモノノ如ク政府當局ハ英米大使館側ト密接ナル接觸ヲ保チ速ニ之カ善後策ヲ講スルコトトナリタル由(情乙)

尙重慶電ニ依レハ重慶側ハ英蘇協定成立説ト日本今後ノ出方如何ヲ重視シ居レルカ二十三日中央日報ハ蘇聯邦ニ同情シ蘇聯ノ必勝ヲ豫想シ大公報ハ日本ノ對蘇進攻開始セラレヘシトテ蘇聯ノ注意ヲ喚起シ居ル趣ナルカ上海正言報ハ英米蘇支四國ノ理想的合作ヲ期待スルモノ日本ハ孤立無援ノ今日樞軸ヲ見捨テテ對英米綏靖政策ヲ敢行スルヤモ測ラレス若シ英米カ其ノ術中ニ陥ラハ支那ニ取り最モ不幸ト成ルヘキニ付吾人ハ此ノ種策動ヲ嚴重監視ノ要アル旨力説セリ  
北大、天津、南大、漢口、滿、香港へ轉電セリ

365 昭和16年6月30日

在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ開戦が国共対立の緩和をもたらしたとの

UP電報告

上海 6月30日後発  
本省 6月30日夜着

第一一二〇號

二十九日重慶發「ユーピー」電ニ依レハ獨蘇開戦英米ノ對蘇援助及日本ノ對蘇協定價值ニ對スル懷疑等ハ國共衝突ノ

重要因素ヲ解消セルモノノ如ク現ニ大公報ハ最近十八集團軍カ山西ニ於テ中央軍ト合作セリトノ正式報告ニ接シ喜ヒニ堪エスト論シ又周恩來ハ二十三日中共機關紙上ニ過去四年來抗戰ノ中心ハ孫文ノ三民主義ニシテ中共モ之カ中心ヲ擁護シ且勝利ノ要素タル國民黨内部ノ進歩及發展ヲ承認シ之ニ贊意ヲ表スルモノナルカ中共カ國民黨ニ反對スルハ僅ニ其ノ内ノ反共分子ニ過キストテ中共ノ國民黨打倒計畫説ヲ否認スル等其ノ態度ヲ緩和セル論文ヲ發表シ更ニ二十九日新華日報紙上ニテ日本ハ對蘇攻撃ニ出ツル可能性多シトテ全國ニ對シ對日總反抗ニ轉スル事ヲ要請シ現在東京方面ニテ之カ決定ヲ澁リ居ル所以ハ(一)北進セハ對支事變解決不能ニ陥リ(二)西比利亞資源ハ蘭印ノ夫レニ及ハス(三)北進即決ニ成功セサレハ日本ハ冬季戰ノ苦境ニ陥リ(四)英米ノ對日攻撃ヲ誘發スル惧アルニ依ル旨力説セル趣ナリ  
南大、漢口、北大、天津、香港、滿へ轉電セリ

366 昭和16年6月30日

在漢口田中(彦威)総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ戦の事変に及ぼす影響に関する各方面の

観測報告

第二一六號

漢口 6月30日後発  
本省 6月30日夜着

獨蘇開戦ニ關スル當地各方面ノ動向左ノ通り<sup>1)</sup>

一、支那側輿論ヲ綜合スルニ官界ニ於テハ本開戦ニ依リ重慶政府ハ蘇聯ヨリ援助ヲ受ケルコト事實上不可能トナリ事  
件解決ヲ促進セシムヘシトノ樂觀説行ハレ居ルモ一般商  
工界ハ之ヲ樞軸側ニ對スル大打撃ナリトシテ獨ハ一時  
ニハ相當ノ戰果ヲ收メ得ヘキモ蘇ヲ屈服セシムルコト不  
可能ニシテ結局長期戦トナリ三國側ニ取リ不利ナル形勢  
ヲ生シ日獨關係モ重大ナル變化ヲ來タスヘク日蘇條約モ  
終ニ其ノ意義ヲ喪失セリ今後日本ハ米蘇兩方面ヨリ同時  
ニ壓迫セラルルコトトナリ事變處理モ愈困難トナルヘシ  
日本ハ東亞自主ノ立場ヨリ從來ノ行懸ヲ清算シ米國ヲ動  
カシ事變ヲ先ツ解決シ將來ニ備フル外ナルカヘシトノ悲  
觀的觀測ヲ爲ス者多ク日本ノ態度ニ多大ノ關心ヲ示シ居  
レリ

二、獨伊側ハ表面冷靜ナル態度ヲ示シ何等批判ヲ避ケ居ルモ

伊國領事「ブリジデイ」ハ三國同盟及日蘇關係ハ頗ル困  
難ナル問題トナリタリト洩ラシ又米國領事官補ハ獨蘇開  
戦ニ依リ日米關係直ニ惡化スルコトナカルヘキモ三國同  
盟ニ基因スル開戦ノ危機ハ増大セリト語レリ  
三、當地日華紙及英文楚報ハ各「ニュース」ヲ掲載スルノミ  
ニテ批判ヲ差控ヘ居レリ  
南大、上海、北大、天津ヘ轉電セリ

367 昭和16年7月5日

在太原田中(正)総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

閻錫山が帰順条件の細目提示について

太原 7月5日後発  
本省 7月6日前着

第六四號(至急、極秘、館長符號扱)  
往電第五八號ニ關シ

三日午前劉吉甫來原閻ノ條件トシテ左ノ通り申出テタリ  
一、防共合作蔣介石打倒ヲ根本條件トス  
三、山西票價維持ノ爲五千萬圓ノ「クレジット」設定  
三、山西軍(現在兵力六、七萬)ノ實力(差當リ三十萬ヲ目途



トス)ノ爲小銃十萬挺、輕機二、三千挺、大砲三百門支給

四、右ニ依リ實力ヲ増強シ直ニ反共討蔣ノ宣言ヲ發シ各地將領ヲ糾合シテ目的達成ニ邁進ス尙一面蔣ニ對シ全面和平ヲ勸告ス

此ノ附帶條件トシテ

(イ)山西西北實業公司ノ復活

(ロ)閩ヲ華北國防總司令官南京政府軍事委員長ニ任命

(ハ)將來毎年軍費二千萬圓武器十萬挺大砲二百門ヲ南京政府

ヨリ閩ニ交付

(ニ)將來華北民衆ノ救濟費トシテ南京ヨリ一億圓支給

等ノ希望ヲ申出テタル由

右ニ對シ田中兵務局長ハ今回ノ工作ハ事變處理ノ最上唯一ノ手段ニシテ種々苦心ノ結果之迄ニ漕付ケタル次第ニ付此ノ際大乘の二本件ヲ處理シ得ル様至急閣議決定方ヲ要望シ居リ又當地軍司令官モ全面的ニ贊成シテ本五日軍ヨリ陸軍省ニ右次第ヲ電報シタル由ナルカ局長ハ特ニ外務省ノ全面的支持ヲ切望シ居ルニ付細部ハ陸軍省ヨリ御聽取ノ上至急閣議ニ附議決定ノ上何分ノ儀嚴究後御電訓相成様御配慮相

成度

尙局長ハ御電訓ヲ待ツテ一應内地ニ歸還シ本件今後ノ接衝ハ現地軍ニ於テ進ムル豫定ナリ

368 昭和16年7月6日

在太原田中総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

閻錫山の帰順には李濟深など各方面で共鳴者  
が出る見込みとの田中兵務局長内話について

太原 7月6日後発  
本省 7月6日夜着

第六五號(極祕、館長符號扱)

往電第六四號ニ關シ

田中局長ノ内話ニ依レハ劉吉甫來原ノ際閻錫山ノ親書ヲ同局長ニ寄セ居リ又閩ノ母堂及夫人ハ過般密ニ成都ヲ拔ケ出シ鄉里陝西省三原ニ到着近ク濮縣ニ來ル事トナリ居レリ尙閩ノ防共合作打倒蔣介石ノ「スローガン」ニハ李濟深ヲ始メ四川、湖南、湖北、東北ノ雜軍ハ共鳴シ一致ノ行動ヲ執ル事ニ默契成リ居ルトノ事參考迄

369

昭和16年7月9日

在太原田中総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

閻錫山の帰順条件細目を軍側は全面応諾する

見込みについて

太原 7月9日後発

本省 7月10日後着

第六八號(極秘、館長符號扱)

往電第六四號ニ關シ

劉吉甫ハ閻ノ機密秘書ニシテ現ニ總司令部機要處長ノ要職ニ在リ當分當地ニ滞在ノ豫定尙當地軍及北支方面軍ハ先方ノ條件ヲ鵜呑ミニシテ本件ヲ一氣呵成ニ進捗セシメ度キ意嚮ニテ南京總軍參謀副長モ九日北京ニ來リ出先軍トシテノ方針ヲ決定スルコトト成リ居ル趣ナリ田中局長ハ中央部ノ意見ヲ至急取纏メノ爲十一日當地發空路東京ニ赴ク筈

370

昭和16年7月14日

在北京土田大使館參事官より  
松岡外務大臣宛(電報)

閻錫山帰順工作の進展振りに関する大林組社

員の内話報告

北京 7月14日後発  
本省 7月14日夜着

第四五五號(館長符號扱、部外極秘)

往電第二九〇號ニ關シ(對閻工作ノ件)

田中局長ト共ニ五月三十日當地發七月十一日迄太原ニ滞在シ本件工作ニ從事セル林ノ歸來内報スル所左ノ通り  
一、趙承綬病氣(奎扶斯)ノ爲其ノ代トシテ閻ノ腹心劉吉甫來原シ田中局長ト種々折衝ノ結果(イ)山西軍事委員ノ手ニ依リ山西ノ治安恢復ヲ計ルコト(往電第二五九號御參照)(ロ)山西軍ヲ三十萬ニ増強シ日本側ヨリ南京政府ヲ通シ軍費及武器彈藥ヲ支給ス(ハ)以上ニ項決定ノ上日本側トノ間ニ停戰協定ヲ締結ス(ニ)停戰協定成立ト同時ニ閻錫山ノ名ヲ以テ防共及東亞新秩序建設協力ニ關スル通電ヲ發スルト共ニ重慶離脱ヲ聲明シ同志ノ參加ヲ勸説ストノ四條件ノ下ニ歸順スルコトニ交渉纏リ交通不便ノ關係モアリ約三週間後ニ太原ニ於テ協定ニ調印スルコトナリ田中局長ハ中央ニ報告ノ爲明十五日東上ノ豫定ナルカ右調印ニハ山西側ハ趙承綬或ハ王靖國日本側ハ田邊北支軍參謀長或ハ岩松第一軍司令官之ニ當ルコトトナリ居レリ

二、尙閩側ヨリハ(イ)山西票發行額約三千萬元ニ對スル「クレジット」設定(ロ)閩錫山所有ノ西北實業公司(軍管理)ノ返還及(ハ)晋北十三縣ノ山西省復歸ヲ申出テタルニ對シ田中局長ヨリ(イ)及(ロ)ハ問題ナカルヘキモ(ハ)ハ蒙疆政府トノ關係モアリ實現困難ナル旨申聞ケタルニ先方ハ之ヲ諒承セリ

三、閩錫山ハ目下西安ニ在ル山西軍武器工場ノ山西移轉及四川方面ニ在ル家族呼寄方手配中ニテ又陝西、山東方面ニ人ヲ派シ新規募兵ノ準備ヲ進メツツアリ又太原方面ニハ于學忠其ノ他各將領ノ代表潛入シ居リ閩側ノ手ニテ交渉成功ノ上ハ之ニ共應シタシト申出テ居リ外部ニモ種々取沙汰セラレ居レリ又重慶側トノ關係モアリ田中劉協議ノ上正式發表迄外部ニ對シテハ今次交渉ハ決裂セリト宣傳スルコトニ打合セタリ

南總、上海ニ轉電セリ

香港ニ轉電アリタシ

371 昭和16年7月15日

在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ開戦後における重慶政権の対米態度など  
に関する情報報告

上海 7月15日発  
本省 7月16日着

郵第八號

獨蘇戰ヲ繞ル重慶側ノ動向竝ニ蘇聯ノ對支態度ニ關スル十一日J Kノ内報要旨左ノ通り

一、豫テA B C同盟ヲ強調シ殊ニ獨蘇開戦以來ハ英米蘇支軍事同盟ノ結成ニ依ル米側ノ實力援助ヲ期待シ居タル重慶當局ハ今日ニ至ルモ米側ノ援助力過般ノ借款及少數ノ飛行機ノ供給以外何等積極化セサルニ對シテハ痛ク失望シ居レリ蓋シ重慶側トシテハ獨蘇開戦ノ結果獨逸ノ大西洋方面ノ脅威一時緩和セラルヘキヲ以テ米國ハ自由ニ日本ノ南進北進何レニ對シテモ重壓ヲ加ハヘ得ヘク自然蔣介石ノ理想トスル反抗妙理ノ實現モ難カラズ假令一步ヲ讓ルモ米國ニシテ此ノ機ヲ逸セス日支戰ノ調停ニ當リ吳レルナラハ重慶側トシテハ必スヤ公平且有利ナル和平ヲ贏チ得ヘシトノ思惑ヲ有シ居タルニ不拘却テ昨今米國ハ依然對日妥協ヲ希望シ直接日本ニ壓力ヲ加フルヲ欲セスト

ノ消息モアリ米國ノ援蔣政策ノ目的モ期スル所僅カニ蔣ニ對シ若干ノ援助ヲ爲シツツ其ノ對日抗戰ヲ持續スルコトニ依リ日本ノ太平洋ニ於ケル自由行動ヲ阻止セシメン

トノ利己的魂膽ニ出ツルモノナルコトヲ痛感スルノ餘儀ナキニ立至リタレハナリ

二、蔣ノ目下最モ恐ルル所ハ日米妥協成立シ日本軍カ佛印及「タイ」ヨリ緬甸ニ進出滇緬公路ヲ武力遮斷スルニ至ラシコトナリ其ノ際米國ハ單獨ニ對日戰爭ヲ開始シ得サルヘク他方蘇聯亦對獨戰ニ援支ノ餘裕ナク旁々一切ノ外國ヨリノ援助中斷セラルル惧アレハナリ素ヨリ蔣ニ於テハ日米妥協可能ノ程度ト今後ノ發展如何ニ付テハ充分ノ見透ナキカ如キモ蔣カ七月六日ノ友邦ニ告クルノ書ニ於テ「若シ日本ノ萬一ノ反省ヲ期待シ對日態度ヲ緩和スルカ如キコトアラハ各友邦ハ歐洲ノ獨逸ニ於ケル覆轍ヲ踏ムヘシ云々」ト述ヘ暗ニ米國ノ注意ヲ喚起シ又顧維鈞ヲシテ七月七日倫敦ニ於テ米國ノ對日有和態度ニ警告的言辭ヲ爲サシメタル如キ何レモ其ノ危惧ノ現レニ他ナラス

三、同時ニ蔣ハ日本カ北進南進何レヲ爲スニセヨ其ノ兵力ノ分散ニ依リ支那ハ失地回復ノ好期ヲ得ヘシト之ヲ歡迎シ

居レルカ他面日本カ獨蘇戰ニ乘シ兵力ヲ重慶打倒ニ集中センコトヲ恐レ居リ此ノ見地ヨリモ日米妥協ノ空氣ヲモ睨ミ居レリ

四、此ノ種蔣ノ對米危惧心理ノ増大ハ蘇聯ノ挑發ニ依ルコト鮮シトセス即チ第三國際ハ「ヘス」ノ英國行後英國共產黨ヲシテ宣言ヲ發表シ獨側ニ對英媾和及共同反蘇ノ意アルヲ指摘セシメ又周恩來ヲシテ新華日報ニ日米間ニ極東「ミュンヘン」協定成立ノ可能性アルコト西歐ニ於テ共同反蘇ノ隱謀進行シツツアリトノ談話ヲ發表(特調班作製「日蘇協定後ニ於ケル重慶政權ノ動向」末段參照)セシメタルカ右ハ何レモ其ノ一例ナリ尤モ蔣ニ於テハ當初之等宣傳ヲ重視セサリシモ獨蘇開戰後ノ米國ノ對蘇態度カ英國ノ夫レニ比シ兎角煮切ラサルノ事實ニ鑑ミ漸次疑惑ヲ持ツニ至リタルカ如ク最近モ邵力子駐蘇大使ニ對シ米蘇關係改善ノ可能性ノ有無ニ付電照セシメタルニ對シ邵ヨリ蘇聯外務人民委員次長「ロゾフスキー」ノ「蘇聯ハ米國ヲ信賴シ居ラス米國ハ支那ヲ犠牲ニスルコトヲ交換條件ニ日本ヲシテ蘇聯ヲ攻撃セシメント考ヘ居レリ從テ日本軍ノ滇緬公路切斷ノ時ハ直ニ米國ノ援支停止セラ

ルル時ナリ日本ハ北進ヲ欲シ居ルモ右ハ獨ノ對蘇勝利決定的トナル時期ニシテ同時ニ支那事變ノ徹底的解決ノ後ナルヘシ」トノ趣旨ノ内話返電アリタル趣ナルカ偶々之ト前後シテ日米談判說傳ヘラレ益々邵ノ對米疑惑ヲ深メ遂ニ前項ノ如キ蔣及顧ノ對米警告トナリタル次第ナリ

五、而シテ蘇聯カ如斯重慶ニ對シ挑發態度ヲ取り居ル眞意ハ日本ノ北進ヲ恐ルル爲ナルハ勿論ナルカ同時ニ「帝國主義者ハ共同シテ蘇聯ニ對抗シ彼等自身ニ內在スル矛盾解決ノ一方法タラシムルコトアルヘシ」トノ理論ニ基キ假令獨ノ反蘇戰爭カ事前ニ於テ英米トノ了解ナカリシトスルモ其ノ發展ノ前途ニ於テ戰爭カ膠着狀態ニ陥ル時又ハ蘇聯敗戦ノ際ニ於テ米國側ヨリ歐洲問題解決ノ爲ニ蘇聯ノ分割ヲ提議スル可能性アリ又最低限度日本ノ南進ヲ阻止スル爲對日讓歩ヲナシ進シテ對蘇攻撃ヲ煽動スル惧モアリ旁々重慶側カ英米ニ利用セラレサル様トノ用意ニ出ツルモノト認メラル

南(大)、北(大)へ暗送セリ

372 昭和16年7月17日 在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

重慶政權は対日和平に應じる意圖なしとの郭

泰祺の談話報道について

上海 7月17日後発  
本省 7月17日夜着

第一二七九號

十六日重慶發UP電ハ郭<sup>泰祺</sup>泰ノ談トシテ左ノ通り報シ居リ

獨逸ト重慶トハ外交關係斷絶直前再ヒ獨カ日支和平交渉ノ調停ヲ申込メリトノ報アレトモ余ハ何等知ル處無シ日支事變ハ世界戰爭ノ一部ナルヲ以テ大戰終了後全國際和平問題ノ一部トシテ解決セラルヘク假令米國ノ調停ト雖支那ハ和平交渉ニ應スル意圖無シ

米國カ日本向ケ石油ノ輸出禁止ヲ逡巡シ居ルハ同國ノ緩和政策ニ依ルモノナルモ斯ル懷柔策ハ最後ニ却テ仇トナルヘシ

南京、北京へ轉電セリ

373

昭和16年7月17日  
在中國日高臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

近衛内閣総辞職および内閣改造に関する汪兆

銘への説明振り報告

南京 7月17日後発

本省 7月22日前着

第四八六號

日高公使十七日本多大使出發延期ノ報ヲ齊ラシ汪主席ヲ往  
訪シ今回ノ近衛内閣總辭職ノ政府ノ聲明ヲ引用シ説明シ現  
地軍當局ニ於テモ之ニ依リ何等不安動搖ヲ見サルノミナラ  
ス寧口今後益々施策ヲ進メ居ルモノト期待シ居ル狀況ナリ  
ト述ヘタルニ汪主席ハ今回ノ總辭職ハ飛躍的國策ヲ展開ス  
ル爲ノ準備ナルヘシト言ヘルニ付日高公使ハ必シモ具體的  
ニ何事カヲ引起ス準備ニハ非サルヘク時勢ニ即應センカ爲  
ノ國內ノ體制ヲ整備強化スルト謂フニ在ルヘシト答ヘ置キ  
タリ然ルニ主席ハ依然歐洲方面ニ近ク貴國カ軍事行動展開  
セラルルニ非サヤト此ノ方面ノ形勢ニ多大ノ關心ヲ有シ居  
ル様見受ケラレタリ  
北大、上海へ轉電セリ

374

昭和16年7月20日  
在中國日高臨時代理大使より  
豊田(貞次郎)外務大臣宛(電報)

内閣改造を説明した近衛総理の汪兆銘宛メッ

セージ手交について

別電 昭和十六年七月二十日發在中國日高臨時代理

大使より豊田外務大臣宛第四九五号

右メッセージに対する汪返信

付記一 昭和十六年七月二十二日發豊田外務大臣より

在中國本多大使宛電報第三〇四号

右メッセージ交換の公表について

二 昭和十六年七月二十二日發豊田外務大臣より

在中國本多大使宛電報第三〇五号

右公表用の汪宛近衛メッセージ

南京 7月20日後発

本省 7月20日夜着

第四九四號(大至急)

貴電第三〇二號ニ關シ(汪主席ニ對スル近衛首相「メッセ

ージ)

二十日日高公使汪主席ヲ往訪シ首相ノ「メッセージ」(「パ

ラフレーズ」セルモノヲ手交シ且貴電合第一五六〇號ノ趣旨ニ依リ帝國政府ノ外交方針竝ニ政策ノ不變ナル次第ヲ然ルヘク説明シタルニ汪主席ハ之ヲ謝シ別電第四九五號ヲ首相ニ傳達方依頼セリ然ルヘク御取計相成度シ  
尙汪主席ハ本件往復文ヲ發表シタキ(差支アラハ大體ノ趣旨ニテモ)希望ナルニ付何分ノ儀折返シ御回示ヲ請フ

(別電)

南京 7月20日後発

本省 7月21日前着

第四九五號(大至急)

昨閣下再膺大命會由楮大使轉上賀電想承鑒及頃由日高公使轉來惠電備悉閣下之偉抱至爲欣慰貴我兩國基於不動之方針共同努力以蕪實現和平奠安東亞閣下前此已深植其基礎上月把晤契合尤深鄙人獲與閣下提携共進由於互相信賴之熱性鄙人之自信力亦隨以增進決當悉力從事以違(二語不明)謹之致謝竝祝貴國々運隆昌及祝閣下之健康

(付記一)

第三〇四號(大至急)

本省 7月22日後2時12分発

貴電第四九四號後段ニ關シ

往復全文發表方可然シト認メ當方ニ於テハ二十三日午前十一時發表スルコトトセルニ付貴方ニ於テモ同様御措置アリ度但シ近衛首相ノ「メツセージ」ニ付テハ貴方ニ於テ「ラフレーズ」セラレタル關係モアリ別電第三〇五號ニ依ルコトトセリ

(付記二)

本省 7月22日後2時45分発

第三〇五號

今次ノ政變ハ我國內體制ノ急速ナル整備強化ヲ斷行シ以テ世界ノ情勢ニ對處シ國策ノ遂行ヲ活潑ナラシメンカ爲行ハレタルモノニシテ之カ爲内閣ノ構成ニ一大刷新ヲ加ヘタル次第ハ帝國政府ノ發表等ニ依リ御承知ノ通りナリ素ヨリ帝國ノ對外國策ニハ何等ノ變化無ク又貴國ニ對スル既定ノ政策竝貴主席閣下過般御訪日ニ依リ鞏化セラレタル兩國ノ緊密關係ハ微動タモセサル次第ニ付右御諒承ノ上今後益々勇

奮東亞安定ノ爲邁進セラレンコトヲ祈念シテ止マス閣下トノ盟約ニ基キ本大臣ニ於テモ一段ノ努力ヲ以テ兩國提携貴國國運ノ隆昌ニ協力セントスルモノナルコトヲ特ニ附言ス

375

昭和16年8月19日

在中國日高臨時代理大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

重慶から脱出した伊国代理大使の重慶近況に  
関する内話報告

南京 8月19日後発  
本省 8月19日夜着

第五八五號

過般重慶ヲ脱出シ目下上海ニテ靜養中ノ「スピネリ」伊太利代理大使ハ密カニ來寧十八日日高公使ヲ來訪シ重慶事情ニ付内話セル所其ノ要點左ノ通り(同人ハ後宮總參長トモ會談セリ)

一、重慶爆撃ハ實效割合ニ薄ク之ノミニ依リ人心ノ頽廢ヲ期スルハ難シキ様見受ケラレタリ「ビルマルト」ノ爆撃及香港重慶間飛行聯絡ヲ遮斷スル方效果大ナルヘシ(或ハ「ス」ハ之ニ依リ日本ト第三國トノ紛争ヲ期待シ居ル

ニ非スヤトモ思ハレタリ)

二、重慶外交團中米大使館ハ益々増強セラレ陸海空軍關係者ヲ加ヘ二〇名餘在勤ス英大使ハ北岸ニ居住セシモ本國政府ヨリノ訓令アリタルモノノ如ク南岸ノ「マリシクラブ」ニ引移リタリ蘇聯邦大使ハ矢張り北岸ニアリ但シ外交團員ハ何レモ不愉快ナル重慶生活ヲ嫌惡シ内心離任ヲ希望シ居ル者多數ナリ

三、重慶物價ハ頗ル昂騰シ苦力等ハ生活ニ困難シ居ルモ金サエ出セハ適當ノ品ハ入手シ得

四、支那側トハ張群ト最モ聯絡シ居リタルカ三國「バクト」成立後ハ其ノ態度寧ロ一層慙懃トナリタルモ内實他人行儀トナリタルハ否ムヘカラス歸國ニ際シテハ彭學沛カ主トシテ斡旋シタルカ同人ハ汪脱出ノ件モアリスル際ニモ頗ル用心シ居リタル模様ナリ

五、脱出ニ際シ桂林柳州間ハ汽車便ヲ利用シタルカ其ノ運輸ハ廣九線ノ車輛ヲ利用シ可成整ヒ居リタリ同鐵道ハ目下柳州ヨリ河池迄通シ居ルカ目下貴陽迄ノ延長線ヲ銳意建設中尙桂林ハ新家屋建築セラレ爆撃ノ跡ハ殆ト見受ケラレサリキ



尙「ス」ノ希望モアリ本電内容利用ニ當リ同人ノ名ヲ應用  
スルコトハ嚴ニ差控ヘラレタシ

北大、上海、廣東、香港、河内へ轉電セリ

376 昭和16年8月30日 在マカオ福井(保光)領事代理より  
豊田外務大臣宛

孔祥熙や孫科に通じると思われる筋からの和  
平打診に関する情報報告

機密第一〇〇號 (9月9日接受)

昭和十六年八月三十日

在「マカオ」

領事代理 福井 保光(印)

外務大臣 豊田 貞次郎殿

重慶側ノ和平策動ニ關スル件

謀者(秘名)ヨリノ連絡ニ依レハ香港ニ在ル鄭洪年ハ今般重  
慶側ヨリ表面個人ノ資格ヲ以テ日本側ニ接觸シ所謂土地不  
割讓トカ不要求賠償ノ如キ曖昧ナル條件ヨリモ華北ニ於ケ  
ル經濟合作ノ具体辯法、希望スル割讓地域、及撤兵ノ範圍、  
時期、方法等ニ關シ日本側ノ有スル忌憚ナキ意見ヲ聽取ス

ル様委囑サレタル趣ナリ

右ニ關シ本官ヨリ別ニ意見ヲ述ヘサリシヲ以テ目下當地ニ  
在ル萱野長知氏ニ連絡スルモノト推察サレ萱野氏カ本件ヲ  
如何取扱フヤ不明ナルカ鄭ハ現在孔祥熙ノ駐香代表ノ如キ  
地位ニ在リ過般孫科來香ノ節葉恭綽ト三人鼎坐會談セル經  
緯アル外鄭ト親交アル本官十年來ノ知己香港重慶側大學教  
授カ特ニ本件ニ關スル聞込ミハナキモ依然政治ニ執着アル  
鄭ノコトナレハ孫科ノ來香ト關連セシメ必スシモ否定シ得  
スト述ヘ居タルニ徴シ一應監視ヲ要スルモノト思料サル  
右何等御參考迄報告申進ス

本信送附先 南大、北京、上海、廣東、香港

377 昭和16年9月3日 在中国本多大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

近衛総理の対米メッセージをめぐる日米交渉  
の先行きに関する中国紙報道振り報告

南京 9月3日後発  
本省 9月3日夜着

第六一三號

内閣情報局公表ノ「近衛メツセイジ」ヲ繞ル日米ノ動靜ニ付テハ當方面新聞何レモ大々的ニ取扱ヒ居レルカ南京政府側諸紙ハ概ス同盟ノ記事ヲ掲クル程度ナルモ上海外字紙及敵性華字紙ハ「ユーピー」「ロイター」等ノ外電ヲ特記シ米國ノ立場強硬ニテ經濟的ニ無力ナル日本ハ日米會談ヲ左右スル力無シトカ(二六日正言報)中國ハ民主國家ト合作シ此際對日協同攻勢ヲ強化スヘシトカ(二八日中美日報)乃至ハ平和的解決ハ日本カ其ノ政策ヲ大轉換セサル限り求メ難ク對英米戰ハ日本ヲ破滅ニ導クノミトノ「ウツドヘツド」論說(二〇日上海「イーヴニングポスト」)等ヲ掲ケ(詳細上海ヨリ通報濟ノ筈)外國筋電報ト相俟チテ本會談ヲ種ニ對日包圍陣ノ強大日本ノ經濟的無力ヲ強調シ又日本國內陣營分裂ヲ示唆シ重慶側ノ氣勢ヲ昂ムル様工作シツツアル傾向顯著ナリ

在支各總領事、滿大へ轉電セリ

編注 『日本外交文書 日米交渉——一九四一年——』上巻第163文書別電一。

378

昭和16年9月4日

在香港矢野總領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

重慶政権が日米交渉の妥結を憂慮し事変解決は米国の実質的援助に依頼するほかないと米  
國側へ強調したとの情報報告

香港 9月4日後発  
本省 9月4日夜着

第四四五號(館長符號抜)

重慶ハ米ノ援助カ一ニ米自身ノ利害關係ニ立脚シ進行セラ  
ルル爲抗戰強化ニハ未タ實質的效果ヲ齎サス反抗體制ノ再  
建ノ如キ確タル自信ヲ持テサル有様ニシテ米ノ遣口ニハ絶  
エス不安ニ驅ラレ居ル狀況ナルカ今回ノ日米會談ニ對シテ  
モ其ノ成行ハ獨(蘇)戰局ノ展開如何ニ依リ決セラルヘシト  
ノ觀測ヲ下シ居ルトハ言ヘ頗ル警戒的ニシテ胡大使ニ對シ  
テ和平問題論議サルル場合「ロ」ノ八原則ニ依ルヘキ旨訓  
電セル趣ニシテ本件ニ關スル情報左ノ通り

一、客月二十二日外交次長傅秉常發孫科宛電報ニ依レハ客月  
下旬外交部ハ日本カ南進ノ停止乃至ハ米ノ對蘇援助承認  
ヲ條件ニ日支戰爭ノ解決ニ米ノ斡旋ヲ求メタルニ對シ米

ハ對日戰爭ヲ欲セス日本ニ満足ヲ與フル惧アリ之カ成功ハ重慶ニ不利多シトノ確報ニ接シタルカ米ノ援助ハ代表團ノ重慶派遣問題ノ如ク對日威壓ヲ間接目的トシ不安多キニ鑑ミ郭泰祺ハ二十一日蔣ト協議ノ結果不取敢胡大使宛ニ極東問題ノ徹底的解決ハ一二米ノ實質的積極援助ニ依ルノ外期待シ得スト米當局ニ強調方訓電セル趣ナリ尙郭ハ日本ハ樞軸關係ヲ保持シ乍ラ機會ヲ待ツモノト見ラルルカ日米妥協ハ極メテ可能性多ク右ハ一二獨蘇戰局ノ進展如何ニ懸ルヘシ一面米蘇間ニハ未タ具體的連繫成リ居ラサルモ蘇ハ日米決裂ト共ニ兩面作戰ノ擔當差支ナシト米ニ申入居レハ日本カ對米關係ノ好轉ヲ急クモ當然ナリト評シ居レリ

三、二十四日陳銘樞ハ李濟深宛胡大使ヨリ米ハ自國ノ立場ヲ堅持シ居レハ日本ニ利用サルル惧ナシトノ入電アリ政學系ハ日米作戰ハ可能性ナク必スシモ重慶ニ有利ナラス又時局ノ延引モ軍事ノ進展ハ期シ難ク内部ノ危機ハ益々加ハル計リナリト稱シ日米ノ妥協ニ興奮シ促進ヲ圖ラントシ居リ日米會談カ直ニ成功スルモノト豫期スル譯ニハアラサルモ之カ準備ノ一工作トシテ日支關係ニ巨ル問題ニ

付豫メ重慶側ノ方針ヲ明瞭ニスル要アリト申出郭ト非公式ニ種々協議ヲ進メタルモ蔣ハ本月二日外交部ヲシテ米大使竝ニ胡大使ヲ通シ日米會談ニテ重慶側ノ事前承諾ヲ經サル事項決定サルルトモ束縛ヲ受ケサル旨米ニ申入レタル趣ナリ尤モ蔣モ前記ノ通り日支平和ハ八原則ニ基キ適當措置セラルルナラハ米ノ斡旋ニテ進行差支ヘナシトノ意嚮ハ要人等ニ對シテモ洩ラシタル由



379 昭和16年9月5日

在中国本多大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

### 日米交渉の先行きに関する南京側および重慶

#### 側の観測振り報告

南京 9月5日後発

本省 9月5日夜着

第六一九號

往電第六一三號ニ關シ

日米關係ノ緊張ニ對シテハ國民政府ニ於テモ關心ヲ拂ヒ其ノ推移ヲ觀察シツツアル處要人連一般ノ意見ヲ綜合スルニ米國自身對日一戰ノ肚ナシト認メ「チャーチル」ノ放送及

野村大使ノ活躍等ニ顧ミ日米間ニハ妥協ノ話合進行シ居ルモノト信シ戦争ノ勃發ヲ見ルニ到ラサルヘシト觀測スルモノ多ク從テ未タ一般ニハ深刻ニ之カ対策ヲ考究スルニ到ラサルヘク突詰テ言ヘハ内心米國ノ國力ヲ過信シ戦争勃發セハ日本モ敗北スルナキヲ保セス少クモ多大ノ打撃ヲ受クヘキコト必定ニシテ斯ナレハ日本モ國民政府ヲ顧ミル暇ナキニ到リ政府成立ノ根本ニ動搖ヲ來タスノミナラス管下ノ民衆モ如何ナル態度ニ豹變スルヤ計リ難ク治安ノ確保モ覺ルナキニ到ルヘシト杞憂ヲ抱キ從テ日米戦争回避ノ希望強シ尙重慶側ノ動向ニ付最近國府宣傳部ノ得タル確實ナル情報ニ依レハ重慶政府ニ於テハ日米關係緊張ニ鑑ミ之カ對策考究ノ爲最近數回ニ亘リ首腦部ノ祕密會議ヲ催シタルカ日米戦争促進ヲ可トスル者ト不利トスル者トノ二派ニ別レ遂ニ結論ニ到達セサリシ由ナリ右日米開戦ヲ不利トスル者ノ理由ハ一旦日米ノ開戦ヲ見ルニ到レハ米國ハ重慶ヲ顧ミル暇ナキニ到ルノミナラス物資援助ノ途モ杜絶シ重慶ハ非常ナル打撃ヲ受クルニ到ルヘク即チ日米開戦ハ重慶側ニ取リ不利ナリト言フニアリタル由ナリ斯ル情勢ナルヲ以テ最近重慶側カ日米危機說ヲ流布シ日米戦争ヲ使噉シツツアルカ如

キ感アルモ右ハ表面的ノ宣傳ニ過キス内心ハ寧ロビクビクモノナルカ如シ(此ノ項林柏生ノ清水書記官ニ對スル内話)北大、上海へ轉電セリ

380 昭和16年9月12日

在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

日米交渉の先行きに関する各方面の論調報告

上海 9月12日夜発  
本省 9月12日夜着

第一七〇一號

<sup>(1)</sup>日米會談ニ關スル新聞論調及外人方面ノ見解ヲ綜合スルニ大體ニ於テ會談ノ成功ヲ希望シ日米和解ハ日本自身及東亞全般ノ爲慶賀スヘキモノトナシ居ルモ反日的英字紙ハ和解ニハ贊成乍ラモ日本ハ窮迫ノ極ミ對米讓歩乃至樞軸離脱ノ餘議無キニ至ルヘキ旨ヲ宣傳シ獨伊側ハ各方面トモ沈黙ヲ守リ居レリ

會談ノ成行ニ關スル各方面ノ見解ハ會談内容ノ不明ナル爲未タ臆測ノ域ヲ出テサルモ大體左ノ通り

一、蘇聯側ハ一般ニ日米間ニハ早晚局面ノ轉換アルヘシト期

待シ居リ又蘇聯側消息通ハ確實ナル米國側「ソース」ニ依レハ和平交渉ノ基礎ハ既ニ成立シタルモノノ如シト語レル趣ナリ

三、英米側ハ樂觀悲觀相半ハシ居リ官邊及新聞通信者ノ一部ハ過早ニ樂觀的觀測ヲ漏スヲ慎ミ居リ日本ハ後退ニ難色アルニ依リ和解ノ出發點ヲ發見スルコト困難ナリト言ハリ十日當地發「ユーピー」ハ外交筋ノ情報トシテ會談ハ九日樞密院ノ同意ヲ得タルカ今週中ニ華府及東京ニ於テ基礎的の了解成立ノ旨發表セラルヘシト電報シ十二日「ノース、チャイナ、デイリー、メール」ハ會談ノ門戸ハ未タ鎖サレ居ラサル處日本ハ此ノ機會ヲ利用シ樞軸ヲ離脫スヘキナリト論シ居レリ

三、重慶側ハ會談ノ進展ニ異常ノ注意ヲ拂ヒ居ルコトハ抗日漢字紙力連日本件ニ關スル通信ヲ大キク取扱フト共ニ日米和解不可能ヲ宣傳シ居ル外八日重慶側「スポークスマン」ハ極東問題ノ解決ハ支那ノ同意無クシテ不可能ナリ日米會談ニ付テハ憂慮シ居ラスト語リ(拙信第二五一七號)又最近日本軍ノ南支中支撤退ヲ前提トスルハ和平條件(拙信第二四三四號)流布セラレ居ル事實等ニ徴スルモ

批判ニ難カラサル處右ノ外十一日正言報ハ日本ノ對米讓歩ハ利己的の遷延策ニ過キス支那國民ハ一意對日作戰ニ專念スヘシト論シ同日重慶發「ユーピー」ニ依レハ蔣介石ハ同記者トノ單獨會見ニ於テ支那ハ最後迄對日抗戰ヲ繼續スルノミナラス世界ニ正シキ平和回復スル迄犠牲ヲ惜マス其ノ間米國其他ノ盟邦カ對日經濟壓迫ヲ緩和セサルンコトヲ希望シ更ニ日本ハ滿洲事變以來協調ト威嚇トヲ巧ミニ使ヒ分ケ米支兩國トモ屢々欺瞞セラレタルヲ以テ米國ハ最早日本ノ手ニ乘セラレルコト無カルヘシ云々ト語レル趣ニテ米國牽制ニ努メツアル模様ナリ

南大、北大へ轉電セリ

381 昭和16年9月16日

在中国本多大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

### 李品仙帰順工作の進捗状況につき報告

南京 9月16日後発  
本省 9月16日後着

第六五七號(部外祕)

香港發本使宛電報

第一〇號

日高公使へ

李品仙ノ反蔣問題ニ關シ

一、自稱李ノ代表王彦。南ナル者曩ニ南京軍大久保中佐延原參謀及前中山縣長趙鼎華等ト聯絡ヲ取りテイヨリ一部資金トシテ三萬弗ノ交付ヲ受ケタルコトアリ其ノ後趙ノ暗殺大久保中佐ノ轉勤ニ依リ聯絡途絶エタル爲王ハ延原參謀ニ對シ今後ノ方針ノ指示方當館經由督促セル處同參謀ヨリハ一應手ヲ切ルコトトシ李カ今後通電ヲ發スルトカ其ノ他ノ方法ニテ誠意ヲ示スコトモナラハ援助ヲ與フルニ咨カナラス又本件ヲ南京トノ直接折衝ニ移スコト希望ナラハ紹介ノ勞ヲ執リ差支ナキ趣回答越セリ

二、王ハ右ト前後シ別ニ當地自由日報社長楊昔川ヲ通シ本官ニ對シ李ト打合セノ結果總軍及汪側ト直接折衝ヲ行ヒタク之カ爲李ノ妹婿ニシテ其ノ駐滬辦事處主任タル馮秀山ヲ赴寧セシムル旨申越シタリ馮ハ二日着香本官ヲ來訪シ李ハ何時ニテモ擧兵シ得ル準備ヲ整ヘ居リ重慶監視モ嚴重ニ付自分ハ短期間ニ折衝ヲ了ヘ速ニ歸還スル要アリ旁々楊ト共二四日當地發赴寧スヘク影佐少將ニ紹介アリ

タシト申出テタリ

三、楊ハ王ノ人物ニ付内査セル處十年前李ト關係アリシハ事實ナルモ現今李ノ代表ヲ務メ居ルヤ否ヤニ付テハ知ル者ナク且王ハ所謂周旋屋ニテ警戒ヲ要スル人物ニシテ豫テ當方調査セル結果トモ符合スルコト判明馮ノ身元モ知ル者ナク輕々馮ヲ同行セハ自身ノ信用ヲ傷クル惧アリトテ出發ヲ躊躇シ居レルカ馮及王ヨリハ馮自身南京ニ乘込ム點ヨリ推シ何等疑ノ餘地ナカルヘク同地ニハ誰カ身元ヲ保證シ得ル人物モ存在スヘシト稱シ楊ニ出發ヲ促シ居ル趣ニテ當方ノ意嚮ヲ質シ來レリ(唐生明ハ馮ノ知合ナルモ重慶側ニ通シ居リ危険ナレハ唐ニハ馮ノ南京行キヲ知ラシメサル様希望シ居ル由)

右様ノ經緯ニテ此ノ處馮ノ身元ニ付テハ確信ナキモ馮ハ四箇月前延原參謀ニ會見シタル事實アリ今回モ同參謀ヲ往訪スル豫定ノ由ニ付不取敢馮及楊(馮光及楊運ト假名ス)ヲ九日當地發廣東經由赴寧セシムルコトトシタルカ一行ハ影佐少將ヲ訪問スヘキニ付前記經緯ヲ豫メ同少將ニ御傳ヘ置キ請フ(汪側ニハ楊ヨリ右經緯内報ノ筈)

昭和16年9月16日

在中國本多大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

## 李品仙帰順に関する南京での交渉状況報告

南京 9月16日後発  
本省 9月16日後着

第六六六號(館長符號抜)

本使發香港宛電報

第一二號

貴電第一〇號ニ關シ

一、兩名ハ十三日來寧シ翌日總軍岡田參謀ト會見更ニ二十五日汪主席ニ謁シ李ノ軍隊ハ何時ニテモ和平參加ノ通電ヲ發シ得ル用意アル旨ヲ披露セリ

二、右ニ關シ主席ヨリ李品仙宛信書ヲ馮ニ託セルカ右信書ニ於テ和平參加ノ通電ヲ發出スレハ日本軍トノ局部的停戦ヲ成立セシメタル上先方申出ノ(イ)重慶側支給ノ軍費百八十六萬元ハ南京ヨリ支給スルコト(ロ)軍需品ヲ補充シ兵力ヲ増強セシムルコト(ハ)將來李ノ軍隊ヲ兩廣方面ニ移駐セシムルコトハ差支ナキコト等ヲ認メ李ノ蹶起ヲ促シ居レリ

三、兩名ハ十六日岡田參謀ト同道上海ニ赴キ至急歸香ノ豫定ナリ

廣東へ轉電セリ

本電冒頭貴電ト共ニ大臣へ轉電セリ

383 昭和16年9月16日

在北京土田大使館參事官より  
豊田外務大臣宛(電報)

## 日本軍と閻錫山の間に停戦協定調印について

北京 9月16日後発  
本省 9月16日夜着

第六一一號(館長符號抜)

往電第五九一號ニ關シ

十五日太原ヨリ歸來セル林ノ内報左ノ通り

一、北支軍田邊參謀長ハ八日シゲザワ參謀及第一軍築山參謀長、土田參謀帶同(林同行)汾陽ニ於テ先着ノ楚山西省長等ト共ニ閻代表趙承綬一行ト會見シタルカ西北實業公司、同蒲鐵道返還問題等ニ關シ趙ト閻トノ間ニ電報照會等ノコトアリ手間取りタル爲同日調印成立セス結局細目ニ付テハ將來成立スヘキ日支専門委員會ニ於テ處理セシムル

コトトシ十一日午前十一時兩者ノ間ニ停戦協定調印ヲ了セリ

二、閩側トシテハ將來兵力ヲ三〇萬或ハ五〇萬ニ増強(現在一七萬ト稱スルモ實兵力ハ五六萬ナルヘシ)シタキ希望ヲ有シ居ル模様ナルモ右ハ理想ニテ之カ實現ニハ相當年月ヲ要ス軍費其ノ他補給ニ關スル形式ヲ取ルコト貴電御來示ノ通りナリ

三、日本側ハ停戦協定調印ト同時ニ閩ノ重慶離脱、日支合作ニ關スル通電發出ヲ要求セルモ閩側トシテハ山西軍ノ山西省内各地移駐(日本軍ト工作スル様配置スル豫定)完了シ中央軍及八路军ニ對スル手當措置濟ノ上通電發出ノ段取トシタキ意見ナルニ付右ニハ尙數箇月ヲ要スル見込ナリ

四、山西軍ノ實力ハ精々清郷工作ニ當ラシムル程度ニテ軍事的ニハ左程重視スル要ナキモ閩ノ政治的勢力ヲ收容シタル點ニ價值アリテ閩ヲ通シ于學忠、傅作義ニモ働キ掛ケ得ル立場ニ立チ(引續キ此ノ種工作ニ着手ノ豫定ナリ)經濟的ニハ山西派金融閥ヲ通シ遠ク華僑ニモ呼掛ケ得ル次第ニテ事變處理上一轉換期ヲ劃スルモノト信ス云々

上海、南京へ轉電セリ  
香港へ轉報アリタシ

384 昭和16年9月19日  
在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

国共関係調整のため蘭州で会議開催の情報に

について

上海 9月19日後発  
本省 9月19日夜着

第一七四六號

往電第一七二一號ニ關シ

HQニ依レハ「ラチモア」ヲ始メ中共代表林祖涵、周恩來、葉劍英及重慶側代表張治中、胡宗南、馮玉祥十四日蘭州ニ參集國共會議開催セラレタル趣ナルカ中共側ヨリ國共關係調整ノ要ト團結強化ノ希望ヲ披瀝シタルニ對シ「ラ」ヨリ蔣モ中共ノ意見ヲ出來得ル限り取入ルル用意アル旨説明アリ十五日ヨリ中共提出ノ意見書(内容不明ナルカ鋭意探查中)ヲ中心ニ討議續行ノ由  
南大、北大、香港ニ轉電セリ



385

昭和16年9月26日

在中国本多大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

汪兆銘への説明のため日米交渉経緯につき内

示方請訓

南京 9月26日後発

本省 9月26日後着

第(脱)號(至急、館長符號扱)

今回ノ會議ニ參集ノ總領事及聯絡部長官等歡迎ノ爲汪主席  
主權ノ晚餐會席上主席ヨリ來ル三十日席ヲ北極閣上主席公  
館別館ニ設ケ緩々寛談ヲ得度シトノ招請ヲ受ケタルカ日米  
交渉問題ヲ當然先方ヨリ話題ニ上スヘキハ想像シ得ル所ニ  
有之應待上萬一ニモ政府ノ御迷惑トナルカ如キ過子無キ様  
本使ノ心得迄ニ本交渉ニ對スル政府ノ御方針竝ニ近衛「メ  
ツセージ」以來米國側トノ話合ノ内容等ニ關シ大體ノ要旨  
ナリトモ御内示相仰度シ大至急何分ノ御回電ヲ請フ  
尙先般汪主席滯京中近衛首相ヨリ主席ニ對シ「亞米利加ト  
ノ話ハ今尙中々進行セス今後ノ推移ニ付テハ隨時主席ニ通  
報シ打合セル事ト致シタシ」ト告ケ更ニ「米國ヲ通スル對  
蔣工作ニ異議ナキヤ」ト念ヲ押サレタルニ對シ汪主席ヨリ

「異議ナキ」旨ヲ答フルト共ニ「但シ和平ノ質カ變ラヌ様  
吳々モ注意サレタシ米國カ日支合作ニ依ル東亞ノ新秩序ヲ  
承認シ東亞ノ樞軸ヲ攪亂セサル前提ニ非サレハ不可ナリト  
信ス」ト述ヘ首相モ「同感ナリ」ト言明サレタル事ニモ有  
之(六月二十四日首相官邸會談要録參照)先方ヨリ話ヲ持出  
シタル場合本使ニ於テ一時逃レノ遁辭ヲ用ヒ得サル行掛リ  
ニアリ爲念ニ申添フ

編注 本電報は電報番号不明。

386

昭和16年9月26日

在中国本多大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

錢永銘を通じた南京政府の対重慶和平工作に

関する周仏海内話報告

付記 昭和十六年十月二日、東亜局作成

対日和平問題などに関する重慶政權近況

南京 9月26日後発

本省 9月26日夜着

第六七七號(極秘、館長符號扱)

二十五日周佛海ハ日高ニ對シ過日在香港錢。永銘。ニ對シ重慶側ニ於テハ米國ヨリノ壓迫ニ依リ對日和平ヲ強ヒラルル前ニ蔣介石側ヨリ進ンテ和平ヲ考フヘキ様工作方周ヨリ錢ニ申送リタルニ對シ十九日附錢ヨリ來翰アリタリトテ本文ヲ示シタル處錢ノ書翰ニ對スル蔣介石返信ニ依レハ全面和平ニ對シテハ未タ「善意的解釋」ヲ下ス能ハス何トナラハイ日本ニ誠意ナシ即チ一應重慶ト和平ヲ結ヒ南進若クハ北進シ國際的地位ヲ高メタル上再ヒ重慶ヲ攻撃スル底意アリ(ロ)日米妥結ハ結局不可能ト觀測セラル何トナレハ日本國內ニ於ケル意見一致セス荒木貞夫、鈴木貞一ノ如キ又中野正剛ノ如キ強硬意見ヲ述ヘ居ル者モアリ政變ヲ來ス惧アリ(ハ)獨蘇戰ノ見透ハ今冬前ニ莫斯科ハ陥落セサルヘク來年ニナレハ英米蘇ノ逆襲ニ依リ獨逸ハ弱リ從テ日本亦弱ルト見ラルルニ依リ其ノ時期迄待ツヲ得策トストノ考ナル趣ニテ尙錢ハ十月十二三日頃重慶ニ行キ今一度蔣ニ對シ勸告シタシト思ヒ居ル處同シコトヲ繰返シ述フルモ效ナカルヘキニ付何等カ新シキ事態若クハ論據アラハ知りタシト期待シアリ尙先般香港ニ赴キ最近歸滬セル周作民ノ談ニ依レハ米國側ニ於テモ胡適大使等ニ對シ日米間交渉ノ内容ニ付何等話シ

居ラス宋子文ハ最モ事情ニ通シ居ル地位ニ在ルモ之トテ極ク僅カヨリ知り居ラサルコト宋蔣間ノ電報往復等ニモ表ハレ居リ重慶トシテハヤキモキシ居ル實情ニテ先般重慶側ニ於テ米國ハ華中華南ノ日本軍撤兵ノミヲ求メ華北等ノ駐兵ヲ認ムトノ噂立チタル爲蔣介石ハ慌テ去ル九月十八日滿洲ヲ奪還スル迄云々トノ「ステートメント」ヲ發シタル次第ナル趣ナリ

#### (付記)

一、財政狀態ニ關シ本年四月孔祥熙ノ參政會常務委員會ニ對スル説明ニ依レハ歲出豫算六十億ナリシモ物價奔騰ノ爲實際ニハ百五十億ヲ要スヘク之ニ對シ稅收五億英米ヨリノ「クレヂット」換算約十五億ニテ右以外ハ結局公債ニ依リ賄フ外途無キ處從來ノ成績ヨリ豫想シ得ル民間ノ公債引受ハ精々五億程度ナレハ殘額約百二十億ノ公債ハ銀行引受トナリ結局法幣増發ヲ見九月現在發行高百五十億ニシテ年末ニハ二百億トナルヘク上海ノ遊資目下六七十億見當ナリ)外國借款等ノ臨時的手當ナク推移セハ財政八十ヶ月ヲ出テスシテ破綻スヘシトノ趣ナリシカ其ノ

後之カ対策トシテ勤儉貯蓄ヲ獎勵シ戰時公債購入運動ヲ勵行シタルモ效果ナキ爲(一)省政府財政ノ中央移讓(十月ヨリ實施)豫定地方財政ハ縣財政ノミトナル(二)中央政府ニ依ル田賦接收及田賦ノ實物徵收(法幣二元ニ對シ租二市斗。割合ニテ田賦ノ半額ハ租ヲ以テ徵收九月十六日ヨリ實施ス)(三)糧食庫券ノ發行(九月四日政府令ヲ發布三千萬石ノ貯米ヲ目標トシ購入ニ際シ三割ハ法幣七割ハ庫券ヲ以テ支拂フ五ヶ年分割拂ナリ)(四)專賣事業ノ創設(茶、鹽、酒、煙草、砂糖、燐寸ノ消費專賣方計畫中)(五)上海及香港ノ遊資吸收(却テ奧地ヨリ逆流スル傾向ニアリ)等ヲ準備又ハ實施中ナルカ(一)乃至(三)ハ省財政ニ賴レル地方軍閥ノ不滿ヲ買ヒ或ハ農民ノ負擔增加トナル結果軍事及行政ノ根本的破壞スラ誘發スヘキ幾多ノ由々シキ困難ヲ伴フヘキ一方財政ノ建直ニハ左シテ貢獻スルコトナカルヘシ「カリー」ノ調査ハ杜撰ナリシニ鑑ミ「フオックス」ハ各方面ニ付熱心ナル研究ヲ爲シ支那財政ハ根本的建直シテ要シ借款ニ依ル外國ノ一時的援助ハ救濟ノ途ニアラストノ結論ヲ得タルカ如ク蔣介石ハ引續キ専門家ヲシテ財政ノ再建ヲ計リ居ルモ妙案ナキ現情ナリ尙物資ハ

揚子江ニ於テハ宜昌ヲ扼サレ主要港灣我方ニ依リ占領乃至封鎖セラレ居リ「ビルマ」公路ハ軍需ヲ主トシ居ル外輸送機構紊亂シ居ル等ノ爲次第二窮乏シ前記惡性「インフレ」ト相俟ツテ本年ニ入り物價ノ奔騰特ニ著シク重慶ニ於テハ戰前ニ比シ本年三月米十三小麥砂糖及鹽十茶及棉花十八石炭三十一木炭四十五倍トナリ最近ハ例ヘハ「ウドン」一杯三元臘燭(蠟燭)一本六元皮靴三百元一人一ヶ月ノ生活費五百元食費ノミニテモ二百五十元ヲ要スル情況ナリ

二、所謂抗戰陣營ノ内幕ニ關シテハ一月江南新四軍ノ討伐ニ端ヲ發セル國共ノ衝突ハ對米氣兼ヲ主トスル重慶側ノ一時的妥協策及獨蘇開戰ニ伴フ中共側ノ對重慶要求緩和ノ爲目下小康ヲ得ツアルモ中共ハ國民黨ノ對日抗戰ヲ煽リ其ノ自滅ヲ計ラントスル根本策ヲ捨テタルモノニアラス又中原作戰ニ於ケル共產軍ノ不參加ハ中央軍將領ノ反共熱ヲ愈々高メ國共ノ摩擦ハ依然トシテ不絕唯々表面化セサル程度ト認メラルル一方中央軍ノ裝備ハ次第二低下シ且前線將兵ハ戰意ヲ缺クニ至リタルカ尙重慶ノ內部關係ニ於テモ單ニ政客ノミナラス實力派間ニ於テモ最近反

蔣反國民黨熱再燃シ來レル證左アリ殊ニ平和後ニ於テ自派勢力ノ地盤ヲ鞏メンカ爲策動シ居ル者ノ數ヲ増シタル情況ニシテ一旦抗戰止ミタル上ハ國共間ノ深刻ナル衝突カ表面化スヘキハ固ヨリ(信賴スヘキ情報ニ依ルニ最近毛澤東ハ國共合作ノ完成ハ國民黨ノ政策綱領ヲ中共力承認スルコトトナリ中共ノ存在理由ヲ失フヘキヲ以テ中共ハ國民黨ノ弱体化及自黨ノ發展ノ爲決シテ國民黨ト合作セサルヘシ但シ現國際情勢上衝突モ不利ナルニ付不即不離ノ關係ヲ持スルモノナル旨洩セル由)國民黨内ニ於ケルCC團ト藍衣社或ハ民主政治實現ニ絡ム國民黨對各黨各派或ハ又地方ト中央トノ抗爭乃至對立尖鋭化シ右ハ經濟復興ノ困難ナルト相俟ツテ支那ハ再ヒ内亂ノルツボトナルノ危険アリ而モ事變カ長引ケハ長引ク程愈右危険ノ原因カ深刻トナリ且増加スルノ情勢ニアリ各般ノ情報ニ依ルモ蔣介石モ右危険性ニハ頭ヲ悩マシ居ルカ如シ

三、日支和平ニ關シテハ中共力反對ナルヲ除キ從來抗戰ヲ強硬ニ主張スト噂サレタル陳誠及實力派ニ於テスラ茲數ヶ月以來反共ノ實行ヲ以テ對日和平ノ鍵トナシ自ラ此ノ鍵ヲ擱マントスル意ヲ洩ラセリト傳ヘラルル程ニテ政府モ

民衆モ内心速急和ヲ求ムル念強キモ表面抗戰ノ掛聲盛ナル爲公然ト和平ヲ論スルモノナク殊ニ日本トノ直接交渉ニ依り和平セントスル一派ハ南京政府ノ承認ニ依り此ノ希望ヲ絶タレ寧口逼息スルノ已ムナキ現狀ナルカ上海方面ニ於テハ最近ノ傾向トシテ既ニ重慶ト内密連絡ノ上和平運動ヲ起サントスル眞面目ナル連中スラアリ(蔣或ハ汪兆銘ノ何レニモ加盟セサル灰色運動ナリ)又重慶要人ニシテ引續キ同方面二人ヲ派シ極秘ニ日本トノ直接交渉ヲ求ムルモノモアル處(和平近シト見テ之ニ先鞭ヲツケ自派ノ擡頭ヲ計ル魂膽モアルコト勿論ナリ)然ルニ日米交渉ノ噂傳ヘラルルヤ一般ノ注意ト期待ハ殆ト全部之ニ集注セラレタル觀アリ現ニ蔣自身スラ米國ガ一言口ヲキクニ於テハ直チニ和平ニ乗出スヘシト洩ラシタル事實アル處(客年香港工作關係者ノ内報ニ依ル出所絕對極秘ノコト)右ハ抗戰四年民衆ノ塗炭ノ苦見ルニ忍ヒサルモノアルト前述内亂ノ原因ヲ早目ニ芟除スル必要アル外徹底の抗戰ヲ唱導セル關係上何等都合ヨキ平和ノキツカケヲ要スル處日支ノ友邦タル米ノ一言カ最モ之ニ適當ナリトノ判斷ニ基クモノナルヘキカ抗戰ノ繼續ハ民衆ノ苦痛

ヲ増シ勝利ノ望ハナク平和后内亂起ラハ支那自ラ日本ノ駐兵ヲ希望セサルヲ得サル事態發生スヘキ情勢ニ於テ日米交渉ニ多大ノ期待ヲカケルハ當然ナルヘク要スルニ重慶側ハ財政經濟抗戰陣營及國民ノ士氣ニ於テ多分ニ戰爭ノ末期症狀ヲ呈シ來レル情況ナリ(尙重慶側ハ日米交渉ニ關聯シ強ガリヲ宣傳シ居ルモ右ハ交渉ノ内容ヲ知ラサル爲米國力重慶ヲ賣ルコト無キヤヲ懸念セル爲ナルコトニ付テハ確實ナル情報ヲ得居リ之ヲ以テ彼等ノ眞意ト解釋スルハ妥當ナラス)

編注 本付記は、田尻參事官および矢野總領事の報告を元に東亜局が作成した文書で、対米交渉の参考として、昭和十六年十月二日發豊田外務大臣より在米國野村大使宛電報第六二二号として發電されたものと思われる。

387

昭和16年10月1日  
在中國本多大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

日米交渉の詳細開示なきにより罷免方要望に

こゝろ

南 京 10月1日後發  
本 省 10月1日後着  
(館長符號、極秘、大臣必親展)

貴電第四二四號拜誦「本使限りノ含迄」トノ御心ヲ込メタル御來示ナルモ本使稟請ノ主點ニ對シ何等要領ヲ得シムル態ノ御内示ニ接シ得サルヲ遺憾トス本使ニ對スル政府ノ信認動搖ヲ物語ル次第カトモ存セララルル處果シテ然リトセハ速ニ御召還ノ御電命相成様致度シ本使ニトリテモ此ノ重大時局下ニ尸位素餐徒ニ重職ヲ汚スノ誚ヲ免ルルヲ得ヘク幸ニ存スル次第ナリ

本使曩ニ閣下ノ御懇諭ニ依リ留任決定當時首相閣下ヨリ極メテ懇篤且過分ノ御挨拶ヲ賜リタル行懸モ有之二付要スレハ首相トモ御相談ノ上何分ノ御回示ヲ請フ

388

昭和16年10月4日  
在中國本多大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

近衛総理が影佐少将に託して汪主席に重要書簡を送付したとの情報の真相確認方請訓

南京 10月4日後発  
本省 10月4日後着

(館長符號、極秘、至急、大臣必親展)

近衛首相ハ歸任挨拶ノ爲九月二十六日何候ノ影佐少將ニ託シ極メテ重要ナル書面ヲ汪主席ニ送ラレタル事實アリ右書面ノ内容大至急首相閣下ヨリ御確メノ上本官へ御内電願度ニ日附貴電拜誦御懇篤ノ御來意感激ニ堪エス但シ前段ノ件ニ付明確ノ御回示ニ接スル迄ハ一日附電申立ノ趣旨ハ差當リ尙留保シ置クノ外ナキヲ遺憾トス

編注 『日本外交文書 日米交渉—一九四一年—』下巻第249、

254、264文書参照。

389 昭和16年10月4日 在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

蘭州での国共調整会議において両派の全面的  
合作につき意見一致を見たとの情報報告

上海 10月4日後発  
本省 10月4日夜着

第一八二〇號

往電第一七四六號ニ關シ

H Qニ依レハ蘭州國共會議ニ於テ中共側ヨリ政府及參政會ノ一部改組、未拂軍費ノ精算、反共運動ノ取消シ、民族統一戦線ノ結成強化等ニ關スル要求アリ種々協議ノ結果今後ノ全面的國共合作ニ關シ英米蘇三國ノ保障ヲ取付クルコトニ大體意見ノ一致ヲ見タルヲ以テ一先ツ會議ヲ打切り「ラチモア」ハ九月二十三日重慶ニ引返シ蔣ニ報告スルト共ニ之カ對策トシテ英米蘇三國ニ保證人トシテ代表ノ派遣方ヲ求メ團結強化、政府及參政會ノ改組ニ對スル各黨派ノ意見ヲ徴シ遅クトモ十二月中旬以前ニ更メテ西安ニテ國共正式會議ヲ開催スル方針ヲ決定シ更ニ之カ準備工作トシテ「ラ」、張群、張治中、王世杰、陳布雷ヲシテ夫々各黨派ノ了解工作ヲ開催セシムルコトトナリタルカ「ラ」ハ右目的ノ爲九月二十六日赴香セリ尙馮玉祥、胡宗南、葉劍英ハ其ノ後引續キ蘭州ニ居残り各地國共兩軍ノ對立緩和及衝突防止辦法ニ關シ協議續行中ノ由

南大、北大、滿、香港へ轉電セリ

390

昭和16年10月18日

在中国本多大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

東条新内閣の対南京政府態度に関し南京要路

へ説示について

南京 10月18日前発

本省 10月18日前着

第七三五號(大至急)

國民政府ト近衛公トノ特殊因縁ニ鑑ミ近衛内閣ノ辭職ハ國府側ニ多大ノ衝動ヲ與フルハ當然豫想セラルル處東條陸相ニ大命降下ノ報ニ接スルヤ本使ハ本使ノ國府強化政策カ終始東條陸相ヨリ熱誠強力ナル支持ヲ受ケ來リタル次第ヲ説キ東條内閣ノ對國府態度ニハ近衛内閣ト何等變更ナカルヘキ旨ヲ今夕來館員ヲシテ主ナル要人連ニ説カシメタル處汪主席滯京中陸相ト會談ノ印象モアリ彼等モ大體本使所感ニ同感ニテ只今ノ所格別ノ動搖ノ色モ見エス尙新内閣ニ於テモ恐ラクハ直ニ對米關係ノ破綻ヲ見ルカ如キコトナク政府ハ強硬ナル國內體制ヲ整ヘ毅然タル態度ニテ對米關係ニ善處スルナラント觀測シ居リタリ右ハ多分彼等ノ希望ヲ表示シ居ルモノト思ハルルモ御參考迄

香港、上海(總)、北大へ轉電セリ

391 昭和16年10月30日

在中国本多大使より  
東郷(茂徳)外務大臣宛(電報)

日米交渉の先行き不透明によって閣李工作

が停頓のやむなきに至っていると汪兆銘内

話について

南京 10月30日後発

本省 10月30日夜着

第七六六號(館長符號扱)

汪主席ハ二十八日歸任挨拶ノ爲往訪ノ日高公使ニ對シ日米會談ノ和平工作ニ及ホシツツアル影響等ニ關シ大要左ノ通り意見ヲ洩ラシタル趣ナリ  
日米會談ハ孰レカニ梟ヲ附ケラルル様致度シ現在折角當方ト聯絡ヲ始メタル閻錫山及李宗仁等ノ廣西派ハ日米會談ノ雲行ヲ見テ日和見ノ態度ヲ執リ此ノ方面ノ工作一時停頓ノ已ムナキニ立至レリ蓋シ彼等ハ日米妥協ニ依リ事變ノ解決ヲ望ミ得ラルルモノヲ何ヲ苦シミテ今俄ニ和平ニ参加スル必要アランヤ殊ニ今蔣介石ノ怨ヲ買ヒ置クトキハ重慶側ト

南京政府ト合流ノ際蔣ヨリ酷キ目ニ遭フヘシトノ危惧ヲ懷  
キ居レハナリ我々ハ彼等ニ對シテハ極力日本カ如何ナル態  
度ヲ以テ全面和平ヲ招來スルニセヨ國民政府ノ強化ハ其ノ  
中心の方策ナルヲ以テ今日國民政府ニ參加スルコトハ決シ  
テ無意義ニ非ス況ヤ我々カ他日蔣介石ニ打倒セラルルト云  
フカ如キハ絕對ニナキ所ナルニ於テヤヤ從テ斯カル取越苦  
勞ハ無用ナリト説得ニ努メツツアル状態ナリ

392 昭和16年10月30日

在太原田中総領事より  
東郷外務大臣宛(電報)

閻錫山との間に停戦の細目協定調印について

太原 10月30日後発

本省 10月31日前着

第一一五號(極秘、館長符號扱)  
往電第一〇五號ニ關シ

軍司令部重川參謀ヨリ聴取セル所左ノ通

客月十一日汾陽ニ於テ調印シタル基本竝ニ停戦協定ニ基キ  
當地ニ於テ閻側代表趙承綬以下八名ノ委員ト日本側楠山參  
謀長以下七名ノ委員ノ間ニ會談ヲ重ネタル結果去ル二十七

日左記要旨ノ通停戦協定ノ細目協定ニ調印セリ

一、吉縣ヲ中心トスル從來ノ山西軍地盤ノ外ニ汾南地區稷山、  
萬泉ノ二縣並河津、新烽二縣ノ半分及汾東地區浮山、澤  
沁<sup>○</sup>三縣ヲ山西軍ノ地盤トシテ承認ス

二、鐵道沿線地方兩側各五「キロ」ノ地區ニハ山西軍ノ進出  
ヲ許サス

三、山西軍ノ新地盤内ニ於テ既ニ日本軍駐屯スル以上所在地  
ニハ依然日本軍駐屯ス

四、兩軍ノ衝突ヲ避ケル爲相互ニ標識ヲ定メ地方治安ノ維持  
反共工作ニ彼我協力ス

南大、北大へ轉電セリ

393 昭和16年11月1日

在太原田中総領事より  
東郷外務大臣宛(電報)

軍費および武器支給に関する閻錫山との交渉

状況報告

太原 11月1日後発

本省 11月2日前着

第一一六號(極秘)



往電第一一五號ニ關シ<sup>(1)</sup>

重川參謀ヨリ聽取シタル參考事項左ノ通り

一、停戦細目協定商議ノ際閩側ハ基本協定中ノ五千萬圓ノ

「クレジツト」一千二百萬圓ノ軍費、十萬挺ノ武器支給

問題等ヲ執拗ニ主張シタルモ我方ハ直ニ實行出來サル事

情アリ極力之ヲ回避セリ

二、五千萬ノ「クレジツト」ハ先方モ諦メ居ルモノノ如ク軍

費一千二百萬圓ハ我方ハ法幣ヲ主張シ先方ハ聯銀券ヲ主

張シ居レリ

三、今後モ引續キ會談ヲ進ムル事トナリ居ル處軍費及武器ノ

問題ヲ多少容認スレハ閩ハ最後ノ肚ヲ決メ徹底的合作ノ

態度ニ出テ來ルヘシトノ見込着ケ居レリ

四、<sup>(2)</sup>陝西省境黃河西岸地區ニハ閩ノ經營ニ係ル紡績皮革製粉

等ノ工場十二箇所アリ(價格約一億圓)閩ハ目下是等財産

ヲ山西内ニ移動セシメツツアリ(閩工作遲延ノ一理由ト

看做サル)

五、閩ノ家族ハ全部既ニ吉縣ニ歸還セリ

六、我方ハ協定成立後實際黃河東岸地區獅<sup>〇</sup>子<sup>〇</sup>峽<sup>〇</sup>灘<sup>〇</sup>一帶ニ進出

シテ山西軍ノ背後ニ迫ル中央軍ノ脅威ヲ抑壓シテ山西軍

ノ完全保障ノ舉ニ出テ居レリ<sup>(安カ)</sup>  
支、北大ハ轉電セリ

394 昭和16年11月6日

日米交渉「甲案」の中国撤兵問題中で特に注意  
すべき諸点について

廟議決定ノ(三)(A)「支那ニ於ケル駐兵及撤兵」中

特ニ注意ヲ要スヘキ諸點

(十六、十一、六)

「支那事變ノ爲支那ニ派遣セラレタル日本國軍隊ハ北支及  
蒙疆ノ一定地域及海南島ニ關シテハ日支間平和成立後所要  
期間駐屯スヘク爾餘ノ軍隊ハ平和成立ト同時ニ日支間ニ別  
ニ定メラルル所ニ從ヒ撤去ヲ開始シ治安確立ト共ニ二年以  
内ニ之ヲ完了スヘシ

(註)所要期間ニ付米側ヨリ質問アリタル場合ハ概ネ二十五  
年ヲ目途トスルモノナル旨ヲ以テ應酬スルモノトス」

トノ廟議決定中左記諸點ハ内約及日支新條約成立ノ經緯及  
日米交渉ノ經緯竝ニ本決定成立ニ至ル迄ノ各種案文作成ノ

經緯等ニ鑑ミ尠クトモ外務省トシテハ(統帥部ハ日支條約ノ解釋ニ何等變化ナシト云フヤモ知レス)日支條約中關係條項ニ關スル日本側ノ解釋ニ對シ重大ナル決定ヲ與ヘタルモノトシテ之ヲ重視スルト共ニ日米交渉ノ推移如何ニ依リテハ右考方ヲ統帥部ニ十分徹底セシムルノ要アリト認ム  
(一)「……日支間平和成立後……平和成立ト同時ニ……」

内約及日支新條約ニ依レハ駐兵ニ三種ノ觀念アリ、即チ(1)防共駐兵(内約別紙第二「共同防共ノ原則ニ關スル事項」、基本條約第三條)(2)治安駐兵(内約別紙第二「共通ノ治安維持ニ關スル協力竝ニ撤兵ニ關スル事項」、基本條約第四條「共通ノ治安維持ヲ必要トスル間ニ於ケル駐屯」)及(3)共通ノ治安維持ノ爲メノ艦船部隊ノ駐留(内約別紙第二、基本條約第五條、附屬祕密協約)ノ三者之ナリ。(3)ニ付テハ暫ク之ヲ措クモ、日支交渉中最モ問題トナリタルハ治安駐兵ノ觀念ニシテ支那側ハ日本カ「治安」ノ名ニ隱レテ防共駐兵及艦船部隊ノ駐留ト同様殆ト永久ノ二支那ニ駐兵スルニ非サルヤヲ懸念セリ、從ツテ撤兵(治兵駐兵ナリ)開始ノ時期(後述)ヲ判定スヘキ日支兩國間ノ一般の和平關係ノ實質の内容如何カ論議ノ中

心トナリタル譯ニテ、内約ニ於テハ「日本ハ平和克復後約定以外ノ軍隊ノ撤兵ヲ開始シ……」ト、又附屬議定書ニ於テハ「兩國間ノ全般の平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ日本軍隊……撤去ヲ開始シ……」ト規定セラレ更ニ議事録ニ於テ

「兩國間ノ全般の平和克復シ戰爭狀態終了セル後ニ於ケル中華民國ノ治安ノ確立ハ日本國軍隊撤去完了ノ前提條件ヲ爲スモノナルヲ以テ日本國軍隊ハ治安確立ヲ見ル迄ハ撤去ヲ完了シ得サルハ勿論ナルノミナラス治安確立スルヤ即時日本國軍隊(日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約及兩國間ノ現行約定ニ基キ駐屯スルモノヲ除ク)ノ全部ノ撤去ヲ完了セシメントスルモ事實上其ノ不可能ナルコト明白ナリ仍テ日本國軍隊ノ全部的撤去ハ實際問題トシテ治安確立ノ時期ヨリ多少遅ルルコトトナルヘキモ如何ニ遅ルルトモ二年以内ニハ之ヲ完了スヘシ

右ニ關シ中國側交渉委員ハ左ノ通り陳述セリ  
日本側交渉委員陳述中「治安確立」トハ一般治安ノ確立換言スレハ戰爭狀態終了後ノ社會秩序カ能ク善隣

友好的の和平状態。ニ恢復スルニ至レルヲ謂フ

更ニ右ハ關シ日本側交渉委員ハ左ノ通り陳述セリ

日本側ハ治安不安定ニ名ヲ藉リテ故意ニ撤兵ヲ長引カシメントスル意思ヲ有スルモノニ非ス

ト記錄セラレタリ

然ルニ今次日米交渉ニ於テハ其ノ經過ニ徴スルモ明ナルカ如ク米國側ハ支那事變ニ關スル限り全面的撤兵ヲ主義トナシ居リ日本亦「北支及蒙疆ノ一定地域」(即防共駐兵)及海南島(即治安維持ノ爲メノ駐兵)以外ハ撤去スヘキコトニ緩和セル次第ナルヲ以テ治安駐兵ノ觀念ハ當然清算セラルヘク從ツテ又「治安」ノ根幹ヲナス「平和克復、戰爭狀態終了」ナル思想ハ實質の意味ヨリ本廟議決定ノ如キ形式的の意味ニ還元セラルヘキノニシテ換言スレハ本廟議決定ニ所謂「平和」トハ日米交渉妥決後、日本及蔣介石(或ハ支那統一政府)ノ兩代表者間ニ和平條件ノ「イニシアル」ヲ了シタル時ヲ指スモノト解スヘキ也、(尠クトモ右解釋ヲ執ラサレハ日米交渉モ日支直接交渉モ成立セサルヘシ)

(二)「……平和成立ト同時ニ……撤去ヲ開始シ治安確立ト共

ニ……」

内約及日支條約ノ條文中最モ不鮮明ナルハ撤兵(前記(1)及(3)ノ駐兵ニ關シテハ問題トナラス治安駐兵ノ撤兵問題タルコト前述ノ通り)開始ノ時期及完了ノ時期ナルカ内約ニハ「平和克復後……撤去ヲ開始シ治安確立ト共ニ二ケ年以内ニ之ヲ完了」トアリ又基本條約ニハ「兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ……撤去ヲ開始シ治安確立ト共ニ二年以内ニ之ヲ完了」ト規定シ居レリ所謂平和ナル觀念ノ實質の内容ニ關シテハ前記(一)ノ通ナルカ時期ノ點ニ關シ内約交渉ノ際支那側ハ「平和克復後」ノ「後」トハ「ト共ニ」ナル意味ナルコト及「治安確立ト共ニ」ノ「ト共ニ」トハ「後」ニ非シテ「ト同時ニ」ナル意味ナルコトヲ強硬ニ主張シ日本側亦「治安確立ト共ニ」ニ非シテ「治安確立後」ナルコトヲ強硬ニ主張シタル結果内約ノ條文中ニ所謂「治安確立ト共ニ」ナル字句ハ支那側ノ主張ヲ容レ其ノ儘トスルモ日本側ニ於テ右ヲ「治安確立後」ト解ストノ諒解ノ下ニ斯ク妥決シタル經緯アリ本問題ハ日支新條約交渉ノ際ニモ蒸シ返ヘサレタルカ結局前記ノ如キ文句トナレリ(支那文ハ戰

争状態終了時開始撤兵並應件。治安確立トシ伴ノ代リニ隨ノ字トスルコトハ之ヲ排撃セリ。汪精衛トノ交渉ニ當リテサヘ右ノ如キ經緯アリ日米交渉及日支直接交渉ニ當リテハ更ニ本問題ヲ繞リ幾多ノ議論豫想セラルル處吾人トシテハ前記(一)及後述(三)ノ通り本廟議決定ニ所謂「……ト同時ニ……」及「……ト共ニ……」ハ何レモ同時ト云フ意味ニシテ均シク撤兵開始ノ時期(即チ「ト同時ニ」ナル字句ハ「日支間ニ別ニ定メラル……」ニ懸ルニ非シテ「撤去ヲ開始シ」ニ懸ル)及完了ノ時期(即チ「治安確立」モ撤兵完了モ二年ニシテ實現サルトノ意味ニシテ更ニ平タク言ヘハ蔣介石ハ日本軍撤兵完了期間タル二年以内ニ治安ヲ確立スル様努力シ(内約及附屬議定書ニ在ル中華民國ハ本期間ニ於テ治安ヲ確立ヲ保障スナル字句ハ問題トナリタル文句ナリ)日本亦和平條件署名(一)參照(二)後二年經過セハ支那ノ治安ハ兎ニ角確立セラレタルモノト認定シ文句ヲ附ケヌト云フ意味ナリ)ヲ規定セルモノト解スヘキナリ

(三)「……日支間ニ別ニ定メラルル所ニ從ヒ……」  
從來ノ日支交渉ニ於テハ前記(一)ノ通り治安駐兵從ツテ

「和平」ノ實質の内容如何カ問題トナリタルヲ以テ撤兵ニ關シ「日支間別ニ定ムル所ニ從ヒ」ナル文句ヲ必要トセサリシ次第ナルカ(其ノ代リ駐兵ニ關シテハ内約及新條約中ニ「兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ」ナル字句散見ス)今次日米交渉ニ於テハ米國側ハ全面的撤兵ヲ建前トシ居リ又交渉成立ノ可能性ヨリスルモ撤兵ノ時期及完了ノ時期ハ(二)ノ通りナラサルヘカラサル義ナルヲ以テ此等ノ點ヲ考慮シ特ニ撤兵ニ關聯シテ「日支間ニ別ニ定メラルル所ニ從ヒ」ナル字句ヲ挿入セル次第ナリ。即チ日本ハ治安駐兵ノ觀念ヲ捨テ平和ノ成立ト同時ニ撤兵ヲ開始シ二年後治安ヲ確立ト同時ニ之ヲ完了スヘキモ、何シロ四年以上ニ亘リ大規模ノ戰鬪ヲナシタル結果トシテ、直チニ全部面ヨリ撤兵ヲ開始スルコトハ事實上不可能ナルヲ以テ上海停戰協定ノ例ニモアル如ク日支双方協議ノ上日本側ハ先ツ治安方回復シ且支那側ノ接防準備カ整ヒテ假令日本軍撤退スルトモ安心シテ撤兵シ得ル地域ヨリ漸ヲ追フテ撤去シ行カントノ趣旨ナリ。

以上(一)(二)(三)ノ如ク解釋シテコソ始メテ本廟議決定ハ其ノ意味明白トナリ且九月二十五日我方提案ヲ緩<sup>釋カ</sup>和セルモノトシ

テ今後ノ對米、對支交渉ニ役立ち得ル次第也

(四)參考(註)「……概ネ二十五年……」

永久駐兵ノ觀念カ緩和セラレタルハ一進歩ナルカ本註ニ關シテハ左ノ點注意ヲ要ス

本註中、北支及蒙疆ノ一定地域ニ於ケル駐兵ハ所謂防共駐兵ナルカ近衛聲明ハ「……日本ハ日獨伊防共協定ノ精神ニ則リ日支防共協定ノ締結ヲ以テ日支國交調整上緊要ノ要件トスルモノテアル而シテ支那ニ現存スル實情ニ鑑ミ此ノ防共ノ目的ニ對スル十分ナル保障ヲ舉クル爲ニハ同協定繼續期間中特定地點ニ日本軍ノ防共駐屯ヲ認ムルコト及ヒ内蒙地方ヲ特殊防共地域トナスコトヲ要求スルモノテアル」ト述ヘ右ニ對應シ汪精衛ハ所謂艷電ニ於テ「此ノ問題ハ過去數箇年ニ亘リ日本政府ニ依ツテ極メテ屢々提起サレ來ツタ併シ吾々ハ日本トスル防共提携ハ支那ノ軍事的竝ニ政治的問題ノ干渉ニ迄導ク可能性アリトシテ之ニ對シテ疑惑ノ念ヲ懷イテ來タカ日本カ日支防共協定ハ現存スル日獨伊三國防共協定成文ト同様ナ精神ニ於テ締結サルヘキ旨ノ極メテ卒直ナル言明ヲナシタ以上斯ル疑惑ハ今ヤ撤回サレテモ可ナリテアル」ト述ヘ居ル

ノミナラス昭和十四年十二月三十日「日支新關係調整ニ關スル協議書類」(内約)ノ機密諒解事項第一、ハ防共駐兵ノ地點ヲ決定セル外「防共駐兵期間ハ日支防共協定有效期間トス」ト規定シ居レリ。即チ防共駐兵ハ日獨伊三國防共協定ヲ基準トスル日支防共協定ノ締結ヲ前提トスルモノニシテ有効期間アリ右期間ハ前記聲明及ヒ内約ノ經緯ヨリスルモ日獨伊防共協定ト同様一應ハ五箇年間ニシテ終了シ更ニ更新セラルヘキヤ否ヤハ日支協議ノ上ニ定メラルヘキ性質ノモノニシテ二十五年ハ豫メ五回ノ更新ヲ豫想スルモノト云ハサルヘカラス

編注一 本文書は外務省で作成されたと思われるが、作成局課は不明。なお、「外機密」の印が押されている。

二 「甲案」については、『日本外交文書 日米交渉』一九四一年―下巻第291文書参照。

395

昭和16年11月17日

第七十七帝國議會における東条首相演説

## 臨時議會ニ於ケル東條首相演説

(十一月十七日)

現下重大ナル時局ニ際シ、第七十七回帝國議會開會セラレ、開院式ニ當リマシテハ、優渥ナル 勅語ヲ賜ハリ、洵ニ恐懼感激ニ堪ヘマセン。此ノ機會ニ於キマシテ政府ハ國策遂行ニ關シ、率直ニ所信ヲ披瀝シテ、各位ノ御協力ヲ願ヒ、舉國一體鐵石ノ意志ヲ以テ、現下未曾有ノ國難ヲ克服シ、以テ 聖慮ヲ安ンジ奉リ度イト存スルノデアリマス。

現下帝國ヲ繞ル世界ノ情勢ヲ按ジマスルニ、支那事變ハ御稜威ノ下忠誠勇武ナル將兵ノ奮闘ト、熱誠強靱ナル銃後ノ活動ト相俟ツテ赫々タル戰果ヲ收メ、重慶政權ノ抗戦力ハ日二月ニ低下シツツアリマス。又他方國民政府ノ建設ハ着々進捗シ、今ヤ多數ノ友好列國ハ國民政府ヲ承認シ、事變解決ハ最後ノ段階ニ到達シテ居ルノデアリマスガ、援蔣諸國ノ經濟的、軍事的策動ハ益々活潑トナリ、重慶政權ノ抗戦力ニ對スル唯一最大ノ支柱トシテ帝國ノ事變解決ヲ妨ゲテ居ル次第デアリマス。

更ニ北方ニ於テハ本年六月獨「ソ」開戦以來、事端漸ク滋カランコトヲ思ハシメ、事態ノ推移ハ帝國トシテ無關心

タルヲ得ザルモノガアリマスルノデ、我ガ北邊ノ安定ノ爲遺憾ナキ措置ヲ講ジツツアリマス。又、南方ニ於テハ昨年北部佛印ニ皇軍ノ進駐トナリ、次デ日・佛印ノ經濟協定、泰佛印ノ紛争調停等、帝國ト佛領印度支那トノ友好緊密關係ハ漸ク増進シ、南方ニ對スル帝國ノ平和的進展ハ漸ク其ノ緒ニ就カントシテ居リマシタガ、英米蘭諸國ノ軍事的竝ニ經濟的合作ノ強化ニ伴ヒ、蘭印トノ經濟交渉ハ不調ニ終リ、延テ南太平洋ニ於ケル帝國ノ地位ニ、重大ナル脅威ヲ及ボサントスルノ形勢トナリマシタノデ、帝國ハ「ヴィシ」政府ト日・佛印共同防衛ニ關スル取極メヲ爲シ、之ニ基キ七月末南部佛印ニ兵力ヲ増派セラルルコトトナリマシタ。然ルニ英米蘭諸國ハ此ノ帝國ノ當然ナル自衛の措置ヲ迎フルニ猜疑ト危惧トノ念ヲ以テシ、資産凍結ヲ行ヒ、事實上全面的禁輸ニ依リ、帝國ヲ目標トシテ經濟封鎖ヲ實施スルト共ニ、其ノ軍事的脅威ヲ急速度ニ増加シテ參ツタノデアリマス。蓋シ交戦關係ニアラザル國家間ニ於ケル經濟封鎖ハ、武力戦ニ比シテ優ルトモ劣ラザル敵性行爲デアアルコトハ言ヲ俟タナイノデアリマス。

斯ノ如キ行爲ハ帝國ノ企圖スル支那事變ノ解決ヲ阻害ス

ルノミナラス更ニ又帝國ノ存立ニ重大ナル影響ヲ與フルモノデアリマシテ斷ジテ默過シ得ザルモノデアリマス。

然ルニモ拘ラス常ニ平和ヲ欲スル帝國ト致シマシテハ隱

忍自重、忍ビ難キヲ忍ビ、耐ヘ難キヲ耐ヘ、極力外交交渉ニ依リテ危局ヲ打開シ、事態ヲ平和ノニ解決セシコトヲ期

シテ參ツタノデアリマスルガ今尙其ノ目的ヲ貫徹スルニ至ラス、帝國ハ今ヤ文字通り、帝國ノ百年ノ計ヲ決スベキ重大ナル局面ニ立タザルベカラザルニ至ツタノデアリマス。

政府ハ肇國以來ノ國是タル平和愛好ノ精神ニ基キ、帝國ノ存立ト權威トヲ擁護シ、大東亞ノ新秩序ヲ建設スル爲、今尙外交ニ懸命ノ努力ヲ傾注致シテ居ル次第デアリマシテ、之ニ依リ帝國ノ期スルトコロハ

(一) 第三國ガ帝國ノ企圖スル支那事變ノ完遂ヲ妨害セザルコト

(二) 帝國ヲ圍繞スル諸國家ガ、帝國ニ對スル直接軍事的脅威ヲ行ハザルコトハ勿論、經濟封鎖ノ如キ敵性行爲ヲ解除シ、經濟的正常關係ヲ恢復スルコト

(三) 歐洲戰ガ擴大シテ禍亂ノ東亞ニ波及スルコトヲ極力防止スルコトデアリマス。

以上三項ニ互ル目的ガ外交交渉ニ依リテ貫徹セラルルナラバ獨リ帝國ノ爲ノミナラス、世界平和ノ爲、誠ニ幸デアルト信ズル次第デアリマス。

然シナガラ從來ノ經緯ニ鑑ミ、交渉ノ成否ハ逆賭シ難イモノガアルノデアリマス。

從テ政府ハ前途ニ横ハルアラユル障害ヲ豫見シテ、之ニ對スル萬般ノ準備ヲ整ヘ、斷乎トシテ帝國既定ノ國策ヲ遂行スルニ萬遺憾ナキヲ期シ、依テ以テ帝國ノ存立ヲ完フセントスル固キ決意ヲ有シテ居リマス。帝國ハ實ニ悠久二千六百餘年ノ歴史ノ上ニ於テ、曾テ見ザリシ國家隆替ノ岐路ニ立ツテ居ルノデアリマスカラ、政府ハ深ク思フ此ニ致シ、全力ヲ盡シテ輔弼ノ責ヲ全フ致ス覺悟デアリマス。

事態ガ如何様ニ發展致シマセウトモ、高度國防國家體制ノ完成コソハ正ニ喫緊ノ重大要事デアリマス。之ガ爲ニ益々國民志氣ヲ緊張シ產業經濟ノ能率ヲ最高度ニ發揮スルノ要切ナルモノガアルノデアリマス。之ト共ニ政府ハ國民生活ノ確保ニ關シテハ萬全ノ策ヲ講ズルモノデアリマスガ、之ガ更ニ緊縮ヲ見ルコトハ誠ニ已ムヲ得ザル所デアリマス。私ガ茲ニ衷心ヨリ希望致シマスルコトハ、全國民ガ帝國ハ

今や一大飛躍ノ秋ニ際會シ、前途ニ洋々タル發展ヲ期待シ得ベキコトヲ確信シテ相共ニ今日ノ苦ヲ分チ、國民一丸トナツテ、聖業ノ翼賛ニ邁進センコトデアリマス。政府ニ於キマシテモ政治經濟ノ運営ニ就テ各般ノ改革整備ヲ行フ覺悟デアリマスルガ、其ノ實施ニ當リマシテハ徒ラニ理想ヲ追ハズ、事態ニ即シテ各専門の機能ノ有機的能率ヲ最大限ニ發揮セシムルヤウ措置致ス心構ヘデアリマス。

私ハ全國民ガ此ノ政府ノ意ノ存ズル所ヲ認識セラレ、積極的ニ政府ニ協力セラルコトヲ固ク信ジテ疑ハナイモノデアリマス。

今回提案致シマシタ豫算案ハ、主トシテ緊迫セル現下ノ事態ニ對處スルニ必要ナル經費ヲ計上致シタモノデアリ、又、提出法律案モ、特ニ今日緊急ノ要アルモノノミ限定致シタノデアリマス。

諸君ニ於カレマシテハ政府ノ意ノアル所ヲ諒トセラレ、慎重審議ノ上、協賛ヲ與ヘラレ度イノデアリマス。

終リニ臨ミ、政府ハ、滿洲帝國及中華民國國民政府ガ帝國ニ寄セラレタル替ラザル協力ニ深甚ナル謝意ヲ表シ、又盟邦特ニ獨伊兩國ノ偉大ナル功業ニ對シテ深厚ナル慶祝ノ

意ヲ表スルト同時ニ、帝國ト共ニ正義ニ基ク世界新秩序建設ニ成功センコトヲ祈ルモノデアリマス。

本大臣ハ此ノ重大時局ニ處シ、諸君ト相携ヘテ大政ヲ翼賛シ奉ルヲ深く光榮トスルト共ニ、責任ノ愈々重大ナルヲ痛感致ス次第デアリマス。惟フニ難局ノ突破、時艱ノ克服ハ全國民ガ職域奉公ニ邁進シ、國民ノ總力ガ結集セラレテ始メテ成就シ得ルト信ズルモノデアリマス。何卒諸君ニ於カレマシテモ此上トモ御支援御協力ヲ御願ヒ致ス次第デアリマス。

最後ニ、護國ノ英靈ニ敬弔ノ誠ヲ捧ゲ、戦線銃後ノ奮闘努力ニ衷心感謝ノ意ヲ表スルモノデアリマス。

396 昭和16年11月28日 在上海堀内総領事より  
東郷外務大臣宛(電報)

日米交渉に關して経緯を説明し重慶政權の意向を聴取するため米國が重慶に使者を派遣したとの情報報告

上海 11月28日後発  
本省 11月28日後着



第二一八一號

二十七日J K來電一括左ノ通り

一、米國上院外交委員會代表「ハント」大佐ハ香港經由空路

二十二日重慶ニ到着セルカ同人ハ「ルーズベルト」ヨリ

「ラチモア」ニ宛テタル親書ヲ携行シ居リ其ノ使命ハ重

慶ニ對シ日米會議ノ内容ヲ通報スルト共ニ其ノ意嚮ヲ微

スルニ在ル由

二、「ハル」ハ蘇聯大使ニ對シ日米會談ハ米國ノ援蘇政策ヲ

弱ムルモノアラサル旨ノ(脱)ヲ與ヘタルカ第二次蘇聯派

遣軍事代表團ハ既ニ「アラスカ」經由入蘇セル趣ナリ

三、「ゴウス」ハ本國政府ノ訓令ニ基キ日米會談ノ成行ヲ重

慶ニ通告セル由軍事顧問トシテノ計畫ハ從前通り進行中

ナルカ日本側ニテ米國委員ノ提案容レラルル場合ハ「カ

リー」再來華スルコトトナル模様ナリ

南大へ轉電セリ



397

昭和16年11月28日

在上海堀内総領事より  
東郷外務大臣宛(電報)

日米交渉が最終段階に至ったとの感を強める

上海の報道振りにつき報告

上海 11月28日後発

本省 11月28日夜着

第二一八三號

日米會談ニ關スル各地通信ハ引續キ當地各紙ニ「トツプニ

ユース」トシテ掲載セラレ居ル處特ニ二十六日「ハル」長

官カ野村、來栖兩大使ニ對シ日本ノ樞軸離脱支那撤兵南京

政府支持放棄ヲ主張セルヤノ文書ヲ手交セル旨竝ニ華府官

邊筋ニテハ會談決裂セハ日本軍ハ數日中ニ「タイ」及緬甸

攻撃ヲ開始スヘシト觀測セラレ居ル旨ノ二十七日華府「ユ

ーピー」ヲ初メ重慶側ハ一般ニ米國ハ支那ヲ賣ルカ如キコ

トヲ爲サス又日本ノ緬甸攻撃ノ場合英米ハ全面的對支援助

ヲ爲スヘシトテ米國ヲ信賴スルト共ニ樂觀氣分ヲ有シ居ル

旨ノ同日重慶「ロイター」及「タイ」國政府ハ太平洋ノ危

機ニ際シ長時間閣議ヲ開催シ又「ラジオ」ヲ通シテ國民ノ

覺悟ヲ促ス所アリタル旨ノ同日「スラバヤ」發「ユーピ

ー」「ロイター」電ハ「マリーソン」ノ當地引揚記事竝ニ二

十七・二十八日兩日各紙ニ目立ツテ大キク報道セラレ愈々

日米關係最後ノ段階ニ立入りタリトノ感ヲ一般ニ與ヘ居レ

り  
南大、北大、香港、河内へ轉電セリ

398

昭和16年12月3日

在北京土田大使館參事官より  
東郷外務大臣宛(電報)

国際情勢急転の場合のわが方対処方針につき  
方面軍および興亜院側と意見交換について

北京 12月3日後發  
本省 12月3日後着

第七六三號(館長符號扱、部外極秘)  
南總外信

一、十二月一日及二日ノ兩日ニ亘リ北澤ハ北支方面軍有未參謀副長參謀部第四課西村課長及片山主任參謀竝ニ興亞院連絡部鹽澤長官ニ夫々面會シ國際情勢ハ明日ニモ急轉ヲ測リ難キ情勢トナリタルカ愈々戰爭勃發ノ場合ニハ今回ノ戰爭ハ帝國ノ興廢ノ岐ルル所ナレハ從來ノ經緯ヤ局地的問題等ニ徒ニ拘泥スルコトナク只管勝ヲ制シ且我ニ最モ有利ナル情況ニ於テ速ニ局ヲ結フコトニ全力ヲ傾注スルノ絶對肝要ナルハ申迄モナク從テ當方面ニ於ケル施策

ニ付テモ右ノ大局の見地ヨリ新タナル考慮ヲ加フルノ要アリ例ヘハ(イ)今回ノ戰爭ハ眞ニ帝國ノ存立ト尊嚴ヲ擁護スル爲ノ正義ニ基ク戰爭ナルコトヲ内外ニ向ツテ明カニシ以テ内國民ノ「モラル」ヲ一層強化シ外世界ノ輿論ヲ我ニ引キ付ケ戰爭ノ遂行乃至和機ヲ擱△際ニ於ケル我ノ立場ヲ出來得ル限り有利ナラシメ就中南方諸民族ハ我方ニ誘致シテ英米ノ後方牽制ニ資スルノ要アリ此ノ爲ニハ戰爭勃發ノ際ニ於ケル當方面ノ各種施策ニ付出來得ル限り國際法ニ準據シ苟モ火事泥的ノ印象ヲ外國側ニ興ヘ一時ノ利益ノ爲ニ信ヲ世界ニ失フカ如キコトナキ様留意スルノ要アルコト

(ロ)我ニ有利ナル情況ニ於テ速ニ局ヲ結フニハ結局日露戰爭ニ於ケル「ルーズベルト」大統領ノ如キ仲裁者ヲ要スト認メラルル處現在考ヘ得ルハ羅馬法王位ナレハ早キニ及ンテ法王ニ對スル工作ヲ考慮シ置クノ要アルヘク此ノ見地ヨリモ今回ノ戰爭ニ於ケル帝國ノ立場ハ正義ニ立脚スルモノナルコトヲ實證シ支那ニ於ケル教會其ノ他敵性文化施設等ノ取扱ニ付テモ特ニ手心ヲ加フルノ要アルコト(ハ)今回ノ戰爭ニハ帝國ハ全力ヲ擧ケテ之ニ充當スルノ

要アルハ勿論ニテ從テ支那ニ於ケル我ノ負擔ハ出來得ル  
限り之ヲ輕減シ力ヲ節約スルニ努メサルヘカラス依テ政  
治經濟其ノ他ノ分野ニ於テ支那側ニ委セ得ルモノハ成ル  
ヘク支那側ニ委セ旁々支那側ノ民心把握ニ資スル様留意  
スルノ要アルコト(二)今回ノ戰爭ハ日支事變以上ノ長期戰  
ヲ豫想セラルルヲ以テ物資ノ確保ニ重點ヲ指向スルヲ要  
シ從テ支那ニ於ケル敵地經濟封鎖、物資蒐集ノ方法等ニ  
付テモ新ナル見地ヨリ考慮ヲ廻ラスノ要アルコト等ノ  
趣旨ヲ敷衍説明シタルニ

二、<sup>(3)</sup>軍側ニ於テハ(イ)出來得ル限り國際法ニ準據スル様措置ス  
ヘキハ勿論ニシテ此ノ上トモ大使館側ト密接ナル聯絡ヲ  
取ルコトト致度シ殊ニ教會等ノ保護ニ付テハ軍ニ於テモ  
充分考慮シ居リ現ニ出先兵團等ノ教會ニ對スル行過キタ  
ル計畫ヲ抑ヘ居ル實情ニテ此ノ點ニ付テハ此ノ上トモ注  
意スヘキコト(有末ハ當地法王廳使節トハ密接ナル聯絡  
アリト言ヘリ)(ロ)今回ノ戰爭ノ進行情況ニ付テハ種々ノ  
想定ヲ爲シ得ル譯ニテ凡ユル場合ヲ考慮シテ北支ニ於ケル  
ル政治指導ニ付テモ再檢討ヲ加ヘツツアル次第ニテ此ノ  
點ハ總軍ニモ協議シ居リ近ク主任參謀南京ニ赴クヘキコ

ト(有末ハ支那側ニ委スコトハ自分ハ素々贊成ニテ其ノ  
心持ニテ進ミ來レルカ支那側ニ委スニ付テモ支那側ニ日  
本カ弱リタル結果ト看ラレサル様注意スルノ要アリト言  
ヘリ)(ハ)物資確保ノ要アルコト勿論ナルカ敵地經濟封鎖  
ノ緩和等ニ付テハ凡ユル角度ヨリ檢討スルヲ要スルコト  
等ヲ述ヘ

三、鹽澤ハ概ネ同感ノ意ヲ表シ戰爭勃發後ニ於ケル北支政治  
指導ニ付テハ軍側トモ密ニ聯絡シ種々研究シ居ル旨述ヘ  
タル趣ナリ

南總、上海へ轉電セリ

399 昭和16年12月6日 大本營政府連絡會議諒解

「帝國國策遂行要領ニ關聯スル對支措置」ニ  
基キ國際情勢急轉ノ場合支那ニ於テ執ルヘキ  
措置」

十一月十三日連絡會議決定「帝國國策遂行要領ニ  
關聯スル對支措置」<sup>(編註)</sup>ニ基キ國際情勢急轉ノ場合支  
那ニ於テ執ルヘキ措置

(欄外記入)

昭一六、一二、六  
連絡會議諒解

一、在支英國租界ニ對シテハ下令ト共ニ所要ノ兵力ヲ進駐シ  
我カ占領下ニ之ヲ把握ス但シ努メテ現機構ヲ利用シ之カ  
運營ニ當ルモノトス

二、上海共同租界及北京公使館區域ニ對シテハ下令ト共ニ兵  
力ヲ進駐セシムルモ右進駐ニ當リテハ所要ノ限度ヲ越ユ  
ルコト無ク努メテ靜謐ヲ旨トシ能フ限り混亂動搖ヲ生セ  
シメサル様措置スルト共ニ帝國領導下ニ努メテ現有機構、  
施設及人員竝ニ支那側等ノ各種機關ヲ利用シテ諸般ノ圓  
滑ナル運營ヲ續行セシムルモノトス

廈門共同租界ニ付テハ右ニ準スルモノトス  
三、佛國租界ニ對シテハ差當リ兵力ヲ進駐セシメス事態ノ推  
移ニ即應シ我方ヨリ租界當局ニ對シ所要ノ協力強化ヲ要  
求スルモノトス

今後ノ情勢如何ニ依リテハ佛國側ノ同意ヲ得タル上兵力  
ヲ進駐セシム  
四、敵國系權益ノ處理ハ原則トシテ帝國自ラ之ヲ行フ

右處理ニ當リテハ我方施策ト併行シ別ニ國民政府ヲシテ

所要ノ聲明ヲ發セシムル等中央政府トシテノ同政府ノ立  
場ヲ保持セシムル如ク努ムルモノトス

海關ニ關シテハ現機構ヲ保全シ努メテ其ノ機能ヲ停止セ  
シメサル如ク措置スルモノトス

國民政府ヲシテ適時邦人主席稅務司<sup>(首)</sup>ヲ總稅務司ニ任命セ  
シメ總稅務司署ヲ接收セシムルト共ニ海關全體ニ亘リ所  
要ノ敵性職員ヲ排除シ帝國ノ掌握下ニ於テ經濟施策強化  
ニ寄與セシムルモノトス

六、郵政ニ關シテハ國民政府ヲシテ所要ノ敵性職員ヲ排除セ  
シムルモ郵政機能ノ圓滑ナル運行ヲ阻害セシメサル様留  
意スルモノトス但シ郵便ハ軍ニ於テ所要ノ檢閲ヲ實施ス  
七、英米蘭人竝ニ其ノ權益ハ努メテ公正ニ之ヲ取扱ヒ我方監  
視下ニ於テ其ノ逃散ヲ防止スルト共ニ之カ利用ニ努ムル  
モノトス

八、英米蘭ノ外交官及領事官竝ニ大公使館及領事館ニ對シテ  
ハ其ノ特權ヲ認メス其ノ職務ヲ停止セシム

國民政府ヲシテ帝國ト同政府トノ關係及未承認等ヲ理由  
ニ我方ニ準シ適宜措置セシム

九、帝國ノ開戦ニ當リ國民政府ハ差當リ之ヲ參戰セシメス事

實上帝國ト緊密一体ノ施策ヲ行ハシム

十、國民政府ヲシテ我方ト緊密ナル協力ノ下ニ世界長期戰ニ對處スヘキ帝國ノ負擔輕減ニ寄與セシムル爲既定方針ニ則リ國民政府ヲ育成強化シ以テ其ノ自主的活動ヲ誘導促進スルニ努ム

十一、國民政府ヲシテ今次戰爭ノ眞意義ヲ一般ニ徹底セシムル爲帝國ト緊密ナル協力ノ下ニ啓蒙宣傳ニ努メシムルト共ニ極力民生ノ安定ニ力ヲ致シテ一般官民ノ動搖ヲ防止シ進ンテ民心ヲ把握セシムル様措置ス

十二、對支經濟施策ニ當リテハ我方自給圈ニ於ケル綜合經濟力ノ保持増進ヲ目標トシ現地生産力ノ活用、地場資本ノ誘導、必需物資ノ増産獲得等ニ重點ヲ置キ之力爲必要ナル各般ノ措置ヲ講スルモノトス

備考

前諸項中國政府ト關係アルモノニ付テハ事前ニ同政府ト緊密ニ連絡スルモノトス

(欄外記入)

案ノ内容ハ現地三機關ニ於テ大体意見一致シ居ルモノニテ本案

ノ内容ニ關シテハ陸海軍トモ異議ナシ但シ右様ノ次第二付改メテ連絡會議決定トスル必要モナカルヘシトノ陸海軍務當局ノ氣持ナリ

編注 「帝國國策遂行要領」は、『日本外交文書 日米交渉』

一九四一年』下巻第296文書付記一。

「帝國國策遂行要領」ニ關聯スル對外措置」は、『日本外交文書 太平洋戰爭』第一冊第2文書付記一。

400 昭和16年12月7日 在中国日高臨時代理大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

開戦の場合に汪兆銘へ説明すべき開戦理由の  
詳細回示方請訓

南京 12月7日後発  
本省 12月7日後着

第八六一號(極秘、館長符號)

總軍ニ於テハ南方ニ於ケル軍事行動開始ト同時ニ汪主席ヲ總司令官々邸ニ來訪ヲ求メ開戦ノ事實ヲ説明スルト共ニ日米外交經過及樞軸國ニ對スル態度ニ付テハ大使ヨリ説明ノ

コトニ手配濟ナル處本使モ亦直ニ汪主席ヲ往訪ノ豫定ナルモ今日迄ノ來電ノミニテハ開戦セサルヘカラサル事情ニ關シテハ未タ充分汪主席ヲ納得セシメ得サルモノアリ且米國側モ必ス宣傳的公表ヲ行フヘキニ付何レ開戦ト同時ニ政府ニ於テ御發表モアルコトトハ存スルモ汪主席モ新聞ニ依リテ始メテ事情ヲ知ルコトハ締盟國ノ元首トシテ如何ニモ水臭キ感ヲ受クヘキニ付今後ノ協調上ノ必要ヲモ御考慮ノ上本使ヨリノ説明ノ際ニモ充分打明ケテ從來ノ經過及樞軸國關係ニ付説明致度シ應酬振何分ノ儀至急御回電ヲ請フ尙閣下ヨリ汪主席ヘノ御傳言ハ五日中村參事官ヨリ傳達セリ

401 昭和16年12月7日 在中国日高臨時代理大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

開戦の際の南京における敵国人關係具體的対

策決定について

別電一 昭和十六年十二月七日發在中國日高臨時代理

大使より東郷外務大臣宛第八六三三號

右具體的対策

二 昭和十六年十二月七日發在中國日高臨時代理  
大使より東郷外務大臣宛第八六四號  
敵国領事への事務停止方通告案

第八六二號(大至急、極秘)

南京 12月7日後發  
本省 12月7日夜着

時局急轉ノ際當地ニ於ケル敵国人關係具體的對策ニ付テハ努メテ公正ニ取扱ヒ在敵國我方在留民ニ對スル取扱振ニモ惡影響ヲ來ササル様中央ノ御趣旨ヲ帶シ當地軍側共協議ノ上別電第七六三號及第八六四號ノ通り決定實施スルコトニ手配ヲ定メ居ルニ付右御諒承相成度シ

尙本電及別電共ニ軍事上ノ機密ニモ亘ルモノアルニ付取扱特ニ注意アリタシ

(別電一)

南京 12月7日後發  
本省 12月7日夜着

第八六三號(大至急、極秘)

(一)敵国人ニ對スル措置

(イ) 敵國領事ノ職務停止

帝國ト某々國ト交戰狀態ニ入りタル際ハ直ニ帝國總領事(領<sup>軍</sup>以下同様)ヨリ在南京敵國領事ニ對シ別電第八六四號事務停止ノ公文ヲ手交シ(軍係官同伴)左ノ通措置ス

- (1) 領事館(大使館、以下同様)備附ノ無線通信ノ使用ヲ即時禁止シ通信機ヲ封印シ又ハ引渡サシム
- (2) 暗號 敵ノ發受禁止
- (3) 平文 電信竝ニ通信ノ發受ハ總テ許可(豫メ總領事ト協議)
- (4) 保護及監視ノ爲所要人員(軍係官及帝國總領事館員)ヲ領事館ニ派遣ス
- (5) 領事館事務所ヲ閉鎖セシム
- (6) 電話使用停止(電話局ニテ交換ヲ停止ス)
- (7)<sup>3)</sup> 國旗掲揚禁止
- (8) 領事竝ニ館員ハ從來通り領事館内ニ居住セシムルモ外部(敵國人中立國人ヲ含ム)トノ接觸ハ軍ノ許可ヲ要ス(會見ノ際ハ帝國官憲立會フ)外出ハ監視シ旅行ハ軍ノ特別許可ヲ要ス

(9) 支那人事務員、通譯ノ往來ハ許可ヲ要ス

(10) 支那人「ボーイ」、「コック」等ニハ軍ヨリ證明書ヲ發給ス(領事及館員ノ個人生活以外ノ事ニ關與セサル様豫メ嚴重警告)

(11) 領事及館員ノ引揚ニ付テハ帝國官憲ノ指導ニ從フ

(12) 引揚後ノ事務所、住宅ハ封印シ保護スヘシ

(ロ)<sup>3)</sup> 一般敵國人

(1) 我方ニ有害ナル行爲ヲ爲ササル旨ヲ特ニ宣誓セシメ轉居旅行ハ軍ノ許可ヲ要ス

(2) 郵便物ハ檢閲シ平文電報ハ許可制トス

(3) 國旗ノ掲揚禁止

(4) 一般敵國人ノ監視

(5) 集會講演等禁止

(6) 宣教師ニ對シテハ時局問題ハ論議セサル様警告シ竝ニ教會學校ノ授業ヲ許可ス

(7) 一般敵國人使用支那人ニハ身分證明ヲ發給シ當分ノ現狀ノ儘使用セシム

(ハ) 敵國權益

(1) 國有財産タル領事館ハ領事退去後ハ封印シ尊重保護

シ軍用ニ使用セス

(2) 私有財産中軍用ニ使用シ得ルモノハ特ニ必要トスル場合ハ押收徴發スルコトアリ然ラサルモノハ原則トシテ手ヲ付ケス

(3) 教會、學校、病院ハ原則トシテ其ノ儘

(二) 第三國人關係

(1) 第三國領事ハ帝國總領事ヨリ口頭ヲ以テ敵國領事ノ職務執行停止ノ通告ノ要旨ヲ轉達ス

(2) 第三國一般在留民ニ對シテハ特ニ別段ノ措置ヲ執ラス從來通リトス但シ要注意人物及準敵國人ニ對スル監視ヲ強化ス

(別電二)

南京 12月7日後發

本省 12月7日夜着

第八六四號(大至急、極祕)

貴我兩國間ハ既ニ交戰狀態トナリタルヲ以テ南京防衛司令官ヨリ軍事上ノ必要ニ依リ何月何日ヨリ貴官ノ領事トシテノ職務ノ執行ヲ停止スヘキ旨貴官ニ通告方申越アリタルニ

付右茲ニ傳達致シ候